2024（令和6）年度　現代文化学部シラバス

こども文化学科

基礎科目（必修）

科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
19JUN101	現代文化セミナー	1	22LIT102	アカデミック・ライティング	2	22FLG101	英語Ⅰ	1
19LIT101	純心チュートリアル	1	22JUN104	Humanities Basics	2	22FLG102	英語Ⅱ	1
22JUN102	キリスト教学A	1	22JUN105	純心平和学	3	22HUM101	情報処理	1
22JUN103	キリスト教学B	1	19NUR101	健康の科学	2			

基礎科目（選択）

科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22EDU101	生涯スポーツA	1	22HUM103	情報処理検定	1～4	22HUM109	宗教学	2～4
22EDU102	生涯スポーツB	1	22JUN108	合唱音楽	1～4	22JUN110	キャリアセミナー	2～4
22HUM102	日本国憲法	1	22HUM104	パイプオルガンA	1～4	22PRC107	キャリアインターンシップA	2～4
22NUR101	健康の科学	2	22HUM105	パイプオルガンB	1～4	22PRC108	キャリアインターンシップB	2～4
22LIT103	文章表現法	1～4	22PRC101	言語文化海外実習A	1～4	22PRC109	キャリアインターンシップC	2～4
22JUN106	Science Basics	1～4	22PRC102	言語文化海外実習B	1～4	22HUM106	音楽療法	3～4
22JUN107	人間とアート	1～4	22PRC103	言語文化海外実習C	1～4	22HUM107	美術療法	3～4
22HUM108	文化人類学	1～4	22PRC104	リベラルアーツ実習A	1～4	22PSY301	臨床心理学	3～4
22FLG103	Listening & Speaking	1～4	22PRC105	リベラルアーツ実習B	1～4	22LIT104	読書論A	2～4
22FLG104	Reading & Writing	1～4	22PRC106	リベラルアーツ実習C	1～4	22LIT105	読書論B	2～4

専門科目（必修）

科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NUR201	保育原理	1	22EDU204	こどもと人間関係	2	22CHI303	こども文化セミナーAb（田中路）	3
22NUR202	教育原理	1	22EDU205	こどもと環境	2	19CHI304	こども文化セミナーBa（井上）	4
22CHI201	こどもと多文化共生	3	22EDU206	こどもと健康	3	19CHI304	こども文化セミナーBa（大竹）	4
19CHI202	児童文化論	1	22EDU213	特別な支援を要する子どもの理解と支援	3	19CHI304	こども文化セミナーBa（田尻）	4
22ART201	造形基礎Ⅰ	1	22CHI301	あそび文化	2	19CHI304	こども文化セミナーBa（田中路）	4
22ART202	造形基礎Ⅱ	1	22CHI302	こども文化セミナーAa（井上）	3	19CHI304	こども文化セミナーBa（増田）	4
22ART203	こどもと造形表現	1	22CHI302	こども文化セミナーAa（大竹）	3	19CHI304	こども文化セミナーBb（井上）	4
22EDU201	こどもと音楽表現A	1	22CHI302	こども文化セミナーAa（田尻）	3	19CHI304	こども文化セミナーBb（大竹）	4
22EDU202	こどもと音楽表現B	1	22CHI302	こども文化セミナーAa（田中路）	3	19CHI304	こども文化セミナーBb（田尻）	4
22PSY201	発達心理学	1	22CHI303	こども文化セミナーAb（井上）	3	19CHI304	こども文化セミナーBb（田中路）	4
22CHI203	児童文学論	2	22CHI303	こども文化セミナーAb（大竹）	3	19CHI304	こども文化セミナーBb（増田）	4
22EDU203	こどもと言葉	2	22CHI303	こども文化セミナーAb（田尻）	3	19CHI306	卒業論文・制作・研究	4

専門科目（選択・課程必修）

科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NUR401	社会福祉	1	22NUR420	保育者論	3	22CHI307	こども文化特講A	1～4
22NUR402	子ども家庭福祉	2	22NUR421	保育カリキュラム論	3	22CHI308	こども文化特講B	1～4
22NUR403	保育内容演習・表現	1	19PSY203	教育相談	4	22CHI309	こども文化特講C	1～4
22NUR404	保育内容演習・言葉	1	19NUR422	保育内容総論	4	22CHI310	こども文化特講D	1～4
22NUR405	保育内容演習・健康	2	19NUR423	教職・保育実践演習	4	22CHI311	こども文化特講E	1～4
22NUR406	保育内容演習・人間関係	2	22NUR436	保育フィールドワークA	2～4	22CHI312	こども文化特講F	1～4
22NUR407	保育内容演習・環境	2	22NUR437	保育フィールドワークB	1～4	22CHI313	こども文化特講G	1～4
22NUR408	保育方法論	2	19NUR203	在宅保育論	4	22CHI314	こども文化特講H	1～4
22NUR409	こどもの理解と援助	3	22CHI204	野外文化活動	1	22CHI315	こども文化特講a	1～4
22NUR410	社会的養護Ⅰ	1	22EDU207	リトミックⅠ	1	22CHI316	こども文化特講b	1～4
22NUR411	社会的養護Ⅱ	2	22EDU208	リトミックⅡ	1	22CHI317	こども文化特講c	1～4
22NUR412	乳児保育Ⅰ	2	22NUR204	ピアノ表現法Ⅰ	1	22CHI318	こども文化特講d	1～4
22NUR414	子どもの保健	2	22NUR205	ピアノ表現法Ⅱ	1	22EDU209	リトミックⅢ	2～4
22NUR415	子どもの食と栄養A	2	22NUR206	ピアノ表現法Ⅲ	2	22EDU210	リトミックⅣ	2～4
22NUR413	乳児保育Ⅱ	3	22NUR207	ピアノ表現法Ⅳ	2	22EDU302	ピアノ表現法Ⅴ	3～4
22NUR417	子どもの健康と安全	2	22NUR301	言語表現活動	3	22EDU303	ピアノ表現法Ⅵ	3～4
22NUR416	子どもの食と栄養B	3	22ART204	舞台表現A	1～4	19EDU304	ピアノ表現法Ⅶ	3～4
22NUR418	子ども家庭支援論	3	22ART205	舞台表現B	1～4	19EDU305	ピアノ表現法Ⅷ	3～4
22NUR419	子育て支援	3	22ART206	造形表現A	1～4	22CHI319	多様性の理解	3
22PSY202	子ども家庭支援の心理学	2	22ART207	造形表現B	1～4	22CHI320	比較文化・文学	3
22EDU301	教育制度	3				22CHI321	文化史と多文化共生	4
						22CHI322	共生社会論	4

実習・実習指導（選択・課程必修）

科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NUR424	保育実習Ⅰ（保育所）	2	22NUR428	保育実習Ⅱ（保育所）	3	22NUR432	教育実習（幼Ⅰ）	3
22NUR425	保育実習指導Ⅰ（保育所）	2	22NUR429	保育実習指導Ⅱ（保育所）	3	22NUR433	教育実習指導（幼Ⅰ）	3
22NUR426	保育実習Ⅰ（施設）	3	22NUR430	保育実習Ⅲ（施設）	3	19NUR434	教育実習（幼Ⅱ）	4
22NUR427	保育実習指導Ⅰ（施設）	3	22NUR431	保育実習指導Ⅲ（施設）	3	19NUR435	教育実習指導（幼Ⅱ）	4

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	純心チュートリアル	担当教員名	小泉左江子				
コード	19LIT101	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教職課程 必修	選択	
			○				
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

レポート、論文等を作成する際の初歩の情報収集術、情報処理術およびこれにともなうリテラシーを身につけるとともに、インプットしたものをアウトプットする技、すなわちレポート、論文作成の初歩的な技術および発表方法(レジュメ、パワーポイント、口頭発表)を学び、演習をとおして実践する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー		
		①	②	③
1	大学生として求められるリテラシー、研究倫理、および情報収集術、ライティング技術の初歩を習得することができる。	○		

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	導入:授業概要、授業の進め方、評価方法等 キーワードカード、書誌カード作成法(奥付の意味と見方)	予習(30分): シラバスを熟読し、授業に関連した書物を読む。 復習(60分):事後学習として、指定された箇所を読み復習すること。
2	SNSの諸側面 大学生に求められる研究倫理 情報収集の方法 1:図書館利用術 総論(図書館2F集合)	予習(30分): シラバスを熟読し、授業に関連した書物を読む。 復習(60分):事後学習として、指定された箇所を読み復習すること。
3	情報収集の方法 2:図書館利用術 百科事典・専門事典の使い方 (図書館2F集合)	予習(30分): シラバスを熟読し、授業に関連した書物を読む。 復習(60分):事後学習として、指定された箇所を読み復習すること。
4	情報収集の方法 3:図書・雑誌論文等の検索条件の設定と資料の 取捨選択 (図書館2F集合)	予習(30分): シラバスを熟読し、授業に関連した書物を読む。 復習(60分):事後学習として、指定された箇所を読み復習すること。
5	テクストの読み方	予習(30分): シラバスを熟読し、授業に関連した書物を読む。 復習(60分):事後学習として、指定された箇所を読み復習すること。
6	パラグラフ・リーディング	第6回時配布資料について、各パラグラフに見出しをつけ、キーワードカードを作成すること (第6回の事後・90分) ←第7回授業時に回収、添削後返却・講評
7	レジュメ、パワーポイントの作成方法	第7回時配布資料について、授業内の指示に従い、レジュメ、パワーポイントを作成する (第7回の事後・90分) ←第8回授業時に回収、添削後返却
8	第7回時配布資料について、授業内の指示に従い、レジュメ、パワーポイントを作成する (第7回の事後・120分) ←第8回授業時に回収、添削後返却	過去1か月以内の新聞・雑誌から、発表のテーマとなりそうな内容を含む記事を複数選び、 第8回授業時に切り抜きか記事のコピーを持参する(第8回の事前・90分)←第8回授業時に使用
9	テーマ決定:「問い」を作る グループ毎に、選定された記事とそれに関連する資料から、テーマを決定する(「問い」を作る)	第8回で決定した記事に関連する資料を複数点選定し、 書誌カード作成(同一の資料につき2枚)、 第9回授業時に選定した資料、書誌カードともに持参。 書誌カード2枚のうち1枚を提出(第9回の事前・90分)
10	ディスカッション 事前学習で作成したキーワードカードをもとに、発表内容についてのディスカッションをする	第9回で決定したテーマに関する文献を複数点選定、書誌カード(同一の文献につき2枚)、 キーワードカードを作成し、第10回授業時に持参、書誌カード2枚のうち1枚を提出 (第10回の事前・90分)
11	アウトライン作成 第10回のディスカッション成果およびキーワードカードをもとにアウトラインを作成	第9回で決定したテーマに関するキーワードカードを作成、 第11回授業時に持参(第11回の事前・90分) 担当教員にテストメールを送り返信の確認をする
12	発表原稿作成 もとに発表原稿を作成	第9回で決定したテーマに関するキーワードカードを作成、 第12回授業時に持参(第12回の事前・90分)
13	レジュメ・パワーポイント作成	発表原稿、レジュメ、パワーポイントを送付(事後90分) ←添削指導をメールで返信
14	発表	パワーポイントのリハーサル機能を用いて発表練習。リハーサルの結果、 および教員の指導に応じて発表原稿、レジュメ、パワーポイント修正(事前15分) 振りり返りシードの記入(事後75分)
15	発表と総括	振り返りシードの記入(事後90分) ←添削後返却

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

提出物への添削

【成績の評価方法】

授業外学修課題:(50%)
発表、レジュメ、パワーポイント(50%)

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし。適宜参考資料配布。

【参考書】

授業内に指示。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

月曜日と水曜日　昼休み

【教員連絡先】

s_koizumi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

★毎回事後学習として、指定された箇所を読み復習すること。
★作成したデータは複数個所に保存すること。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	アカデミックライティング	担当教員名	田尻　真理子				
コード	22LIT102	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

一年次の純心チュートリアルを活かした実践編。
一年次のグループワークを発展させ、論文執筆の一連の流れを学生各人が行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 論文執筆の作法を身につけ、テーマの絞込み、論文形式での執筆ができるようになる。	○	○	
2 生成AIをはじめとするインターネット情報の適切に使用できるようになる。		○	
3 図書館資料を有効に活用できるようになる。	○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	導入:授業概要、授業の進め方、評価方法等 キーワードカード、書誌カード作成法(奥付の意味と見方)の復習	田尻	シラバスを熟読してくること。 B6サイズ情報カードおよびB6ファイル二冊を用意する。(30分)【事前】
2	文献取集法、論文作成のステップ	田尻	**純心チュートリアル(1年次)の資料を見直す(1時間)【事前】**
3	論文の体裁と規則、その意味	田尻	第2回時配布資料を熟読し、キーワード／書誌カードを作成する(2時間)【事前】←添削後返却
4	トピック選定	田尻	**文献複数選定／書誌カード作成(1時間)【事前】**
5	テーマ決定:「問い」の形にする	田尻	**文献複数選定／書誌カード作成(1時間)【事前】**
6	キーワードカード整理⇔アウトライン構想	田尻	**キーワードカード作成(2時間)【事前】**
7	キーワードカード整理⇔アウトライン構想	田尻	**キーワードカード作成(2時間)【事前】／以下新規資料については書誌カード作成**
8	アウトライン決定	田尻	**キーワードカード作成(2時間)【事前】**
9	論文執筆	田尻	パラグラフ毎のキーワードカード整理(1時間)【事前】／以下新規資料キーワードカード作成
10	論文執筆	田尻	パラグラフ毎のキーワードカード整理(1時間)【事前】
11	論文執筆	田尻	パラグラフ毎のキーワードカード整理(1時間)【事前】
12	添削に沿って論文修正	田尻	**第12回二日前までに論文データを教員にgmailで送付する(1時間)【事前】**
13	発表原稿作成	田尻	第14回二日前までに発表原稿データをgmailで教員に送付(1時間)【事後】
14	添削に沿って発表原稿修正／レジュメ・パワーポイント作成	田尻	**第15回二日前までにレジュメ・パワーポイントデータをgmailで教員に送付(1時間)【事後】**
15	発表と総括／発表評価シート記入／振り返りシートの記入	田尻	パワーポイントのストップウォッチ機能を用いて発表練習(30分)【事前】

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

提出物への添削および授業時に指摘

【成績の評価方法】

課題:50%
定期試験:50%(論文)
合計:100%

【生成AI利活用（　有　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 決定次第連絡する
【教員連絡先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	純心平和学	担当教員名	田尻／鏑木／大竹／佐野				
コード	22JUN105	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○			○	○
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

「マリア様、嫌なことは私が喜んで」という学園標語は、ひとりひとりが小さな平和を実現してゆくために、「他人の立場に立って愛の心で」行動するための指針となっている。
「純心平和学」は、Sr.江角の平和への希求を一人ひとりが実現するための手がかりとなるものである。
ところで、平和へのアプローチは多様で、さまざまな視点から平和について考え、取りくむことが可能である。本講では、音楽、視覚芸術、絵本、教育、食など多様な観点から平和について考える糸口を探る。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 学生個々人が自分なりの興味・関心・問題意識から「平和」について積極的に考える糸口を発見し、自分なりの平和についてのアプローチを見出すことができるようになる。	○				
2 「マリア様、嫌なことは私が喜んで」を日々、積極的に、喜んで実践し、周囲の人々に喜んでもらえる＝自分の身近なところから平和を作り出していくことができる、すなわち、建学の精神を日々実践できるようになる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	導入:担当教員紹介、授業の概要、目標、進め方、評価方法等 東京純心女子学園創立者　Sr.江角　ヤス先生　について	田尻	シラバスを熟読してくること　(事前1時間) 配布資料の「第1回の授業を受けて」のページで指示された項目について記入すること(事後3時間) 第2回で提出
2	音楽と平和1:レクチャーコンサート(講堂)	鏑木	【予習】終末期医療について調べ纏める。　(2時間) 【復習】配布資料中指示された項目について記入　(2時間)第3回提出　←添削後第4授業にて返却、
3	音楽と平和2:戦争と音楽	鏑木	【予習】第2回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指示された項目について記入(2時間)第3回提出　←添削後第4回授業にて返却
4	絵本と平和1	大竹	**【予習】第3回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指示された項目について記入(2時間)第5回提出　←添削後第6回授業にて返却**
5	絵本と平和2	大竹	【予習】第4回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第6回提出←添削後第7回授業にて返却
6	絵本と平和3	大竹	**【予習】第5回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第7回提出←添削後第8回授業にて返却**
7	教育と平和1	佐野	【予習】第6回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第8回提出←添削後第9回授業にて返却
8	教育と平和2	佐野	【予習】第7回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第9回提出←添削後第10回授業にて返却
9	教育と平和3	佐野	**【予習】第8回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第10回提出←添削後第11回授業にて返却**
10	食と平和1:ともに食べること	田尻	【予習】第9回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第11回提出←添削後第12回授業にて返却 【予習】第10回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第12回提出←添削後第13回授業にて返却
11	食と平和2:キリスト教的SDGS	田尻	**【予習】第10回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第12回提出←添削後第13回授業にて返却**
12	視覚芸術と平和1	田尻	【予習】第11回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第13回提出←添削後第14回授業にて返却
13	視覚芸術と平和2	田尻	【予習】第12回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第14回提出←添削後第15回授業にて返却
14	平和学とは何か	田尻	【予習】第13回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)第15回提出←添削後返脚
15	平和学と純心平和学	田尻	【予習】第14回に指定された課題を提出(2時間) 【復習】配布資料中指定された項目について記入(2時間)レポートボックスに提出←添削後返脚

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

提出された課題への添削と授業時の講評

【成績の評価方法】

課題：70％
授業参加の積極性：30％
合計：100％

【生成AI利活用（　有　）】

【 ルーブリック評価の活用（ 無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

授業時、ハンドアウトを配布する。

【参考書】

授業時に指示する

【オープンな教育リソース】

United States Holocaust Memorial Museum：https://www.ushmm.org/ja　広島平和記念資料館：https://hpmmuseum.jp　長崎原爆資料館・長崎市平和会館：https://nabmuseum.jp/genbaku/
日本平和学会：https://www.psaj.org > aboutpeacestudies　昭和館：https://www.showakan.go.jp/

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

決定次第連絡する

【教員連絡先】

mtajiri@g.t-junshin.ac.jp, kootake@g.t-junshin.ac.jp, ykaburagi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・社会情勢の変化等で授業内容に変更が生じる場合がある
・ハンドアウトは教科書にかわるものなので、散逸しないよう管理すること
・事情により授業回が前後することがある

現代文化学部　　2024（令和6）年度

授業科目名	健康の科学	担当教員名	下川　学				
コード	22NUR101	区分 （必修・選択）	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

人口の少子化、高齢化が進む中にあって、がん、脳卒中、心臓病、糖尿病などの代表的な生活習慣病が大きな社会問題となっている。健康は、運動と栄養と休養の3つのバランスのもとで成り立つ。
授業においては現在の健康問題を概観し、日本の国民栄養の現状を把握する。また、ヒトの身体組成、からだの構造、体力等について学び、個々の運動プログラム作成をめざす。
さらに、活力ある健康的な生活を営むために、今後の健康教育と生涯スポーツのあり方を考える。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 日本における健康問題と国民栄養の現状を把握することができる。	○				
2 運動、栄養、休養の3つのバランスの重要性について説明することができる。	○				
3 自分自身の身体組成を説明することができる。	○				
4 正しい理論を用いた運動プログラム作成と実践ができる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	オリエンテーション	下川	シラバスを一読しておくこと。予習（30分）
2	健康問題（健康と身体組成）	下川	予習：自己の健康観について考える。（30分） 復習：資料を一読しておくこと。（30分）
3	健康問題（健康日本21）	下川	予習：年代別の死因順位について調べておくこと。（30分） 復習：死因順位について。（30分）
4	国民衛生の動向	下川	予習：各国の平均寿命を調べる。（30分） 復習：資料のデータを再確認しておく。（30分）
5	国民健康・栄養調査	下川	予習：自己の体格評価の確認（30分） 復習：前回資料の再確認。（30分）
6	体格評価	下川	予習：肥満等について（30分） 復習：国民健康・栄養調査結果の再確認。（30分）
7	肥満・るいそう	下川	予習：栄養について（30分） 復習：身体組成について（30分）
8	食事摂取基準、栄養	下川	予習：体力の資料について（30分） 復習：体格評価方法について（30分）
9	体力（1）	下川	予習：骨について調べておくこと。（30分） 復習：食事バランスガイドについて。（30分）
10	体力（2）	下川	予習：筋について。（30分） 復習：骨の名称を覚える（30分）
11	運動処方	下川	予習：主要な筋の名称を覚える（30分） 復習：骨格筋についての再確認（30分）
12	トレーニング法	下川	予習：筋力、筋持久力、持久力について（30分） 復習：運動処方の手順について復習しておくこと。（30分）
13	運動の効果	下川	予習：運動継続について（30分） 復習：10RM、カルボーネン法について復習しておくこと。（30分）
14	行動変容	下川	予習：行動変容のコツについて（30分） 復習：運動の利点、欠点の再確認。（30分）
15	まとめ	下川	定期試験に向けて復習する。（60分）

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

次回の講義で行う。

【成績の評価方法】

定期試験：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

授業時間外における予習、復習、課題等に要する時間については、学修課題の内容を踏まえて取り組むこと。
健康に関する情報は巷に氾濫している。正しい情報かどうか判断できること。

【教科書】

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】 必要に応じて授業の中で指示する。
【オープンな教育リソース】 特になし。
【担当教員の実務経験】 特になし。
【オフィスアワー】 メールで対応する。
【教員連絡先】 mshimokawa@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	文化人類学	担当教員名	金子　穀				
コード	22HUM108	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	1年次～4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本講義は文化人類学の初学者に対しなされるものである。文化という言葉を聞くと何をイメージするだろうか。学生やサラリーマンに問えば、武士、忍者、パワースポットとしての神社、アニメの聖地巡礼などと答える者が多い。だが、自分たちが何気なく日頃行なっているこうどうそのものが「文化」であると理解する者は少ない。そこで本講義では誰もが暮らしの中で体験してきた各種のお話、およびその中で語られてきた地域の「祭り」や成人式などをはじめとする「通過儀礼」といった宗教行事などを中心に説明を試みることにしたい。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 無理な理論の運用を目指すのではなく、何気ない日常的なシーンに着目出来るようにする。	○		
2 1を通して、他者との相互理解の回路を開く上で不可欠となる「知」の存在に配慮することが出来るようになる。	○		
3 2を通して今後の不透明な世界情勢を透視し、かつ生き抜く上でのリテラシー能力を獲得させる。	○		

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	プロローグ:文化はどこにあるか	予習(30分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義) 復習(45分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	人類学の歴史	予習(30分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学) 復習(45分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	文化の調べ方	予習(30分):プリント3(調査法) 復習(45分):プリント3(調査法) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	様々なお話　その1	予習(30分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話) 復習(45分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	様々なお話　その2	予習(30分):プリント5(説話2:都市伝説) 復習(45分):プリント5(説話2:都市伝説) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	様々なお話　その3	予習(30分):プリント6(神話と儀礼) 復習(45分):プリント6(神話と儀礼) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	お話は語る　その1	予習(30分):プリント7(幽霊と妖怪) 復習(45分):プリント7(幽霊と妖怪) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	お話は語る　その2	予習(30分):プリント8(予兆と禁忌) 復習(45分):プリント8(予兆と禁忌) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	お話は語る　その3	予習(30分):プリント9(占いと呪術) 復習(45分):プリント9(占いと呪術) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	お話は語る　その4	予習(30分):プリント10(妖術と邪視) 復習(45分)::プリント10(妖術と邪視) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	お話は語る　その5	予習(30分):プリント11(年中行事と祭り) 復習(45分):プリント11(年中行事と祭り) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	お話は語る　その6	予習(30分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物) 復習(45分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	お話は語る　その7	予習(30分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三) 復習(45分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	お話は語る　その8	予習(30分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦) 復習(45分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	お話は語る　その9	予習(30分):プリント15(通過儀礼3:死と供養) 復習(45分):プリント15(通過儀礼3:死と供養) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		学生の理解をうながすために必要に応じて映像資料なども活用する予定である。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

学生の理解度を確認するために時折、授業時に小テストも実施する予定である。

【成績の評価方法】

課題レポート70％、小テスト20％、
課題レポート70％、小テスト20％、授業への参加度10％を加えた総合的な評価を行なう。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価：（　無　）】

【履修申請上の条件】

文化は人間関係の基礎を形作るものです。どうかアンテナを張り巡らして柔軟な思考で好奇心をもって臨んで下さい。

【教科書】

特になし（、毎時プリントを配布します。。

【参考書】

受講時に随時指示します。

【オープンな教育リソース】

特にありません。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

質問等がある場合は、学務課へ申し出ること。

【教員連絡先】

tkaneko@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	合唱音楽	担当教員名	田中　路				
コード	22JUN108	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	3・4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

歌うという行為は、楽器を奏すること以上に人間の身体に直接結びつき、合唱することは、集団を作るという人間の最も基本的な行為に根差したものであるといえる。
本授業は、他者の声に耳を傾け、響きを共有する意識を持った合唱表現の探求を目的とする。
原則として毎回の授業では、合唱音楽の歴史を概観し(講義、約30分)、その上で楽曲の内容、響きを感じながら合唱表現を行う(演習、約60分)。また合唱表現と併せて、
イングリッシュハンドベルの演奏実践も行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 自分の声を見つめ、声楽的な発声法に習熟する。	○		
2 他者の声に耳を傾け、他パートと協調しながら音楽表現を工夫することができる。	○		
3 合唱音楽の歴史、様式について理解し、歌唱楽曲の特徴を説明することができる。	○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明	田中	復習(60分):復習用参考音源を鑑賞する。
2	合唱の基礎 グレゴリオ聖歌(Ave Maria)、東京純心大学大学歌	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
3	ルネサンス・バロックの合唱音楽	田中	予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
4	古典派の合唱音楽	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
5	ロマン派の合唱音楽	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
6	近現代の合唱音楽・ポピュラー音楽	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
7	NHK全国学校音楽コンクールの課題曲の分析	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
8	NHK全国学校音楽コンクールの課題曲の歌唱	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
9	イングリッシュハンドベルの基礎	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(60分)
10	イングリッシュハンドベルのアンサンブル①	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(60分)
11	イングリッシュハンドベルのアンサンブル②	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(60分)
12	イングリッシュハンドベルのアンサンブル③	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(60分)
13	「純心こどもの国のクリスマス」における演奏発表	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(60分)
14	「クリスマスチャリティオルガンコンサート」における演奏発表	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(60分)
15	本授業のまとめ	田中	予習・復習:本番の演奏を振り返り、反省点を整理しておく(60分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		Googleclassroomにおいて予習、復習資料を共有する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

合奏練習については次回授業時までに各グループ(もしくは個人)で進め、次回授業時に教員が成果をチェックしコメントする。

【成績の評価方法】

「純心こどもの国のクリスマス」「クリスマスチャリティオルガンコンサート」に向けた準備、授業全体に臨む姿勢60%。第15回で提出する振り返りシートの内容40%。
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

12月の「純心こどもの国のクリスマス」「クリスマスチャリティオルガンコンサート」に必ず出演できること。グループワークが中心となるので、他の学生と互いに高め合いながら取り組むこと。
授業時間外での準備が必要となる場合もあるので、協力し合って取り組むこと。メンバーが揃わないと練習に支障が出るため、欠席をしないこと。

【教科書】

特になし

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

火曜 12時15分～50分

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	パイプオルガンA	担当教員名	鏑木　陽子				
コード	22HUM104	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	3・4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30 時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

パイプオルガン(以後オルガン)の歴史は古く、はるか紀元前まで遡ることができる。中世、ルネサンス、バロック、19 世紀から現代に至るまで、様々な国と時代の作品を演奏することを通して、
その当時の息吹を感じ取り、それを私たちの文化にどう生かしていくかを探求する。またオルガンの歴史と構造、国や地域の違いについても扱う。
オルガン音楽は歌と結びついているため、讃美歌や聖歌の弾き方のみならず、弾き歌いも習得できるよう指導する。授業は基本的に本学江角記念講堂の大オルガンを使用する。
クラスの中で互いに聴き合いながら、オルガン音楽を学んでいく。また履修者の興味と関心によっては、連弾などのアンサンブル、歌や楽器の伴奏なども取り入れる予定である。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 パイプオルガンの歴史と構造を理解し、楽器に関する正確な情報を説明することができる	○		
2 パイプオルガン特有のタッチを習得し、指先と耳を用いて１本１本のパイプを美しく発音させることができる	○		
3 讃美歌・聖歌、独奏曲のレパートリーを増やし，礼拝、ミサ、また保育現場の行事における奏楽に応用できる	○		

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	パイプオルガンを知る(1)　江角記念講堂のオルガン	予習(60分):オルガンで弾いてみたい任意の曲を選び、譜読みをして準備する 復習(120分):パイプオルガンの構造について指示された参考資料を熟読する
2	パイプオルガンを知る(2)　オルガンの歴史	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、譜例を弾いて準備する 復習(60分):ネット上の映像と音源を聴く(授業時にアクセス先を指示)
3	パイプオルガンを知る(3)　パイプの種類と音色について	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、譜例を弾いて準備する 復習(60分):指示された音源を聴く
4	パイプオルガンを知ろう(4)　美しい音とは何だろう？	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、譜例を弾いて準備する 復習(60分):指示された音源を聴く
5	パイプオルガンを知ろう(5)　タッチとリリース(離鍵)、呼吸を意識する	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、譜例を弾いて準備する 復習(60分):指示された音源を聴く
6	オルガン奏法の実際(1)　1本指からはじめよう	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
7	オルガン奏法の実際(2)　足鍵盤を弾く	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
8	オルガン奏法の実際(3)　指で笛を歌わせるということ	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
9	オルガン奏法の実際(4)　なめらかに旋律を弾くには	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
10	オルガン奏法の実際(5)　踵も使って足鍵盤を弾く	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
11	オルガン奏法の実際(5)　両手と両足を使って弾く	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
12	ストップとレジストレーション	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
13	バロックの小品を弾く1(手鍵盤)	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
14	バロックの小品を弾く2(足鍵盤付き)	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
15	オルガンによるアンサンブル	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

各自が準備した課題曲学修成果、レポートについては次回授業時にフィードバックを行なう。

【成績の評価方法】

作曲家・作品に関するレポート30%、平常点（日々の練習、授業態度、学修意欲）30%、実技試験40%
レポートの採点基準は「作品の背景、作曲家の特徴を理解し、自分の言葉で曲の解釈を述べることができている」という点である。実技試験の採点基準は、
「曲の特徴を理解し、オルガンという楽器を十分に鳴らすことができている」という点である。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価：（　無　）】

【履修申請上の条件】

4声の讃美歌のソプラノとバスパートを難なく弾くことができるか、J. S. バッハ『2 声のインヴェンション』を習得していることが望ましい。
ただし、オルガンを学びたいという意欲がある場合はこの限りでない。毎週の授業のために日々、地道に練習を積み重ねて準備を怠らないこと。

【教科書】

必要に応じて課題曲、資料を用意する

【参考書】

松居直美、廣野嗣雄他『オルガンの芸術　歴史・楽器・奏法』（道和書院）
近藤岳（編著）梅干野安未・松岡あさひ（著）『オルガン奏法――パイプでしゃべろう！ パイプで歌おう！』（道和書院）
椎名雄一郎『パイプオルガン入門』（春秋社）

【オープンな教育リソース】

オランダ・バッハ協会　https://www.youtube.com/channel/UC2kF6qdHRTM_hDYfEmzkS9w

【担当教員の実務経験】

コンサートオルガニスト、教会オルガニスト、バロック音楽および教会音楽の研究・実践者としての経験をもとに、パイプオルガンを通じた表現活動についての指導を行う

【オフィスアワー】

金曜日3限（事前に連絡をしてから訪問すること）

【教員連絡先】

ykaburagi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

聖母祭におけるオルガンコンサート、純心こどもの国のクリスマスにおいて演奏をしたい学生には、必要に応じて課題を与え、指導する。
また学生からの希望によっては学外授業として教会やホール等のパイプオルガン見学会を実施することもある。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	パイプオルガンB	担当教員名	鏑木　陽子				
コード	22HUM105	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	3・4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30 時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

パイプオルガン(以後オルガン)の歴史は古く、はるか紀元前まで遡ることができる。中世、ルネサンス、バロック、19 世紀から現代に至るまで、様々な国と時代の作品を演奏することを通して、
その当時の息吹を感じ取り、それを私たちの文化にどう生かしていくかを探求する。またオルガンの歴史と構造、国や地域の違いについても扱う。
オルガン音楽は歌と結びついているため、讃美歌や聖歌の弾き方のみならず、弾き歌いも習得できるよう指導する。授業は基本的に本学江角記念講堂の大オルガンを使用する。
クラスの中で互いに聴き合いながら、オルガン音楽を学んでいく。また履修者の興味と関心によっては、連弾などのアンサンブル、歌や楽器の伴奏なども取り入れる。
パイプオルガンAで学んだことを土台に、さらにオルガン音楽への理解を深めていく。履修者からの希望があれば学外の教会やホールにも出向き、さまざまなオルガンと、音空間に出会う機会も作る予定である。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 パイプオルガンの歴史と構造を理解し、楽器に関する正確な情報を説明をすることができる	○		
2 パイプオルガン特有のタッチを習得し、指先と耳を用いて１本１本のパイプを美しく発音させることができる	○		
3 讃美歌・聖歌、独奏曲のレパートリーを増やし，礼拝、ミサ、また保育現場の行事における奏楽に応用できる	○		

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	パイプオルガンを知ろう	予習(60分):オルガンで弾いてみたい任意の曲を選び、譜読みをして準備する 復習(120分):パイプオルガンの構造について指示された参考資料を熟読する
2	「ピアノ表現法」の課題曲をオルガンで弾こう	予習(120分):『ピアノ表現法』の課題曲から任意の3曲を選び、準備する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
3	足鍵盤のテクニック1	予習(120分):あらかじめ与えられた足鍵盤の課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
4	足鍵盤のテクニック2	予習(120分):あらかじめ与えられた足鍵盤の課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
5	讃美歌を弾く1 ― ひとりで弾く―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
6	讃美歌を弾く2 ― 弾き歌い―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
7	讃美歌を弾く3 ― 足鍵盤をつけて弾く ―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
8	讃美歌を弾く4 － 伴奏として弾くー	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
9	カトリック聖歌・典礼聖歌を弾く1― ひとりで弾く―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
10	カトリック聖歌・典礼聖歌を弾く2― 弾き歌い―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
11	カトリック聖歌・典礼聖歌を弾く3 ― 足鍵盤をつけて弾く ―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
12	カトリック聖歌・典礼聖歌を弾く4 － 伴奏として弾くー	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
13	バロックの小品を弾く1(手鍵盤)	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
14	連弾でオルガンを弾こう	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する
15	バロックの小品を弾く2(足鍵盤付き)	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

各自が準備した課題曲学修成果、レポートについては次回授業時にフィードバックを行なう。

【成績の評価方法】

作曲家・作品に関するレポート30%、平常点（日々の練習、授業態度、学修意欲）30%、実技試験40%
レポートの採点基準は「作品の背景、作曲家の特徴を理解し、自分の言葉で曲の解釈を述べることができている」という点である。
実技試験の採点基準は、「曲の特徴を理解し、オルガンという楽器を十分に鳴らすことができている」という点である。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価：（　無　）】

【履修申請上の条件】

「パイプオルガンA」を履修済み、もしくはJ. S. バッハ『2 声のインヴェンション』を習得していることが望ましいが、オルガンを学びたいという意欲がある場合はこの限りでない。
毎週の授業のために日々、地道に練習を積み重ねて準備を怠らないこと。

【教科書】

必要に応じて課題曲を指定する

【参考書】

松居直美、廣野嗣雄他『オルガンの芸術　歴史・楽器・奏法』（道和書院）
近藤岳（編著）梅干野安未・松岡あさひ（著）『オルガン奏法――パイプでしゃべろう！ パイプで歌おう！』（道和書院）
椎名雄一郎『パイプオルガン入門』（春秋社）

【オープンな教育リソース】

オランダ・バッハ協会　https://www.youtube.com/channel/UC2kF6qdHRTM_hDYfEmzkS9w

【担当教員の実務経験】

コンサートオルガニスト、教会オルガニスト、バロック音楽および教会音楽の研究・実践者としての経験をもとに、パイプオルガンを通じた表現活動についての指導を行う

【オフィスアワー】

金曜日3限（事前に連絡をしてから訪問すること）

【教員連絡先】

ykaburagi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

聖母祭におけるオルガンコンサート、純心こどもの国のクリスマスにおいて演奏をしたい学生には、必要に応じて課題を与え、指導する。
また学生からの希望によっては学外授業として教会やホール等のパイプオルガン見学会を実施することもある。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	キャリアセミナー	担当教員名	井上 救				
コード	22JUN110	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	3・4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

・就職活動において、より実践的に活用できる知識やスキルを身に付けることを目標とした講義である。自分にとって「よい就職・職業」とは何かを考え、
就職活動を始める際のひとつの指標となるための学びを進める。
・就職活動に必要な知識やスキルの向上を目指し、履歴書やエントリーシートの書き方、筆記・面接試験対策、電話やメールのマナー、身だしなみ等について様々な角度から実践的に学ぶ。
・講義全体を通して、就職活動の充実を図るとともに、社会人としていかに生きるかについても学びを深める。
学生一人一人が、自身のライフプランを思い描き、その実現に向けて何をすれば良いのか考え行動できるための実践力を育成する。
・本授業は、基本的にそれぞれの専門分野である外部講師を招聘しての実践的な授業を行う。
また、就職内定者を呼んで実際の経験談を話してもらう機会も設けるなど就職希望者にとって有意義な情報も得ることが出来る。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 就職活動において、エントリーシートの書き方、筆記試験・面接対策、電話やメールのマナー、身だしなみ等、より実践的に活用できる知識やスキルを活用できる。	○				
2 自分にとって「よい就職・職業」とは何か、を考え説明することができる。	○				
3 社会の一員としていかに生きるかについて、大学卒業時点でのライフプランを述べることができる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	進路総合ガイダンス(就職活動の全体像と自己分析)	井上 外部講師	予習(60分):次回の授業内容を事前に調べて授業に備える。 復習(60分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。
2	就職情報収集	井上 外部講師	予習(60分):次回の授業内容を事前に調べて授業に備える。 復習(60分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。
3	自己PR・志望動機につなげる自己分析	井上 外部講師	予習(60分):次回の授業内容を事前に調べて授業に備える。 復習(60分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。
4	業界・企業研究講座	井上 外部講師	予習(60分):次回の授業内容を事前に調べて授業に備える。 復習(60分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。
5	中小企業の「良い企業」とは	井上 外部講師	予習(60分):次回の授業内容を事前に調べて授業に備える。 復習(60分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。
6	履歴書＆エントリーシート対策	井上 外部講師	予習(60分):次回の授業内容を事前に調べて授業に備える。 復習(60分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。
7	インターンシップ報告会 レポート作成の内容と方法	井上 外部講師	予習(60分):次回の授業内容を事前に調べて授業に備える。 復習(60分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。
8	筆記試験対策講座(1)	井上 外部講師	予習(30分):事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(60分):配布資料を見直す。
9	筆記試験対策講座(2)	井上 外部講師	予習(30分):事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(60分):配布資料を見直す
10	筆記試験対策講座(3)	井上 外部講師	予習(30分):事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(60分):配布資料を見直す。
11	筆記試験対策講座(4)	井上 外部講師	予習(30分):事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(60分):配布資料を見直す。
12	面接対策講座(1)	井上 外部講師	予習(30分):事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(60分):配布資料を見直す。
13	面接対策講座(2)(グループディスカッション編)	井上 外部講師	予習(30分):事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(60分):配布資料を見直す。
14	内定者活動報告会 レポートによる面談	井上 外部講師	予習(30分):自身が作成したレポートを見直す。 復習(60分):配布資料を見直し、自らの職業選択について考える。
15	キャリアセミナー総括 半期を振り返り、授業内容を今後の生活にどのように生かしていくのか発表する。	井上	予習(30分):事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(30分):配布資料を見直す。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。

【成績の評価方法】

レポート80％
授業内での発言等授業参加度20％
合計:100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

適宜授業内で資料を配布する。

【参考書】

特になし
各自、キャリアセンター内にある図書・資料を活用する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

一般企業における人事担当者の経験をもとに、社会で求められる人材等について指導する。

【オフィスアワー】

前期:月曜日12:10～13:00、後期:火曜日12:10～13:00

【教員連絡先】

sinoue@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・2年生から4年生まで、連続して受講が可能である。
・単位取得に関係なく、各自必要な項目のみを受講することが可能である。学生の積極的参加が望まれる。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	読書論A	担当教員名	佐野　通夫				
コード	22LIT104	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			△
年次／期間	2～4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

日本の公立学校で日本語指導が必要な児童生徒は、2021年、在留外国人数や外国籍の児童生徒数の増加傾向に伴い、外国籍の者で47,619人(16.8%増)であり、
日本国籍の者は10,688人(3.1%増)である。この他、「外国につながる子ども」として、国籍を問わず、文化的言語的に多様な背景をもつ子どもがいる。
日本での 30 年間の出生数をみると、「父母ともに日本」の子は減少しているものの、「父母ともに外国」の子は増加している。
2019年には、日本で出生した子の25人に1人(4.0%)が、外国につながる子であった。
このような育ちをした温又柔『台湾生まれ　日本語育ち』を読む。
丁寧に読み進み、その上でイメージを拡充し、意見交換を大切に、「人間とは」「家族とは」「社会とは」等複合的に考えていきたい。内容により他の参考文献・資料等も活用する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 社会と個人の関係について考える。	○		
2 こどもからおとなまでの人間のこころの動きを視野を広く持ちながら考えることができる。	○		
3 自他共に尊重しあえる手掛かりを得る。	○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:授業の概要と履修上の留意点について検討する。	佐野通夫	予習:シラバスに目を通す(10分)。復習:413～422ページまでを読み、考える(170分)。
2	8～26ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
3	27～58ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
4	59～77ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
5	78～983ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
6	99～143ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
7	144～189ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
8	190～230ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
9	231～259ページを読み意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
10	260～271ページを読み意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
11	273～277ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
12	278～302ページを読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
13	関連する映画(前半)を見る。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
14	関連する映画(後半)を見る。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
15	本書全体について、意見交換をする。	佐野通夫	復習:本書及び参考資料等を通して考えたことをレポートにまとめる。1200字以上、書式自由(180分)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業時の意見交換等により、様々な考え方があることを、専門的知見や日常の出来事等を通してみていく。

【成績の評価方法】

課題:50%
小テスト:50%
定期試験:0%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

2年次以降の選択科目であり、資格・免許に関係なく履修できる。

【教科書】 温又柔『台湾生まれ　日本語育ち』白水Uブックス2018
【参考書】 適宜プリントを配布する
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 ・月曜　4限
【教員連絡先】 msano@t-junshin.ac.jp
【備考】 保育・教職においては広い視野と自分で考えていく経験が大切になります。 また、保育・教職如何に拘わらず、こころというものに関心が深い方、人との関係を大事にしたい方は受講出来ますので、文献を参考にゆっくり考えていきましょう。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	読書論B	担当教員名	佐野　通夫				
コード	22LIT105	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			△
年次／期間	2～4年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

日本の公立学校で日本語指導が必要な児童生徒は、2021年、在留外国人数や外国籍の児童生徒数の増加傾向に伴い、外国籍の者で47,619人(16.8%増)であり、
日本国籍の者は10,688人(3.1%増)である。この他、「外国につながる子ども」として、国籍を問わず、文化的言語的に多様な背景をもつ子どもがいる。
日本での 30 年間の出生数をみると、「父母ともに日本」の子は減少しているものの、「父母ともに外国」の子は増加している。
2019年には、日本で出生した子の25人に1人(4.0%)が、外国につながる子であった。
このような育ちをした鷺沢萠『君はこの国を好きか』を読む。丁寧に読み進み、その上でイメージを拡充し、意見交換を大切に、「人間とは」「家族とは」「社会とは」等複合的に考えていきたい。
内容により他の参考文献・資料等も活用する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 社会と個人の関係について考える。	○		
2 こどもからおとなまでの人間のこころの動きを視野を広く持ちながら考えることができる。	○		
3 自他共に尊重しあえる手掛かりを得る。	○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:授業の概要と履修上の留意点について検討する。	佐野通夫	予習:シラバスに目を通す(10分)。復習:413～422ページまでを読み、考える(170分)。
2	プリント①を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
3	プリント②を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
4	プリント③を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
5	プリント④を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
6	プリント⑤を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
7	プリント⑥を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
8	プリント⑦を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
9	プリント⑧を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
10	プリント⑨を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
11	プリント⑩を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
12	プリント⑪を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
13	関連する映画(前半)を見る。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
14	関連する映画(後半)を見る。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)
15	本書全体について、意見交換をする。	佐野通夫	復習:本書及び参考資料等を通して考えたことをレポートにまとめる。1200字以上、書式自由(180分)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業時の意見交換等により、様々な考え方があることを、専門的知見や日常の出来事等を通してみていく。

【成績の評価方法】

課題:50%
小テスト:50%
定期試験:0%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】 2年次以降の選択科目であり、資格・免許に関係なく履修できる。
【教科書】 鷺沢萠『君はこの国を好きか』新潮文庫1997、ただし現在は入手できないので、プリントを配布する。
【参考書】 適宜プリントを配布する
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 ・月曜　4限
【教員連絡先】 msano@t-junshin.ac.jp
【備考】 保育・教職においては広い視野と自分で考えていく経験が大切になります。 また、保育・教職如何に拘わらず、こころというものに関心が深い方、人との関係を大事にしたい方は受講出来ますので、文献を参考にゆっくり考えていきましょう。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こどもと多文化共生	担当教員名	佐野　通夫				
コード	22CHI201	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				○
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

「外国につながる子ども」とは、国籍を問わず、文化的言語的に多様な背景をもつ子どものことを示す。
日本での 30 年間の出生数をみると、「父母ともに日本」の子は減少しているものの、「父母ともに外国」の子は増加している。
2019年には、日本で出生した子の25人に1人(4.0%)が、外国につながる子であった。つまり、子どもの国籍や母語が、必ずしも出生地や育った地を示すものではなくなっている。
これに伴い、幼児教育の現場では、保育・教育の多文化・国際化に対応できる保育者が求められている。
そこで、諸外国や日本の現状をふまえながら、外国につながる子どもや保護者への支援の実際を学び、多文化保育・教育のあり方について学修する。
さらに、自ら「問い」をもち、調べ、考えられ、各分野についての新しい知見が身に付けられるように学びを深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を備えることができる。		○			
2 学生生活や日常生活の話題を取り上げながら、文化によって異なる多様な価値観について、母語と外国語の視点からコミュニケーションを通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーションや他者理解の基礎を培うことができる。		○			
3 言語の違いを超えた相互理解のために、どのような工夫ができるのかを探索することができるようになる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	多文化保育・教育とは何か ・多文化主義と同化主義について考えてみる。	佐野通夫	予習(40分):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 復習(140分):課題について考えをまとめる。
2	在日外国人の動向と福祉ニーズ 在日外国人の現状や外国人支援の課題について学ぶ。	佐野通夫	予習(90分):教科書第1話・第2話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):在日外国人の増加が日本社会にもたらす影響についてまとめる。
3	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(保育) ① 言葉に関する事例 ② 食事に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	佐野通夫	予習(90分):教科書第3話・第4話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本における外国籍の子どもと日本国籍の子どもの就学扱いの相違点についてまとめる。
4	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(小学校) ① 入学に関する事例 ② 授業・学力に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	佐野通夫	予習(90分):教科書第5話・第6話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):母語とは何か、母語の重要性についてまとめる。
5	多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割	佐野通夫	予習(90分):教科書第7話・第8話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと. 復習(90分):日本人らしさとはどのようなものか、まとめる。
6	行政の多文化共生への取り組み ー多文化保育・教育を踏まえてー	佐野通夫	予習(90分):教科書第9話・第10話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
7	地域の国際交流、外国人支援	佐野通夫	予習(90分):教科書第11話・第12話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
8	地域の国際交流、外国人支援	佐野通夫	予習(90分):教科書第13話・第14話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
9	今後の多文化保育・教育の課題と展望	佐野通夫	予習(90分):教科書第15話・第16話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
10	日本の多文化社会の現状と課題	佐野通夫	予習(90分):教科書第17話・第18話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
11	世界の多文化社会の現状と課題	佐野通夫	予習(90分):教科書第19話・第20話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
12	世界の子育て支援の現状(1): 韓国の事例	佐野通夫	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物＜多文化絵本の窓＞を完成させる

13	世界の子育て支援の現状(2): ジンバブエの事例	佐野通夫	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物＜多文化絵本の窓＞を完成させる
14	自分の住んでいる地域の国際交流、外国人支援について調べ、まとめる。	佐野通夫	予習(90分):グループごとに自分の地域の国際交流について調査をする。 復習(90分):地域の国際交流についてまとめる。
15	日本の多文化社会の現状と課題を整理した上で、多文化共生に関わる具体的政策課題を解決する方法を、ディスカッションやグループワークなどを通じて探る。	佐野通夫	予習(90分):日本の多文化社会の現状と課題を整理しておく。 復習(90分):ディスカッションやグループワークなどを通じて探った内容についてまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	・国立国際子ども図書館の電子ギャラリーの利用 「日本発☆子どもの本、海を渡る」https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業時の意見交換等により、様々な考え方があることを、専門的知見や日常の出来事等を通してみていく。

【成績の評価方法】

課題:30%
小テスト:30%
定期試験:40%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会／編『クラスメイトは外国人　入門編 -はじめて学ぶ多文化共生-』明石書店2013

【参考書】

・『保育者のための外国人保護者支援の本』かもがわ出版 2020
・『多文化絵本を楽しむ』ミネルヴァ書房　2014

【オープンな教育リソース】

「日本発☆子どもの本、海を渡る」https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

・月曜　4限

【教員連絡先】

msano@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024（令和6）年度

授業科目名	児童文化論	担当教員名	大竹　聖美				
コード	19CHI202	区分 （必修・選択）	卒業必修	選択	保育士課程	幼稚園教職課程	
			○		○	○	
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

＜児童文化＞とは何か、その全体像を知りながら、特に紙芝居・絵本・パネルシアター・エプロンシアターなどの児童文化財を学ぶ。
また、昔話・世界名作童話・伝承遊びの概要を学び、あらためて、児童文化の広がりと意義を学ぶ。
こどもを取り巻く文化について、その全体像を学ぶ。特に、昔話・子守唄・童謡・絵本・紙芝居・童話・伝承遊び・年中行事・児童文化施設など、基礎的な概要を網羅する。
幅広く、多岐にわたるが、具体的な作品に毎回触れることを大切にする。あらためて、これらの＜児童文化＞が、こどもの成長にとってどれだけ大きな役割を果たしているのかを実感するだろう。
＜児童文化＞の役割と奥深さと広がりを理解し、より良いこどもの文化の担い手となるための知識・態度・技能の基礎を修得する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 紙芝居の特性を説明することができ、季節や対象に応じて適切な紙芝居を演じることができる。		○	
2 絵本の特性を説明することができ、季節や対象に応じて適切な読み聞かせをすることができる。		○	
3 神話・昔話・世界名作童話（イソップ・グリム・アンデルセン等）の特性を説明することができ、語り手として適切な活動ができる。		○	
4 伝承遊び（特に折り紙）と歳時（季節の行事）を知り、伝統文化を継承することができる。		○	
5 乳児保育、幼児保育における言語表現文化の基礎的な知識と技能を身に付ける。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	児童文化とは何か。本講座のオリエンテーション	予習（120分）：子どものころに親しんだ絵本、漫画、アニメ、おもちゃ、公園、遊具などを振り返る 復習（120分）：課題図書を読む
2	＜紙芝居＞（1）紙芝居を知ろう――紙芝居の特徴・歴史・種類・演じ方	予習（120分）：祖父母、家族などに紙芝居を観たことがあるか、どこでどのように観たか取材し、疑問点を整理しておく 復習（120分）：日本昔話を読む
3	＜紙芝居＞（2）紙芝居作品研究――赤ちゃん・物語・参加型・教育・行事・科学	予習（120分）：地域の図書館などでお話会を見学する 復習（120分）：イソップ童話を読む
4	＜紙芝居＞（3）紙芝居実践研究	予習（120分）：紙芝居の練習をする 復習（120分）：振り返りシートを作成する
5	＜絵本＞（1）絵本を知ろう――絵本の特徴・歴史・種類・読み聞かせ	予習（120分）：自分が好きだった絵本作品と当時の様子を思い出し、絵本を準備する 復習（120分）:国際子ども図書館電子コンテンツ 「絵本ギャラリー」を見る https://www.kodomo.go.jp/gallery/
6	＜絵本＞（2）絵本の種類	予習（120分）：課題図書を読む 復習（120分）：「こどものとも0.1.2」（福音館書店）を読む
7	＜絵本＞（3）作家研究	予習（120分）：「こどものとも年少版」（福音館書店）を読む 復習（120分）：「こどものとも年中版」（福音館書店）を読む
8	＜パネルシアター＞（1）――パネルシアターの特徴・歴史・種類・演じ方	予習（120分）：「こどものとも」（福音館書店）を読む 復習（120分）：グリム童話をよむ ＊公開動画を視聴する：「保育士クラブ・パネルシアターの作り方」 https://www.hoikujyouhou.com/hoiku_club/4249
9	＜パネルシアター＞（2）パネルシアター実践研究	予習（120分）：紙芝居・絵本・パネルシアター・エプロンシアターのそれぞれの特徴を整理して、違いを述べられるようにする 復習（120分）：振り返りシートを作成する
10	＜エプロンシアター＞（1）――エプロンシアターの特徴・種類・演じ方	予習（120分）：対象年齢、季節、状況に合わせて、どのような児童文化財を選択すべきか整理し、説明できるようにする 復習（120分）：エプロンシアターの原作を読む ＊公開動画を視聴する:「保育士クラブ・エプロンシアターのねらいと作り方」 https://www.hoikujyouhou.com/hoiku_club/3875
11	＜エプロンシアター＞（2）エプロンシアター実践研究	予習（120分）：エプロンシアターの練習 復習（120分）：振り返りシートを作成する
12	＜世界の昔話と名作童話＞イソップ・ペロー・グリム・アンデルセン	予習（120分）：アンデルセン童話を読む 復習（120分）：世界名作物語とメディア（紙芝居・絵本・アニメ・パネルシアター・エプロンシアター）について調べる

13	＜日本の昔話＞桃太郎・浦島太郎・一寸法師・かちかち山・瘤取り爺さん・花咲爺さん	予習(120分)： 日本昔話とメディア(紙芝居・絵本・アニメ・パネルシアター・エプロンシアター) について調べる 復習(120分)： 振り返りシートを作成する
14	伝承遊びと折り紙・切り紙	予習(120分)： １０種類の折り紙を折ってくる 復習(120分)： 季節の折り紙絵本を完成させる ＊公開資料を活用する :「いらすとや」 https://www.irasutoya.com/search/label/幼稚園
15	季節の行事と児童文化、わらべ唄・童謡	予習(120分)： プレゼンの準備 復習(120分)： 本授業の振り返りと自己評価

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。
・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度(課題への取り組み)30%、発表30%、提出物40%

【生成AI利活用（ 無 ）】

【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
福音館書店「こどものとも0・1・2」、「こどものとも年少版」、「こどものとも年中向き」、「こどものとも」、「ちいさなかがくのとも」「かがくのとも」

【参考書】

『日本児童文学大事典』1～3巻,大阪国際児童文学館,大日本図書
『児童文学事典』,日本児童文学学会,東京書籍
『斎藤佐次郎・児童文学史』斎藤佐次郎著,宮崎芳彦編,金の星社
『日本児童文化史叢書』1～38,上笙一郎ほか著,久山社
『落穂ひろい―日本の子どもの文化をめぐる人びと』上・下,瀬田貞二著,福音館

【オープンな教育リソース】

＊国際子ども図書館電子コンテンツ 「絵本ギャラリー」の利用： https://www.kodomo.go.jp/gallery/
＊公開資料と動画の活用:「保育士クラブ・エプロンシアターのねらいと作り方」 https://www.hoikujyouhou.com/hoiku_club/3875
＊公開資料と動画の活用:「保育士クラブ・パネルシアターの作り方」 https://www.hoikujyouhou.com/hoiku_club/4249
＊公開資料の活用 :「いらすとや」https://www.irasutoya.com/search/label/幼稚園

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

月曜:昼休み・4限、金曜:昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

＊教育実習(幼Ⅰ)の先修要件科目である。
＊保育実習Ⅰの先修要件科目である。
＊本演習では、生成AIの使用を前提としたり、利活用を指示した課題は教員からは出さない。使用した場合は、利活用の方法が逸脱したものでないか、教員に相談してほしい。
有効な活用方法についてディスカッションしたいと思う。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こどもと健康	担当教員名	石沢　順子				
コード	22EDU206	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○		○		
年次／期間	3年次／前期／集中	単位／時間数／形態	1単位／15 時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
◎	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。
乳幼児期の心身の発育・発達の特徴や健康に関する課題を踏まえ、幼児が健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣の形成や安全教育・健康管理等の方法についても理解する。
なお、それぞれの項目について、自身の乳幼児期の経験や実習先での子どもの様子、保育者の援助などを思い出しながら、具体的な場面や留意点なども考えられるようにする。
また、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を取り入れたりしながら、より良い方法が考えられるようにグループでの話し合いの時間を設ける。

授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 領域「健康」の指導に関連する、幼児の心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項について理解し、説明することができる。		○	
2 幼児が健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣の形成や安全教育・健康管理等の方法を理解し、説明することができる。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	健康の定義と乳幼児期の健康に関する課題	予習(60分)乳幼児の健康に関するニュースや記事を調べ、要約・考察する。 復習(60分)授業内で紹介された健康に関する課題について自分の意見をまとめる。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	乳幼児期の身体的発達の特徴	予習(60分)参考資料を基に乳幼児の身体的発達の特徴をまとめる。 復習(60分)授業で学んだ身体的発達の特徴に合わせた留意点についてまとめる。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	乳幼児期の基本的生活習慣の形成	予習(60分)参考資料を基に基本的生活習慣の形成のためのポイントをまとめる。 復習(60分)基本的生活習慣の形成に役立つ資料や教材を調べてまとめる。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	幼児の安全教育と安全管理	予習(60分)参考資料を基に幼児の安全教育と安全管理のポイントをまとめる。 復習(60分)授業内容と自身の経験を踏まえ、安全教育と安全管理のための留意点をまとめる。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防	予習(60分)消費者庁「子どもの事故防止ハンドブック」の内容を確認し、ポイントをまとめる。 復習(60分)授業内容と自身の経験を踏まえ、幼児期の怪我や病気の予防のための留意点をまとめる。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	乳幼児期の運動発達の特徴	予習(60分)日本スポーツ協会「アクティブ・チャイルド・プログラム」の内容を確認し、幼児期の運動発達の特徴をまとめる。 復習(60分)授業内容と自身の経験を踏まえ、乳幼児期の発達を促すためのポイントをまとめる。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	日常生活や遊びにおける運動	予習(60分)自身や実習等の経験から乳幼児期における運動の事例をまとめる。 復習(60分)授業内容を踏まえ、日常生活や遊びにおいて運動を取り入れるためのポイントをまとめる。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	確認テストと解説	予習(60分)これまでの授業内容を基に、領域健康における専門的事項についてまとめる。 復習(60分)授業全体を通して学んだ領域健康に関する事項をどのように生かしていくか自分の意見をまとめる。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		DVDやホームページ資料等を活用し、子どもの様子や援助等についての理解を促す。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業内での意見交換や課題発表等を通してフィードバックする。
小テストや課題を回収後、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

＜評価基準＞
確認テストでは、領域「健康」に関する基礎的知識やポイントを理解できているか。
レポート・発表では他者にも分かりやすくまとめたり、伝えたりすることできているか。
授業への取り組み・貢献度では、各自の課題だけでなく他者との意見交換などに積極的に取り組んでいるか。
＜割合＞
講義内容に関する確認テスト(40%)、発表・レポート(40%)、授業への取り組み・貢献度(20%)で総合評価をする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価:（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

文部科学省『幼稚園教育要領』2017
厚生労働省『保育所保育指針』2017
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017

【オープンな教育リソース】

日本スポーツ協会「アクティブ・チャイルド・プログラム」https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/
消費者庁「子どもの事故防止ハンドブック」https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/project_002/

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

集中講義のため、授業日の授業前後の休み時間とする。

【教員連絡先】

jishizawa@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	特別な支援を要する子どもの理解と支援	担当教員名	里見　達也				
コード	22EDU213	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○		○	○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
◎	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

様々な障害の特性を理解し、一人一人の発達にあわせた援助について理解を深める。個別の保育計画を作成し、集団生活の中でも、対象児の発達に合わせた成長を促すことができる保育実践について理解を深める。また、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や多様な支援について学ぶ。

授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシー		
1 特別支援教育の理念、「特別なニーズのある子ども」をめぐる国際動向、特別支援教育の制度と教育内容に関して基礎的な理解を身につけることができる。		○	
2 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について応用することができる。		○	
3 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について評価することができる。		○	
4 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について分類することができる。		○	
5 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について述べることができる。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	第1章　特別支援教育・障害児保育の概論 1. 特別支援教育・障害児保育とはなにか 2. 特別な配慮を必要とする乳幼児, 児童及び生徒の理解	予習(120分):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 教科書の該当箇所(1章)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(1章)の解説ができるようにする。
2	2章　特別支援教育・障害児保育の基本 1. 特別支援教育・障害児保育の歩みと制度を学ぶ 2. 障害の理解と教育・保育における発達の援助	予習(120分):教科書の該当箇所(2・3章)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(2・3章)の解説ができるようにする。
3	第3章　障害の種別と援助の技術や方法 1. 視覚障害 2. 聴覚障害 3. 肢体不自由 4. 重症心身障害児 5. 病弱・虚弱児	予習(120分):教科書該当箇所(6-1～6・7章)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(6-1～6・7章)の解説ができるようにする。
4	車椅子の使用法及び注意点 車椅子体験	課題:講義後に出します。 (3時間)
5	第4章　知的障害の特徴と教育・保育での支援 1. 知的障害の特徴 2. 知的障害の理解と特徴を踏まえた教育・保育での支援 3. 知的障害を伴うその他の障害	予習(120分):教科書該当箇所(4章)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(4章)の解説ができるようにする。
6	第5章　自閉症スペクトラム障害の特徴と教育・保育での支援 1. 自閉症スペクトラム障害の特徴 2. 自閉症スペクトラム障害の特徴を踏まえた教育・保育での支援	予習(120分):教科書該当箇所(5章-1～3)までをよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(5章-1～3)の解説ができるようにする。
7	第6章　注意欠如・多動性障害の特徴と教育・保育での支援 1. 注意欠如・多動性障害の特徴 2. 注意欠如・多動性障害の特徴を踏まえた教育・保育での支援·	予習(120分):教科書該当箇所(5章-5)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(5章-5)の解説ができるようにする。
8	第7章　学習障害の特徴と教育・保育での支援 1. 学習障害の特徴(吃音, 構音障害を含めて) 2. 学習障害の特徴を踏まえた教育・保育での支援	予習(120分):教科書該当箇所(6章-7～8)をよく読んで理解を深めておく。 復習(60分):教科書該当箇所(6章-7～8)の解説ができるようにする。
9	第9章　支援計画の作成と記録及び評価 1. 障害のある子どもの個別の支援計画(短期・長期)	予習(120分):教科書該当箇所(8章-1～4)までをよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(8章-1～4)の解説ができるようにする。
10	第9章　支援計画の作成と記録及び評価 2. 特別支援教育・障害児保育の記録と評価	予習(120分):教科書該当箇所(8章-6)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(8章-6)の解説ができるようにする。
11	第10章　困難な状況をかかえる家族とその支援 1. 障害のある子どもとその家族の支援 2. 学校や就学前施設での家族支援の実際	予習(120分):教科書該当箇所(9章-1)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(9章-1)の解説ができるようにする。
12	第11章　障害児, その他の特別な配慮を必要とする子どもの課題 1. 保健・医療における課題 2. 教育・保育・福祉における課題 3. 各領域を越えて	予習(120分):教科書該当箇所(9章-2)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(9章-2)の解説ができるようにする。
13	第12章　地域の専門機関や関係機関との連携 1. 地域の団体・関係機関とのネットワークの構築	予習(120分):教科書該当箇所(9章-3)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(9章-3)の解説ができるようにする。
14	第12章　地域の専門機関や関係機関との連携 2. 地域の専門機関との連携方法 3. 支援計画例と支援の実際 4. 発達障害等のある子どもたちの学びを支える	予習(120分):教科書該当箇所(9章-4)をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(60分):教科書該当箇所(9章-4)の解説ができるようにする。

15	第13章　多様な支援を必要とする乳幼児，児童及び生徒の把握や支援 1. 母語の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の理解 2. 障害はないが、学習上または生活上の困難があり、組織的な対応の必要な幼児、児童生徒への理解と 支援	予習（120分）：教科書該当箇所（9章−5）をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習（60分）：教科書該当箇所（9章−5）の解説ができるようにする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		・授業は主に配布資料及び視覚教材（DVD等）を用いて説明する。 ・授業の前半では、「法的位置づけ」や「学術的な根拠（子どもの発達過程の特徴など）」について講義する【知識・理解の獲得】。 ・後半では、グループディスカッションや課題解決・指導計画の作成等にて、前半の学びを深めるとともに、自らの考えをレポートやプレゼン等にて表現する。【汎用的技能の育成】。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義では、それぞれが知識に基づいて予想を立てたり次の論点を整理したりするように、多くの質問や協議機会が与えられる。

【成績の評価方法】

授業中のアクティブ・ラーニングなどの参加状況(30%)、基本的な知識、理解（質問への回答）(30%)、期末（論述）試験(40％)による総合評価。

【生成AI利活用（　~~有~~・　無　）】

【 ルーブリック評価：（　~~有~~・　無　）】

【履修申請上の条件】

原則、基本的なことは予習において教科書で読み進めておき、授業は別紙配布した最新情報をもとに展開されるので、必ず予習・復習をしてくること。

【教科書】

『キーワードで学ぶ障害児保育入門〔第2版〕』七木田敦編著（2017）保育出版社

【参考書】

・文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
・厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
・『改訂版　教職用語辞典』橋本美保編修代表（2019）一藝社

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

・小学校教員免許状・養護学校教諭免許状所持
・元養護学校教員、教育実習指導担当
・毎授業回にて、今日の教員の職務内容をはじめ、学級経営や個別の指導計画、教育支援計画の実際と課題について、現場での職務経験を踏まえた具体例を示しながら展開を示していく。

【オフィスアワー】

授業終了後

【教員連絡先】

下記のメールに送信。
t-satomi@yamanashi-ken.ac.jp

【備考】

保育士養成課程、幼稚園教職課程の必修科目
ピアヘルパー受験資格

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーAa	担当教員名	井上 救				
コード	22CHI302	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本授業は、コンピュータ・グラフィックスやデザインの要素を生かした造形作品(絵本、アニメーション、玩具や遊具、楽器など)制作について、アイディアや技法、知識について様々な実践を通じて深く学び、卒業研究、卒業制作に向けて完成度を高めるため着実な準備を進めて行く。
受講生の興味、関心を基軸として各自でテーマを設定し、情報収集や検証を積み重ね、こどもに対し制作作品がどの様に係わって行くのかを調査、研究し、4年間の学びの集大成となる様、自ら研鑽し、質の高い作品を目指す。授業時間は、基本的に卒業制作および制作ノートの作業と外部から依頼があった作品(例年、コンソーシアム八王子主催の「学生発表会」ポスター募集に応募している)を進める時間として充てることになるので、情報の共有や意見交換などの場として有効に活用し進めること。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 こどもに関わるデザインに対する知識を得ることができる。		○	
2 デザイン要素をいかすために必要なスキル(情報取集力、問題解決力、美的感性など)を体得することができる。		○	
3 一つひとつの積み重ねから形を作り上げる達成感を得ることで、感動を伝えることの大切さを実践できる。		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:授業の概要 制作作品決定のための準備I(作品候補の案出し)	井上	予習(30分)本授業のシラバスを一読しておくこと。アイディアの為の資料収集、作業進行の記録 復習(60分)授業の内容について深く理解すること。
2	制作作品決定のための準備II(候補を絞って発展)	井上	予習(60分)案についてのリサーチ 復習(30分)作業進行の記録をまとめること
3	制作作品決定→作業計画を作成	井上	予習(60分)計画のための方法をリサーチ 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
4	作業計画に沿って制作開始(作業計画提出)	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
5	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
6	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
7	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
8	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
9	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
10	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
11	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
12	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
13	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
14	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
15	作品提出及び講評→夏季休業中の作業計画提出	井上	予習(60分)前期の振り返り(反省と今後の制作への生かすための考察) 復習(60分)作業進行の記録をまとめること

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

作業工程、制作方法など授業内で適宜フィードバックを行う

【成績の評価方法】

授業参加度:50%
課題制作作品:50%
合計:100%

1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。
2. 課題制作作品は完成度、オリジナルの創意工夫がみられるか等、総合評価とする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

・ PCを使用する場合、ソフトの数に制限があること、また、作業場が限られるので、受講者が多い場合は要注意。
・ 加工用の素材は、こちらで用意するものと本人負担するものがあるので、指示をよく確認すること。
・ アイディア出しや作業確認のため、エスキース帳（線の入っていないノート）を用意すること。

【教科書】

特になし

【参考書】

必要に応じ、授業内で紹介

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

前期:月曜日12:10～13:00、後期:火曜日12:10～13:00

【教員連絡先】

sinoue@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

時間内で作業が終わらない場合は、自主的に時間を設けて制作をすることが望ましい。
制作については、外部からの依頼などシラバスに表記されていないものも随時取り入れ進める予定である。
また授業以外で制作研究班の活動も行うことになる（真夏のデザインフェスタ、聖母祭での展示など）。
制作活動は工作機械、塗料、接着剤など汚れる可能性のあるものも扱うので、そのつもりで取り組むこと。危険を伴う道具や工具も取り扱う場合もあるので、指導に従うこと。

現代文化学部　　2024（令和6）年度

授業科目名	こども文化セミナーAa	担当教員名	大竹　聖美				
コード	22CHI302	区分 （必修・選択）	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

●アクティブラーニング＜こども文化・現代文化＞～地域・環境・多文化・共生の視点から～＜前半戦＞●
本講座は、＜こども文化・現代文化の課題解決＞に取り組むアクティブラーニングのスタイルをとる。
学生は主体的に課題を発見し、その解決に向けて自ら企画立案、実践、考察することを通して、こども文化の領域で生涯主体的に学び続け協働することができる態度と方法を身につける。
こども文化・現代文化の現状認識の為のフィールドワーク、歴史考察、比較研究、資料分析、文献調査を行い、またその手法を学び、課題を発見し、
課題解決につながるような提案（活動・創作・研究）にチャレンジする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 こどもの文化について自らテーマを設定し、課題を見つけることができる。		○	
2 こども文化・子育て支援を通した地域活性化について具体的な提案ができる。		○	
3 観察・調査・報告・討論・企画立案・プレゼンができる。		○	
4 チームワークの基礎を修得し、リーダーシップがとれる		○	
5 卒業論文・研究・制作の具体的なテーマを決定する。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	オリエンテーション――本講座とアクティブ・ラーニングに関する説明	予習（40分）：こども文化の中で、特に自分が関心のある領域、対象について書き出し、分類し、疑問点を整理する 復習（40分）：関心領域の参考文献を調べる
2	今学期の具体的なテーマ設定と学外授業案の検討および決定	予習（40分）：先行研究の整理、文献リスト作成 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
3	地域研究・テーマ別研究（1）―　過去の事例に学ぶ	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
4	地域研究・テーマ別研究（2）―　課題を発見する	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
5	地域研究・テーマ別研究（3）―　自分の興味・関心と関係づける	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
6	地域研究・テーマ別研究（4）―　各自のテーマを設定する	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
7	フィールドワーク（1）――現状の観察	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
8	フィールドワーク（2）――課題点の発見	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
9	考察と課題の整理 企画・立案	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
10	提案・交渉	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
11	報告と振り返り	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
12	お話会の研究 ―テーマの決定、選書、手遊び歌、言葉遊び、工作等の企画立案	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 ＊大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「おはなし会データベース」を活用する：https://www.justice.co.jp/iiclo/ohanashi/ 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
13	お話会の構成 ―ペープサート、パネル、小道具類の作成	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
14	お話会の実践	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング
15	お話会の総括、前期のまとめ	予習（40分）：疑問点の書き抜き・分類・整理 復習（40分）：資料・課題図書のリーディング

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。
・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度（課題への取り組み）30％、発表30％、提出物40％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

授業中に指定する。

【参考書】

『絵本のよろこび』松居直，NHK出版
『絵本はともだち』中村柾子，福音館書店
『えほんのせかい　こどものせかい』松岡享子，日本エディタースクール出版部
『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本からYAまで300』野上暁ほか，岩崎書店

【オープンな教育リソース】

＊大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「おはなし会データベース」を活用する：https://www.justice.co.jp/iiclo/ohanashi/
＊千葉大学アカデミック・リンク・センター　『児童文学事典』 https://alc.chiba-u.jp/cl/index.html

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

月曜：昼休み・4限、金曜：昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

＊学外フィールドワークの都合などにより授業計画に変更が生じる場合がある。その場合は事前に告知する。
＊学外授業が想定されているため、授業は固定の時間割の日時ではなく、他の曜日や時間帯に集中的に振り替えになることがある。
＊学外授業のスケジュールは学外施設との調整が必要なため、直前に日程変更になる場合がある。
＊学外授業時の交通費、入場料、材料費などは個人負担とする。
＊本演習では、生成AIの使用を前提としたり、利活用を指示した課題は教員からは出さない。使用した場合は、利活用の方法が逸脱したものでないか、教員に相談してほしい。
　有効な活用方法についてディスカッションしたいと思う。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーAa	担当教員名	田尻　真理子				
コード	22CHI302	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

受講生は自身の専門・関心に応じて設定したテーマについて資料収集・整理・検討・発表を行う。
なお、制作を卒業要件とする場合も、制作物に関連した文研研究を行い、論文形式でのレポートを提出する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 テーマに応じた資料収集、処理、整理、資料の活用法、論文の書き方、発表方法を身につける。		○	
2 社会人となった後も円滑な問題解決能力および他者との十全なコミュニケーションがはかれるようになる。		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	導入:授業の進め方、評価方法、テーマ設定のためのブレインストーミング	田尻	**シラバスをよく読んでくる(30分)／B6カード、B6ファイル2冊を用意する【事前】**
2	論文作成のための図書館利用法	図書館司書	第1回配布資料をよく読み持参すること(第2回・事前)(60分)【事前】
3	テーマ(仮)設定、文献探索	田尻	第2回配布資料に必要事項を記入する(60分)【事前】
4	文献探索と書誌カード、キーワードカードの復習	田尻	**第3回で収集した文献を持参する【事前】**
5	文献読解とキーワードカード作成のコツ	田尻	第4回で決定した文献を読みキーワードをマークする(3時間)【事前】
6	レジュメ・パワーポイント作成の復習	田尻	**書誌カード、キーワードカードを作成する(2時間)【事前】**
7	キーワードカードを使ってアウトラインを作成する	田尻	**書誌カード、キーワードカードを作成する(2時間)【事前】**
8	アウトラインに沿って発表原稿の準備をする	田尻	**書誌カード、キーワードカードを作成する(2時間)【事前】／アウトラインを完成させる【事後】**
9	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
10	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
11	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
12	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
13	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
14	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
15	論文形式での執筆の仕方の復習:章立て、注、引用、生成AIの使用法	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

提出物添削、授業時ディスカッション

【成績の評価方法】

課題:50%
定期試験:50%(レポート)
合計:100%

【生成AI利活用（　有　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 決定次第連絡
【教員連絡先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーAa	担当教員名	田中　路				
コード	22CHI302	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本セミナーではこども文化専門科目のひとつとして、こどもと音楽に関わるテーマについて文献研究や楽曲分析・鑑賞などを通して学問的に理解を深め、論文に纏める。
セミナー全体で研究に関する基礎的な事項(先行研究の収集方法、データ等の分析方法、プレゼンテーションの方法、論文のまとめ方等)を学びながら、各自が興味関心のある研究テーマを設定し考察する。
本学の学位授与の方針のうち、「こども文化・保育 ・教育全般への思考力・判断力」を身に着けるために、音楽の指導法研究、子どもの歌の作品研究、音楽教育メソッド研究など、
こどもと音楽に関わる様々な面から研究にアプローチする。文献や論文の講読の他、楽曲の演奏・鑑賞を通して、ディスカッションを行う場合もある。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 卒業論文のテーマを決め、論文執筆の大まかな見通しを立てることができる	○				
2 論文執筆に必要な資料が収集できる	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明 イントロダクション:研究の意義と方法	田中	復習:イントロダクションで扱った「研究の意義と方法」について復習する(1時間)
2	こどもと音楽に関する研究について(音楽教育研究の主な分類)	田中	復習:音楽教育研究の主な分類について復習する(1時間)
3	レポート「私の音楽教育観」発表(1)	田中	予習:レポート「私の音楽教育観」を作成する(1時間)
4	レポート「私の音楽教育観」発表(2)	田中	予習:レポート「私の音楽教育観」を作成する(1時間)
5	プレゼンテーションの方法 音楽教育の主要なメソッド(1):コダーイ・システム	田中	予習:コダーイ・システムについて概要を調べておく(30分) 復習:コダーイ・システムの特色について復習し、まとめる(30 分)
6	音楽教育の主要なメソッド(2):オルフ・シュールヴェルク	田中	予習:オルフ・シュールヴェルクについて概要を調べておく(30分) 復習:オルフ・シュールヴェルクの特色について復習し、まとめる(30 分)
7	音楽教育の主要なメソッド(3):スズキメソッド	田中	予習:スズキメソッドについて概要を調べておく(30分) 復習:スズキメソッドの特色について復習し、まとめる(30 分)
8	音楽教育の主要なメソッド(4):ヤマハ音楽教育システム 文献講読についての説明、分担決め	田中	予習:ヤマハ音楽教育システムについて概要を調べておく(30分) 復習:ヤマハ音楽教育システムの特色について復習し、まとめる(30 分)
9	文献講読(1)	田中	予習・復習:指定された文献を読み、担当箇所の発表準備を行う(1時間)
10	文献講読(2)	田中	予習・復習:指定された文献を読み、担当箇所の発表準備を行う(1時間)
11	文献講読(3)	田中	予習・復習:指定された文献を読み、担当箇所の発表準備を行う(1時間)
12	文献講読(4)	田中	予習・復習:指定された文献を読み、担当箇所の発表準備を行う(1時間)
13	テーマ設定に関する個人指導(1)	田中	予習・復習:各人の興味関心を研究へまとめるための準備(資料収集等)を行う(1時間)
14	テーマ設定に関する個人指導(2)	田中	予習・復習:各人の興味関心を研究へまとめるための準備(資料収集等)を行う(1時間)
15	中間報告 前期のまとめ	田中	予習・復習:各人の興味関心を研究へまとめるための準備(資料収集等)を行う(1時間)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回セミナー時に教員がチェックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度(課題への取り組み)50%、発表 50%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】 音楽とこどもの関わりに高い関心があること。研究の一環としてセミナー内で演奏(器楽や歌唱)をする場合があるので、楽譜を読むことや人前で演奏することに抵抗がないこと。
【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーAb	担当教員名	井上 救				
コード	22CHI303	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本授業は、「こども文化セミナーAa」に引き続き、コンピュータ・グラフィックスやデザインの要素を生かした造形作品(絵本、アニメーション、玩具や遊具、楽器など)制作について、
アイディアや技法、知識について実践を通じて深く学び、卒業研究、卒業制作に向けて完成度を高めるため着実な準備を進めて行く。
受講生の興味、関心を基に各自でテーマを設定し、情報収集や検証を積み重ね、こどもに対し制作作品がどの様に係わって行くのかを調査、研究し、4年間の学びの集大成となる様、自ら研鑽し、
質の高い作品を目指す。基本的に、授業時間は卒業制作および制作ノートの作業と外部から依頼があった作品を進める時間として充てることになるので、
情報の共有や意見交換などの場として有効に活用し進めること。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 こどもに関わるデザインに対する知識を得ることができる。		○			
2 デザイン要素をいかすために必要なスキル(情報取集力、問題解決力、美的感性など)を体得することができる。		○			
3 一つひとつの積み重ねから形を作り上げる達成感を得ることで、感動を伝えることの大切さを実践できる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	夏季休業中の進行チェック・制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
2	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
3	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
4	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
5	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
6	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
7	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
8	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
9	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
10	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
11	制作(完成に向けて進行状況の見直し)	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
12	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
13	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
14	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
15	作品完成→最終講評	井上	予習(60分)後期の振り返り(反省と今後の制作への生かすための考察) 復習(60分)作業進行の記録をまとめて提出

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

作業工程、制作方法など授業内で適宜フィードバックを行う

【成績の評価方法】

授業参加度:50%
課題制作作品:50%
合計:100%

1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。
2. 課題制作作品は完成度、オリジナルの創意工夫がみられるか等、総合評価とする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

・ PCを使用する場合、ソフトの数に制限があること、また、作業場が限られるので、受講者が多い場合は要注意。
・ 加工用の素材は、こちらで用意するものと本人負担するものがあるので、指示をよく確認すること。
・ アイディア出しや作業確認のため、エスキース帳（線の入っていないノート）を用意すること。

【教科書】

特になし

【参考書】

必要に応じ、授業内で紹介

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

前期:月曜日12:10～13:00、後期:火曜日12:10～13:00

【教員連絡先】

sinoue@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

時間内で作業が終わらない場合は、自主的に時間を設けて制作をすることが望ましい。
制作については、外部からの依頼などシラバスに表記されていないものも随時取り入れ進める予定である。
また授業以外で制作研究班の活動も行うことになる（真夏のデザインフェスタ、聖母祭での展示など）。
制作活動は工作機械、塗料、接着剤など汚れる可能性のあるものも扱うので、そのつもりで取り組むこと。
危険を伴う道具や工具も取り扱う場合もあるので、指導に従うこと。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーAb	担当教員名	大竹　聖美				
コード	22CHI303	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

●アクティブラーニング＜こども文化・現代文化＞～地域・環境・多文化・共生の視点から～＜後半戦＞●
本講座は、＜こども文化・現代文化の課題解決＞に取り組むアクティブラーニングのスタイルをとる。
学生は主体的に課題を発見し、その解決に向けて自ら企画立案、実践、考察することを通して、こども文化の領域で生涯主体的に学び続け協働することができる態度と方法を身につける。
こども文化・現代文化の現状認識の為のフィールドワーク、歴史考察、比較研究、資料分析、文献調査を行い、またその手法を学び、課題を発見し、
課題解決につながるような提案(活動・創作・研究)にチャレンジする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 こどもの文化について自らテーマを設定し、課題を見つけることができる。		○	
2 こども文化・子育て支援を通した地域活性化について具体的な提案ができる。		○	
3 観察・調査・報告・討論・企画立案・プレゼンができる。		○	
4 チームワークの基礎を修得し、リーダーシップがとれる		○	
5 卒業論文・研究・制作の具体的なテーマを決定する。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
16	1. 後期のアクティブラーニング立案 2. 卒業論文・研究・制作に関する過去の事例について	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
17	1. 後期のアクティブラーニング計画決定 2. 卒業論文・研究・制作に関する先行研究調査、予備調査について	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
18	卒業論文・研究・制作に関するディスカッション	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
19	フィールドワーク(1)――観察	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
20	フィールドワーク(2)――課題の発見	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
21	フィールドワーク(3)――問題の明確化	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
22	フィールドワーク報告会・討論(1)――問題点と改善策を探る 卒業論文・研究・制作に関する報告会	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
23	フィールドワーク(4)――交渉	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
24	フィールドワーク(5)――実践	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
25	フィールドワーク(6)――評価	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
26	フィールドワーク報告会・討論(2)――挑戦したことは何か 卒業論文・研究・制作に関する報告会	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
27	フィールドワーク(7)――修正案の実施	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
28	フィールドワーク(8)――到達点の検証	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
29	1. フィールドワーク総括 2. 卒業論文・研究・制作に関する個人指導(1)――現時点での到達点の確認	予習(40分): 疑問点の書き抜き・分類・整理 復習(40分): 資料・課題図書のリーディング
30	1. アクティブラーニング総括 2. 卒業論文・研究・制作に関する個人指導(2)――今後の見通し	予習(40分): 本セミナーの学習到達度に関する自己評価を行う 復習(40分): こども文化セミナーBに向けた目標を設定する

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。
・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度（課題への取り組み）30％、発表30％、提出物40％

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

授業中に指定する。

【参考書】

『絵本のよろこび』松居直，NHK出版
『絵本はともだち』中村柾子，福音館書店
『えほんのせかい　こどものせかい』松岡享子，日本エディタースクール出版部
『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本からYAまで300』野上暁ほか，岩崎書店

【オープンな教育リソース】

＊大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「おはなし会データベース」を活用する：https://www.justice.co.jp/iiclo/ohanashi/
＊千葉大学アカデミック・リンク・センター　『児童文学事典』 https://alc.chiba-u.jp/cl/index.html

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

月曜：昼休み・4限、金曜：昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

＊学外フィールドワークの都合などにより授業計画に変更が生じる場合がある。その場合は事前に告知する。
＊学外授業が想定されているため、授業は固定の時間割の日時ではなく、他の曜日や時間帯に集中的に振り替えになることがある。
＊学外授業のスケジュールは学外施設との調整が必要なため、直前に日程変更になる場合がある。
＊学外授業時の交通費、入場料、材料費などは個人負担とする。
＊本演習では、生成AIの使用を前提としたり、利活用を指示した課題は教員からは出さない。
　使用した場合は、利活用の方法が逸脱したものでないか、教員に相談してほしい。有効な活用方法についてディスカッションしたいと思う。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーAb	担当教員名	田尻　真理子				
コード	22CHI303	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

受講生は自身の専門・関心に応じて設定したテーマについて資料収集・整理・検討・発表を行う。
なお、制作を卒業要件とする場合も、制作物に関連した文研研究を行い、論文形式でのレポートを前・後期に提出する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 テーマに応じた資料収集、処理、整理、資料の活用法、論文の書き方、発表方法を身につける。		○	
2 社会人となった後も円滑な問題解決能力および他者との十全なコミュニケーションがはかれるようになる。		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	各人のテーマの確認と進捗状況の報告	田尻	B6カード、B6ファイル2冊を用意してくる／Aaの成果をA4一毎に纏め前日までにgmailで田尻に送付
2	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
3	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
4	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
5	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
6	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
7	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
8	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
9	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
10	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
11	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
12	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
13	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
14	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
15	レポートアウトラインの検討	田尻	アウトライン作成【事前】

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

提出物添削および授業内ディスカッション

【成績の評価方法】

課題:50%
定期試験:50%
合計:100%

【生成AI利活用（　有　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 決定次第連絡
【教員連絡先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーAb	担当教員名	田中　路				
コード	22CHI303	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本セミナーではこども文化専門科目のひとつとして、こどもと音楽に関わるテーマについて文献研究や楽曲分析・鑑賞などを通して学問的に理解を深め、論文に纏める。
セミナー全体で研究に関する基礎的な事項(先行研究の収集方法、データ等の分析方法、プレゼンテーションの方法、論文のまとめ方等)を学びながら、各自が興味関心のある研究テーマを設定し考察する。
本学の学位授与の方針のうち、「こども文化・保育 ・教育全般への思考力・判断力」を身に着けるために、音楽の指導法研究、子どもの歌の作品研究、音楽教育メソッド研究など、
こどもと音楽に関わる様々な面から研究にアプローチする。文献や論文の講読の他、楽曲の演奏・鑑賞を通して、ディスカッションを行う場合もある。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 卒業論文のテーマを決め、論文執筆の大まかな見通しを立てることができる	○				
2 論文執筆に必要な資料が収集できる	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	テーマ設定についてのディスカッション	田中	予習・復習:各人のテーマ設定についてプレゼンテーションの準備を行う(1時間)
2	先行研究収集に関する個人指導(1)	田中	予習・復習:先行研究の収集を行い、文献リストを作成する(60 分)
3	先行研究収集に関する個人指導(2)	田中	予習・復習:先行研究の収集を行い、文献リストを作成する(60 分)
4	先行研究収集に関する個人指導(3)	田中	予習・復習:先行研究の収集を行い、文献リストを作成する(60 分)
5	先行研究収集に関する個人指導(4)	田中	予習・復習:先行研究の収集を行い、文献リストを作成する(60 分)
6	卒業論文・研究に関する個人指導(1)	田中	予習・復習:論文のアウトライン、章立てなどの構成を練る(60 分)
7	卒業論文・研究に関する個人指導(2)	田中	予習・復習:論文のアウトライン、章立てなどの構成を練る(60 分)
8	卒業論文・研究に関する個人指導(3)	田中	予習・復習:論文のアウトライン、章立てなどの構成を練る(60 分)
9	卒業論文・研究に関する個人指導(4)	田中	予習・復習:論文のアウトライン、章立てなどの構成を練る(60 分)
10	卒業論文・研究に関する個人指導(5)	田中	予習・復習:論文のアウトライン、章立てなどの構成を練る(60 分)
11	卒業論文・研究に関する個人指導(6)	田中	予習・復習:論文のアウトライン、章立てなどの構成を練る(60 分)
12	卒業論文・研究に関する個人指導(7)	田中	予習・復習:論文のアウトライン、章立てなどの構成を練る(60 分)
13	卒業論文・研究に関する個人指導(8)	田中	予習・復習:論文のアウトライン、章立てなどの構成を練る(60 分)
14	研究進捗状況報告(1)	田中	予習:3年次に行った研究についての進捗状況報告の準備をする(60 分)
15	研究進捗状況報告(2) 後期のまとめ	田中	予習:3年次に行った研究についての進捗状況報告の準備をする(60 分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回セミナー時に教員がチェックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度(課題への取り組み)50%、発表 50%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

音楽とこどもの関わりに高い関心があること。研究の一環としてセミナー内で演奏(器楽や歌唱)をする場合があるので、楽譜を読むことや人前で演奏することに抵抗がないこと。

【教科書】

特になし

【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	井上 救				
コード	19CHI304	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本授業は、前期科目の「こども文化セミナーA」に引き続き、コンピュータ・グラフィックスやデザインの要素を生かした造形作品（絵本、アニメーション、玩具や遊具、楽器など）制作について、
アイディアや技法、知識について実践を通じて深く学び、卒業研究、卒業制作に向けて完成度を高めるため着実な準備を進めて行く。
受講生の興味、関心を基に各自でテーマを設定し、情報収集や検証を積み重ね、こどもに対し制作作品がどの様に係わって行くのかを調査、研究し、4年間の学びの集大成となる様、
自ら研鑽し、質の高い作品を目指す。基本的に、授業時間は卒業制作および制作ノートの作業を進める時間として充てることになるので、情報の共有や意見交換などの場として有効に活用し進めること。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③		
1 こどもに関わるデザインに対する知識を得ることができる。		○			
2 デザイン要素をいかすために必要なスキル（情報取集力、問題解決力、美的感性など）を体得することができる。		○			
3 一つひとつの積み重ねから形を作り上げる達成感を得ることで、感動を伝えることの大切さを実践できる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	オリエンテーション：授業の概要 作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
2	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
3	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
4	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
5	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
6	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
7	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
8	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
9	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
10	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
11	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
12	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
13	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
14	作品制作	井上	予習（60分）自主制作　素材、方法の検証 復習（60分）作業進行の記録をまとめること
15	作品制作及び中間講評	井上	予習（60分）夏季休業中の課題をまとめる 復習（60分）作業進行の記録をまとめて提出

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク		
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

作業工程、制作方法など授業内で適宜フィードバックを行う

【成績の評価方法】

授業参加度:50%
課題制作作品:50%
合計:100%

1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。
2. 課題制作作品は完成度、オリジナルの創意工夫がみられるか等、総合評価とする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

・PCを使用する場合、ソフトの数に制限があること、また、作業場が限られるので、受講者が多い場合は要注意。
・加工用の素材は、こちらで用意するものと本人負担するものがあるので、指示をよく確認すること。
・アイディア出しや作業確認のため、エスキース帳（線の入っていないノート）を用意すること。

【教科書】

特になし

【参考書】

必要に応じ、授業内で紹介

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

前期:月曜日12:10～13:00、後期:火曜日12:10～13:00

【教員連絡先】

sinoue@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

時間内で作業が終わらない場合は、自主的に時間を設けて制作をすることが望ましい。
制作活動は工作機械、塗料、接着剤など汚れる可能性のあるものも扱うので、そのつもりで取り組むこと。
危険を伴う道具や工具も取り扱う場合もあるので、指導に従うこと。

現代文化学部　　2024（令和6）年度

授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	大竹　聖美				
コード	19CHI304	区分 （必修・選択）	卒業必修	選択	保育士課程	幼稚園教職課程	
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

●アクティブラーニング＜こども文化＞～地域・環境・多文化・共生の視点から～●＜その2・個人のテーマを追求する＞（前半戦）
こども文化の領域における様々な課題を解決していくアクティブラーニングの講座である。
本講座は、こども文化や地域の子育て支援への理解を深め、他者（特に、こどもやこどもを育てる保育者たち）に対して、より良い子ども文化との出会いを手助けできる、
優れた仲介者（こども文化の専門家）となるための訓練の場となることを目標とする。例えば、ブックスタートやこどもと本をとりまく市民運動、推薦図書や課題図書の考察のほか、
作家研究、キーワード研究など、受講生とテーマを自由に設定するところからはじめ、多角的な取り組みを行う。
その取り組みは、卒業論文・研究・制作の形で、受講者が各自のテーマを設定し、課題を探究し、まとめていく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 卒業論文・研究・制作を完成させる。		○	
2 卒業論文・研究・制作を通して、こども文化（こどもの本の文化・こどもの文化全般）への理解を深め、各自のこども文化観を確立させる。		○	
3 個別指導を通して、こども文化学科における学びの最終的な仕上げを行う。		○	
4 チームワークの基礎を修得し、リーダーシップがとれる		○	
5 学外施設等でのアクティブラーニングを通して、こども文化の領域の課題を発見し、それを解決していく能力を身につける。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	オリエンテーション――アクティブラーニングと研究に関する説明	予習（40分）：先行研究の調査 復習（40分）：資料のリーディング ＊大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「ドキドキ絵本づくり」を活用する https://www.justice.co.jp/dokidoki/
2	卒業論文・研究・制作ガイダンス	予習（40分）：先行研究の整理、文献リスト作成 復習（40分）：資料、課題図書のリーディング
3	卒業論文・研究・制作個別指導（導入・1）現状の把握	予習（40分）：先行研究の整理、文献リスト作成 復習（40分）：資料、課題図書のリーディング
4	卒業論文・研究・制作個別指導（導入・2）軌道修正	予習（40分）：研究課題シートの作成 復習（40分）：研究目的・研究方法の整理
5	卒業論文・研究・制作個別指導（初期・1）執筆の具体的な指導	予習（40分）：研究目的・研究方法シートの作成 復習（40分）：資料、課題図書のリーディング
6	卒業論文・研究・制作個別指導（初期・2）修正原稿の指導	予習（40分）：「表紙・目次・はじめに」の作成 復習（40分）：資料、課題図書のリーディング
7	卒業論文・研究・制作個別指導（初期・3）論点の整理	予習（40分）：段落構成メモの作成 復習（40分）：資料、課題図書のリーディング
8	卒業論文・研究・制作個別指導（中期・1）論文構成立案	予習（40分）：参考文献リストの作成 復習（40分）：資料、課題図書のリーディング
9	卒業論文・研究・制作個別指導（中期・2）第一論点の執筆	予習（40分）：「本論1」の執筆 復習（40分）：「本論1」の修正
10	中間発表会に向けたガイダンス	予習（40分）：資料収集 復習（40分）：資料、課題図書のリーディング
11	中間発表会に向けた指導（1） ―レジュメの作成	予習（40分）：資料収集 復習（40分）：資料、課題図書のリーディング

12	中間発表会に向けた指導(2) ―レジュメの修正	予習(40分): レジュメの作成 復習(40分): レジュメの修正
13	中間発表会に向けた指導(3) ―パワーポイントの作成	予習(40分): パワーポイントの材料の整理 復習(40分): レジュメの清書、提出
14	中間発表会に向けた指導(4) ―パワーポイントの修正、プレゼン練習	予習(40分): パワーポイント作成 復習(40分): パワーポイントの修正
15	中間発表	予習(40分): 中間発表準備 復習(40分): 中間発表の自己評価、次の目標設定

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。
・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度(課題への取り組み)30%、発表30%、提出物40%

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

授業中に指定する。

【参考書】

『絵本のよろこび』松居直, NHK出版
『絵本はともだち』中村柾子, 福音館書店
『えほんのせかい　こどものせかい』松岡享子, 日本エディタースクール出版部
『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本からYAまで300』野上暁ほか, 岩崎書店

【オープンな教育リソース】

＊大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「おはなし会データベース」を活用する:https://www.justice.co.jp/iiclo/ohanashi/
＊千葉大学アカデミック・リンク・センター　『児童文学事典』 https://alc.chiba-u.jp/cl/index.html

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

月曜:昼休み・4限、金曜:昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

＊学外フィールドワークの都合などにより授業計画に変更が生じる場合がある。その場合は事前に告知する。
＊学外授業が想定されているため、授業は固定の時間割の日時ではなく、他の曜日や時間帯に集中的に振り替えになることがある。
＊学外授業のスケジュールは学外施設との調整が必要なため、直前に日程変更になる場合がある。
＊学外授業時の交通費、入場料、材料費などは個人負担とする。
＊本演習では、生成AIの使用を前提としたり、利活用を指示した課題は教員からは出さない。
　使用した場合は、利活用の方法が逸脱したものでないか、教員に相談してほしい。有効な活用方法についてディスカッションしたいと思う。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	田尻　真理子				
コード	19CHI304	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

受講生は自身の専門・関心に応じて設定したテーマについて資料収集・整理・検討・発表を行う。
最終年次生として4年間の総括に相応しい論文、研究、制作が完成するよう、授業内での成果を授業外学修で十分に敷衍することが要求される。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 テーマに応じた資料収集、処理、整理、資料の活用法、論文の書き方、発表方法が身に付く。		○	
2 テーマに関して、先行研究に照らして、各人なりの新たな知見を明瞭に提示できるようになる。		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	各人のテーマの確認と進捗状況の報告	田尻	シラバスをよく読んでくる(30分) B6カード、B6ファイル2冊を用意してくる こども文化セミナーAの成果をA4一枚に纏め前日までにgmailで田尻に送付
2	図書館利用法(司書による指導)	図書館司書	**第1回配布資料をよく読み持参すること(第2回・事前)(60分)**
3	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
4	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
5	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)事前
6	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
7	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
8	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
9	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
10	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
11	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者はレジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
12	中間発表準備	田尻	**中間発表に向けたアウトライン制作(4時間)【事前】**
13	中間発表用原稿・パワーポイント・レジュメチェック・予行演習	田尻	中間発表用原稿・パワーポイント作成(4時間)【事前】
14	中間発表反省	田尻	中間発表で指摘された点、質問と回答を纏める(2時間)【事前】
15	論文形式の復習、レポートアウトライン作成	田尻	レポートアウトライン作成(4時間)【事後】

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

提出物添削、授業時ディスカッション

【成績の評価方法】

課題:50%

定期試験:50%(レポート)
合計:100%

【生成AI利活用(　有　)】

【 ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 決定次第連絡
【教員連絡先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	田中　路				
コード	19CHI304	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本セミナーはこども文化専門科目のひとつとして、こどもと音楽に関わるテーマについて、文献研究や楽曲分析・鑑賞などを通して学問的に理解を深める。
セミナー全体で研究に関する基礎的な事項(先行研究の収集方法、データ等の分析方法、プレゼンテーションの方法、論文のまとめ方等)を学びながら、各自が興味関心のある研究テーマを設定し考察する。
本学の学位授与の方針のうち、「こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力」を身に着けるために、音楽の指導法研究、こどもの歌の作品研究、音楽教育メソッド研究など、
こどもと音楽に関わる様々な面から研究にアプローチする。文献や論文の講読の他、楽曲の演奏・鑑賞を通して、ディスカッションを行う場合もある。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 卒業論文・研究を完成させることができる	○				
2 4年間を通した学びの集大成を、論文執筆、ディスカッション、プレゼンテーションによってまとめることができる	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明 論文執筆にあたっての基本事項の確認	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
2	卒業論文・研究に関する個人指導(1)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
3	卒業論文・研究に関する個人指導(2)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
4	卒業論文・研究に関する個人指導(3)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
5	卒業論文・研究に関する個人指導(4)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
6	卒業論文・研究に関する個人指導(5)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
7	卒業論文・研究に関する個人指導(6)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
8	卒業論文・研究に関する個人指導(7)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
9	卒業論文・研究に関する個人指導(8)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
10	中間発表会に向けたレジュメ作成(1)	田中	予習・復習:中間発表会用のレジュメを作成する(60 分)
11	中間発表会に向けたレジュメ作成(2)	田中	予習・復習:中間発表会用のレジュメを作成する(60 分)
12	中間発表会に向けたスライド作成(1)	田中	予習:スライド(パワーポイント)を作成する(30 分) 復習:添削されたスライド(パワーポイント)を修正する(30 分)
13	中間発表会に向けたスライド作成(2)	田中	予習:スライド(パワーポイント)を作成する(30 分) 復習:添削されたスライド(パワーポイント)を修正する(30 分)
14	中間発表会リハーサル	田中	予習・復習:実際の発表の練習を行う(60 分)
15	前期のまとめ	田中	予習:前期の研究の進捗をまとめ、後期の見通しを立てる(60 分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回セミナー時に教員がチェックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度(課題への取り組み)50%、発表 50%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

音楽とこどもの関わりに高い関心があること。研究の一環としてセミナー内で演奏(器楽や歌唱)をする場合があるので、楽譜を読むことや人前で演奏することに抵抗がないこと。

【教科書】

特になし

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

火曜 12時15分～50分

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	増田　光				
コード	19CHI304	区分 （必修・選択）	卒業必修	選択	保育士課程	幼稚園教職課程	
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本セミナーでは3年次に引き続き、演劇・映画をトピックとして論文の書き方を学ぶ。前半では「問い」に答えてその「論拠」を示す方法論を習得する。
後半では受講生の知的関心に合わせて、論文作成のための指導を行い、研究発表の方法を習得する。
この科目は、こども文化学科4年次の必修科目で、カリキュラム上の卒業論文・制作・研究を準備する役割を担っている。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 学生は「問い」に答えてその「論拠」を示すという学問研究の基本中の基本を学び、論文が書けるようになり、高度な知識を身につける。		○	
2 研究発表において自分の考えを論理的に、説得力をもって発信できるようになり、創造的なコミュニケーションを取ることができる。		○	
3 「論理的」に考え、話し、書けるようになり、主体的に判断し、多文化共生社会を積極的に生きることができる。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	情報とは何か?	テキストの9-16ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
2	問いを立てる	テキストの17-18ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
3	オリジナリティとは何か	テキストの19-20ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
4	1次情報と2次情報	テキストの20-22ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
5	インプットとアウトプット	テキストの22-48ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
6	先行研究とは何か	テキストの50-63ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
7	「批判的」であること	テキストの63-70ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
8	研究計画書を書く	テキストの71-72ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
9	研究テーマ	テキストの73-74ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
10	研究内容	テキストの74-77ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
11	研究対象	テキストの78-80ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
12	研究方法	テキストの80-114ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
13	方法論とは何か	テキストの116-141ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
14	事例研究	テキストの142-154ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
15	まとめ	テキストの9-154ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題に対するフィードバックは、次回講義時に行う。

【成績の評価方法】

1 質疑応答　30%　事前にテキストを熟読し、授業時に質疑応答ができること。2 研究発表　30%　卒業論文に結び付く独自のトピックで研究発表を行うこと。
3 研究論文　40%　各自の「問い」に答えてその「論拠」4000字以上で小論文としてまとめること。

【生成AI利活用（　無　）】

【ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

4年次の必修科目です。

【教科書】

上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書
【参考書】 戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHKブックス
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 月曜日3, 4時限
【教員連絡先】 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	井上 救				
コード	19CHI305	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本授業は、前期科目の「こども文化セミナーBa」に引き続き、コンピュータ・グラフィックスやデザインの要素を生かした造形作品(絵本、アニメーション、玩具や遊具、楽器など)制作について、
アイディアや技法、知識について実践を通じて深く学び、卒業研究、卒業制作に向けて完成度を高めるため着実な準備を進めて行く。
受講生の興味、関心を基に各自でテーマを設定し、情報収集や検証を積み重ね、こどもに対し制作作品がどの様に係わって行くのかを調査、研究し、4年間の学びの集大成となる様、
自ら研鑽し、質の高い作品を目指す。基本的に、授業時間は卒業制作および制作ノートの作業を進める時間として充てることになるので、情報の共有や意見交換などの場として有効に活用し進めること。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③		
1 こどもに関わるデザインに対する知識を得ることができる。		○			
2 デザイン要素をいかすために必要なスキル(情報取集力、問題解決力、美的感性など)を体得することができる。		○			
3 一つひとつの積み重ねから形を作り上げる達成感を得ることで、感動を伝えることの大切さを実践できる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	夏季休業中の進行チェック 作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
2	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
3	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
4	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
5	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
6	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
7	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
8	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
9	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
10	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
11	制作(完成に向けて進行状況の見直し)	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
12	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
13	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
14	作品制作	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめること
15	作品制作及び最終講評	井上	予習(60分)自主制作　素材、方法の検証 復習(60分)作業進行の記録をまとめて提出

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

作業工程、制作方法など授業内で適宜フィードバックを行う

【成績の評価方法】

授業参加度:50%
課題制作作品:50%
合計:100%

1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。
2. 課題制作作品は完成度、オリジナルの創意工夫がみられるか等、総合評価とする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

・ PCを使用する場合、ソフトの数に制限があること、また、作業場が限られるので、受講者が多い場合は要注意。
・ 加工用の素材は、こちらで用意するものと本人負担するものがあるので、指示をよく確認すること。
・ アイディア出しや作業確認のため、エスキース帳（線の入っていないノート）を用意すること。

【教科書】

特になし

【参考書】

必要に応じ、授業内で紹介

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

前期:月曜日12:10～13:00、後期:火曜日12:10～13:00

【教員連絡先】

sinoue@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

時間内で作業が終わらない場合は、自主的に時間を設けて制作をすることが望ましい。
制作活動は工作機械、塗料、接着剤など汚れる可能性のあるものも扱うので、そのつもりで取り組むこと。
危険を伴う道具や工具も取り扱う場合もあるので、指導に従うこと。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	大竹　聖美				
コード	19CHI305	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	保育士課程	幼稚園教職課程	
			○				
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

●アクティブラーニング＜こども文化＞～地域・環境・多文化・共生の視点から～●＜その2・個人のテーマを追求する＞(後半戦)
こども文化の領域における様々な課題を解決していくアクティブラーニングの講座である。
本講座は、こども文化や地域の子育て支援への理解を深め、他者(特に、こどもやこどもを育てる保育者たち)に対して、より良い子ども文化との出会いを手助けできる、
優れた仲介者(こども文化の専門家)となるための訓練の場となることを目標とする。
例えば、ブックスタートやこどもと本をとりまく市民運動、推薦図書や課題図書の考察のほか、作家研究、キーワード研究など、受講生とテーマを自由に設定するところからはじめ、多角的な取り組みを行う。
その取り組みは、卒業論文・研究・制作の形で、受講者が各自のテーマを設定し、課題を探究し、まとめていく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 卒業論文・研究・制作を完成させる。		○	
2 卒業論文・研究・制作を通して、こども文化(こどもの本の文化・こどもの文化全般)への理解を深め、各自のこども文化観を確立させる。		○	
3 個別指導を通して、こども文化学科における学びの最終的な仕上げを行う。		○	
4 チームワークの基礎を修得し、リーダーシップがとれる		○	
5 学外施設等でのアクティブラーニングを通して、こども文化の領域の課題を発見し、それを解決していく能力を身につける。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
16	卒業論文・研究・制作個別指導(中期・3)執筆原稿の指導	予習(40分):「本論2」執筆 復習(40分):「本論2」修正
17	卒業論文・研究・制作個別指導(中期・4)論文構成の修正	予習(40分):「本論3」の執筆 復習(40分):「本論3」の修正
18	卒業論文・研究・制作個別指導(後期・1)第二論点の執筆	予習(40分):「本論4」の執筆 復習(40分):「本論4」の修正
19	卒業論文・研究・制作個別指導(後期・2)第二論点の指導	予習(40分):「本論5」の執筆 復習(40分):「本論5」の修正
20	卒業論文・研究・制作個別指導(後期・3)第二論点の修正と第三論点の執筆	予習(40分):「本論6」の執筆 復習(40分):「本論6」の修正
21	卒業論文・研究・制作個別指導(後期・4)第三論点の指導	予習(40分):「本論7」の執筆 復習(40分):「本論7」の修正
22	卒業論文・研究・制作個別指導(仕上げ・1)結論の執筆	予習(40分):「結論」の執筆 復習(40分):「結論」の修正
23	卒業論文・研究・制作個別指導(仕上げ・2)全体構成の指導	予習(40分):「全体」の執筆 復習(40分):「全体」の修正
24	卒業論文・研究・制作個別指導(仕上げ・3)全体の修正指導	予習(40分):「完成」に向けた修正 復習(40分):「完成」に向けた再修正
25	卒業論文・研究・制作の提出、展示会、発表会に向けたガイダンス	予習(40分): レジュメの執筆 復習(40分): レジュメの修正
26	卒業論文・研究・制作個別指導(完成)	予習(40分): レジュメの清書 復習(40分): レジュメの完成
27	卒業論文・研究・制作提出指導(提出) ―レジュメの完成	予習(40分): 提出準備 復習(40分): 提出物と取り組みに対する自己評価を行う
28	卒業論文・研究・制作発表会に向けた指導(1) ―パワーポイントの作成	予習(40分): パワーポイントの作成 復習(40分): パワーポイントの完成
29	卒業論文・研究・制作発表会に向けた指導(2) ―パワーポイント修正、プレゼン練習	予習(40分): パワーポイント修正 復習(40分): プレゼン準備
30	卒業論文・研究・制作発表	予習(40分): プレゼン練習 復習(40分): 本セミナーでの学修全体に対する自己評価を行う

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。
・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度（課題への取り組み）30％、発表30％、提出物40％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

授業中に指定する。

【参考書】

『絵本のよろこび』松居直，NHK出版
『絵本はともだち』中村柾子，福音館書店
『えほんのせかい　こどものせかい』松岡享子，日本エディタースクール出版部
『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本からYAまで300』野上暁ほか，岩崎書店

【オープンな教育リソース】

＊大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「おはなし会データベース」を活用する：https://www.justice.co.jp/iiclo/ohanashi/
＊千葉大学アカデミック・リンク・センター　『児童文学事典』 https://alc.chiba-u.jp/cl/index.html

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

月曜：昼休み・4限、金曜：昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

＊学外フィールドワークの都合などにより授業計画に変更が生じる場合がある。その場合は事前に告知する。
＊学外授業が想定されているため、授業は固定の時間割の日時ではなく、他の曜日や時間帯に集中的に振り替えになることがある。
＊学外授業のスケジュールは学外施設との調整が必要なため、直前に日程変更になる場合がある。
＊学外授業時の交通費、入場料、材料費などは個人負担とする。
＊本演習では、生成AIの使用を前提としたり、利活用を指示した課題は教員からは出さない。使用した場合は、利活用の方法が逸脱したものでないか、教員に相談してほしい。
　有効な活用方法についてディスカッションしたいと思う。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	田尻　真理子				
コード	19CHI305	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	
			○				
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

受講生は自身の専門・関心に応じて設定したテーマについて資料収集・整理・検討・発表を行う。
最終年次生として4年間の総括に相応しい論文、研究、制作が完成するよう、授業内での成果を授業外学修で十分に敷衍することが要求される。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 テーマに応じた資料収集、処理、整理、資料の活用法、論文の書き方、発表方法が身に付く。		○	
2 テーマに関して、先行研究に照らして、各人なりの新たな知見を明瞭に提示できるようになる。		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	各人のテーマの確認と進捗状況の報告	田尻	進捗状況を発表できるよう準備する。(2時間)【事前】
2	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
3	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
4	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
5	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
6	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
7	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論／論文完成にむけて	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
8	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論／論文完成にむけて	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
9	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論／論文完成にむけて	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
10	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論／論文完成にむけて	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
11	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論／論文完成にむけて	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
12	レジュメ・パワーポイントを用いた発表および討論／論文完成にむけて	田尻	文献探索、文献に基づく情報カードの作成、発表者は、レジュメ、パワーポイント作成(4時間)【事前】
13	論文完成にむけて	田尻	原稿作成完成(4時間)【事前】
14	発表原稿、パワーポイントチェック	田尻	**発表原稿完成・パワポ作成(4時間)【事前】**
15	卒論発表会予行	田尻	パワポでタイムを計りながら読み練習(1時間)【事前】

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

提出物添削、授業内ディスカッション

【成績の評価方法】

課題:50%
定期試験:50%
合計:100%

【生成AI利活用（　有　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 決定次第連絡
【教員連絡先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	田中　路				
コード	19CHI305	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本セミナーはこども文化専門科目のひとつとして、こどもと音楽に関わるテーマについて、文献研究や楽曲分析・鑑賞などを通して学問的に理解を深める。
セミナー全体で研究に関する基礎的な事項(先行研究の収集方法、データ等の分析方法、プレゼンテーションの方法、論文のまとめ方等)を学びながら、各自が興味関心のある研究テーマを設定し考察する。
またその集大成を卒業論文・研究・制作という形にまとめることができるよう、探究を進めていく。本学の学位授与の方針のうち、「こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力」を身に着けるために、
音楽の指導法研究、こどもの歌の作品研究、音楽教育メソッド研究など、こどもと音楽に関わる様々な面から研究にアプローチする。
文献や論文の講読の他、楽曲の演奏・鑑賞を通して、ディスカッションを行う場合もある。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 卒業論文・研究を完成させることができる	○				
2 4年間を通した学びの集大成を、論文執筆、ディスカッション、プレゼンテーションによってまとめることができる	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	卒業論文・研究に関する個人指導(1)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
2	卒業論文・研究に関する個人指導(2)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
3	卒業論文・研究に関する個人指導(3)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
4	卒業論文・研究に関する個人指導(4)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
5	卒業論文・研究に関する個人指導(5)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
6	卒業論文・研究に関する個人指導(6)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
7	卒業論文・研究に関する個人指導(7)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
8	卒業論文・研究に関する個人指導(8)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
9	卒業論文・研究に関する個人指導(9)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
10	卒業論文・研究発表会に向けたレジュメ作成(1)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(60 分)
11	卒業論文・研究発表会に向けたレジュメ作成(2)	田中	予習・復習:添削されたレジュメを修正する(60 分)
12	卒業論文・研究発表会に向けたスライド作成(1)	田中	予習・復習:スライド(パワーポイント)を作成する(60 分)
13	卒業論文・研究発表会に向けたスライド作成(2)	田中	予習・復習:添削されたスライド(パワーポイント)を修正する(60 分)
14	卒業論文・研究発表会のリハーサル	田中	予習・復習:実際の発表の練習を行う(60 分)
15	本授業のまとめ	田中	予習・復習:セミナーの振り返り、反省を行う(60 分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回セミナー時に教員がチェックを行う。

【成績の評価方法】

授業参加度(課題への取り組み)50%、発表 50%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

音楽とこどもの関わりに高い関心があること。研究の一環としてセミナー内で演奏(器楽や歌唱)をする場合があるので、楽譜を読むことや人前で演奏することに抵抗がないこと。

【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	増田　光				
コード	19CHI305	区分 （必修・選択）	卒業必修	選択	保育士課程	幼稚園教職課程	
			○				
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本セミナーでは前期に引き続き演劇・映画をトピックとして論文の書き方を学ぶ。前半には「問い」に答えてその「論拠」を示す方法論が身についているかを確認する。
後半には受講生の知的関心に合わせて、論文作成のための指導を行い、研究発表を行う。この科目は、こども文化学科4年次の必修科目で、カリキュラム上の卒業論文・制作・研究を準備する役割を担っている。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 学生は「問い」に答えてその「論拠」を示すという学問研究の基本中の基本を学び、論文が書けるようになり、高度な知識を身につける。		○	
2 研究発表において自分の考えを論理的に、説得力をもって発信できるようになり、創造的なコミュニケーションを取ることができる。		○	
3 「論理的」に考え、話し、書けるようになり、主体的に判断し、多文化共生社会を積極的に生きることができる。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	情報を収集し分析する	テキスト1の155-172ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
2	インタビューの仕方	テキスト1の173-189ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
3	質的情報の分析とは何か?	テキスト1の190-213ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
4	KJ法のその先へ	テキスト1の214-234ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
5	アウトプットする	テキスト1の236-254ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
6	論文を書く	テキスト1の255-282ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
7	コメント力をつける	テキスト1の283-303ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
8	論文の書き方を学ぶ	テキスト1の304-324ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
9	口頭報告をする	テキスト1の326-340ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
10	メッセージを届ける	テキスト1の341-349ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
11	プロデューサーになる	テキスト1の350-355ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
12	文体を選ぶ	テキスト1の356-357ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
13	コンテンツをつくる	テキスト1の357-362ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
14	編集する	テキスト1の363-372ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。
15	まとめ	テキスト1の155-372ページを確認する。1時間の授業外学修を要する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題に対するフィードバックは、次回講義時に行う。

【成績の評価方法】

1 質疑応答　30%　事前にテキストを熟読し、授業時に質疑応答ができること。2 研究発表　30%　卒業論文に結び付く独自のトピックで研究発表を行うこと。
3 研究論文　40%　各自の「問い」に答えてその「論拠」を4000字以上で小論文としてまとめること。

【生成AI利活用（　無　）】

【ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

4年次の必修科目です。

【教科書】

上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書

【参考書】

戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHKブックス

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

月曜日3, 4時限

【教員連絡先】

hmasuda@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	卒業論文・研究・制作	担当教員名	大竹　聖美				
コード	19CHI306	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	保育士課程	幼稚園教職課程	
			○				
年次／期間	4年次／通年	単位／時間数／形態	4単位				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

卒業論文・卒業研究・卒業制作は、こども文化学科の学修の総まとめとして取り組む。
こども文化セミナーで研究してきた内容をさらに深め、各自の卒業研究のテーマにそってこども文化に関する研究(文献研究、フィールドワーク、保育実践、翻訳、作曲、制作、創作等)を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 研究テーマに基づき、卒業論文、卒業研究、卒業制作を完成させる。		○	
2 こども文化全般への広い視野と深い認識を持ち、保育・教育に関する豊かな専門的知識と技能を習得している。		○	
3 こども文化全般に対するこれまでの学修を踏まえて、特に自分の足場となるような専門ジャンルを見出し、独自の視点でオリジナルな論文・研究・制作活動を行う。		○	
4 一つのテーマに継続して取り組むことを通して、学位にふさわしい教養を形成し人格を陶冶した。		○	

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
	1～30 各自の研究計画、指導教員の指導に従って着実にすすめること。 単位取得のための学修時間としては、長期休暇中も含めて通年で毎日平均一時間の取り組みを目安としてほしい。 中間発表　：2024年　7月13日(土) 卒業論文等提出意志確認書提出期間：2024年11月 1日(金)～ 7日(木) 卒業論文等提出期間　：2024年12月5日(木)～10日(火) 卒業制作展　：2025年 1月 6日(月)～20日(月) 本 発 表　：2025年 2月 1日(土)	・論文・研究・制作にかかわらず、担当教員の指導を受け、先行研究を調べ、文献調査、フィールドワーク、予備調査、試作品づくりを丹念に行うこと。 ・その際、図書館のレファレンスサービスも積極的に利用すること。 ・卒業生の卒業論文、卒業制作の副論文・制作ノートはこども文化学科実習指導センターにあるので参照すること。 ・論文の構成方法、脚注・参考文献一覧等の書き方などは指導されたルールを守ること。 ・情報の取り扱いにはよく注意し、研究活動ならびに論文執筆上の研究倫理を遵守すること。具体的なことは指導教員の指導をきちんと受けること。 ・課題作成時におけるデータの記憶媒体(USB等)の取り扱いにはよく注意し、紛失破損等のないようにすること。 ・例年卒業論文等の提出時期になると大学のPCやプリンターに不具合が生じることがよくあるので、計画的に作業を進めること。 ・先行研究調査、資料収集等のために、学内外の検索ネットワークを活用すること。以下は必ずあたってほしい検索ネットワークになる。 東京純心大学図書館所蔵図書＜東京純心大学OPAC＞ http://peter.t-junshin.ac.jp/OPAC4/opac/Top 大学図書館所蔵図書＜CiNii Books＞　http://ci.nii.ac.jp/books 論文検索＜CiNii Articles＞　http://http://ci.nii.ac.jp/ja

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

こども文化セミナーB担当の教員が指導を行う。

【成績の評価方法】

内容、指導状況、取り組み態度、最終発表等について点数化し、主査70%、副査30%で評価する。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】

・学内掲示板をよく確認し、卒業論文・研究・制作に関する提出物の期限や集合日時は厳守すること。
・担当教員の指導に従って着実に研究を進めること。
・中間発表・本発表は必修となっている。
・卒業制作に取り組む学生は、決められた日時に集合し、卒業制作展のための搬入・展示・搬出などを行い、展示期間中にギャラリー受付を分担する義務がある。
・生成AIの使用に関しては、大学が示しているガイドラインに従い、さらに指導教員からの指導を受けること。

【教科書】

指導教員の指示に従うこと。

【参考書】

指導教員の指示に従うこと。

【オープンな教育リソース】

*資料検索ネットワークの活用
東京純心大学図書館所蔵図書＜東京純心大学OPAC＞　http://peter.t-junshin.ac.jp/OPAC4/opac/Top
大学図書館所蔵図書＜CiNii Books＞　http://ci.nii.ac.jp/books
論文検索＜CiNii Articles＞　http://http://ci.nii.ac.jp/ja

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

科目責任者(大竹聖美):月曜:昼休み・4限、金曜:昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こどもの理解と援助	担当教員名	小泉　左江子				
コード	22NUR409	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○	○	
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

この科目は、ディプロマポリシー「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる」ための演習科目である。
子ども理解の意義とその重要性を理解し、保育実践と結び付けて考察する力を身につけることを目的とする。
子どもの発達や学びを理解するための方法を知り、その過程で生じる葛藤やつまずきへの援助について考える力を身につけることを目指す。また、保育における評価の意味や必要性を知る。
授業では、さまざまな事例を通して「子どもの行動をどのように理解するか」「保育者はどのように対応するのがよいか」について、ディスカッションをしながら具体的に考える。
その際、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身につける。

授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 子どもの遊び及び生活の実態に即した子どもの理解の意義について説明できる。			○
2 子どもを取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義を説明できる。子ども理解から発達及び学びを捉える原理を説明できる。			○
3 子どもを理解、個と集団の関係を深めるための保育者の基本的態度を身につける。			○
4 観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。			○
5 保護者の心情及び基本的な対応の方法を理解し、説明できる。			○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	保育の出発点としての子ども理解:子ども理解と指導案の作成・実施・評価との関係を学ぶ	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
2	子どもの発達に関わるさまざまな課題:統計資料や保育実践事例から 子どもの気になる行動の課題を捉える	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
3	子どもの自己表現と受容する他者との関係:子どもと保育者の温かい関係・信頼関係の重要性	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
4	子どもの発達や学びの過程を捉える支援:遊びの中で子どもが何を学び、 身につけているのかを読み取る(評価)	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
5	「自分」の世界と「友だち」の世界の広がり	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
6	気になる子どもの事例からの学び:けんかやつまずきの場面から個の育ちと集団の育ちを読み解く	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
7	気になる行動への保育者の対応と周囲の子どもの受け止め	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
8	観察・記録の方法と分析・考察の視点:子どもの発達や学びを捉える観察・記録の方法	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
9	観察・記録の実際:子どもの遊びの様子から記録する	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
10	観察・記録のまとめについての討議:グループ討議から多様な見方・考え方に気づく	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
11	観察・記録から子どもの理解と学びの読み取り・考察:「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
12	子育てにかかわる現在的な課題の特徴:統計資料や事例から子育て支援の課題を捉える	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
13	カウンセリングの技法:カウンセリングの基礎的な姿勢と技法を学ぶ	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
14	保護者への対応のロールプレイ:保護者の心情の理解と家庭への支援の方法を学ぶ	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む
15	支援体制の整備と家庭や地域との連携:園内の協力体制と専門機関との連携の在り方	予習(2時間):子どもの行動とその理解に関する書物を読む 復習(2時間):今日のポイントををまとめ、指定された書物の箇所を読む

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	動画視聴
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

次の授業においてフィードバックする。

【成績の評価方法】

授業への参加度・授業内での提出物40%、定期試験60%で総合的に判断する。

【生成AI利活用(　無　)】

【ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】 関連科目は、「発達心理学」「子どもと人間関係」「保育内容演習『人間関係』」である。
【教科書】 特になし。適宜資料を配布する。
【参考書】 鯨岡峻・鯨岡和子「保育のためのエピソード記述入門」ミネルヴァ書房　　入江礼子・小原敏郎「子ども理解の理論及び方法」萌文書林
【オープンな教育リソース】 特になし。
【担当教員の実務経験】 保育士の経験をもとに、乳幼児期の子どもの発達とその人間関係の重要性について、理論と実践の両面から講義する。
【オフィスアワー】 水・金曜日の昼休み及び4限以降
【教員連絡先】 s_koizumi@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 子どもの行動には理解できないこと、不思議だなあと思うことがたくさんあると思います。正解がない問題・課題にみんなで取り組みたいと思います。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	乳児保育Ⅱ	担当教員名	小川　清美				
コード	22NUR413	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30 時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
◎	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

乳児保育Ⅰに続き、3歳未満児についての専門的知識と保育技術の習得を目指していく。すなわち、0歳児、1歳児、2歳児の子どもの発達を十分に理解することを基本とする。
その上で的確な保育技術の習得を目指すものとする。
さらに乳児保育の特徴である、 一人ひとりの子どもに寄り添い受容的・応答的に丁寧に関わり、遊びや生活の充実に向けた保育実践力を高めるため、多くの事例検討等を通して学んでいく。
また、3歳未満児クラスの一人ひとりの子どもの指導計画の作成や相応しい環境等について学び、養護及び教育の一体性の視点からも保育の理解を深めていく。
本授業では、3歳未満児を想定した疑似的な保育実践を繰り返し行い、乳児保育のイメージの具体化と実践力の向上を目指す。

		ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解し説明することができる。			○
2	養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し、的確な判断のもとに適応することができる。			○
3	乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解すると共に、自己の保育実践に活かすことができる。			○
4	乳児保育における指導計画について理解し、具体的に作成することができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	乳児保育の基本 (子どもの主体性の尊重と自己の育ち、子どもの体験と学びの芽生え、 授業ガイダンス含む)	小川	予習(15分):本授業のシラバスを一読して授業に臨む。 復習(30分):乳児保育Ⅰで学んだ乳児と保育者の関係性について振り返る。
2	子どもの育ちと保育内容(1)環境	小川	予習(30分):乳児保育Ⅰで学んだ乳児の発達を復習しておく。 復習(30分):乳児の環境について本時において学んだことを整理し考えをまとめる。
3	子どもの育ちと保育内容(2)食事	小川	予習(30分):乳児保育Ⅰで学んだ離乳食や食事の援助について復習しておく。 復習(15分):本時で取り上げた事例について整理し考えをまとめる。
4	子どもの育ちと保育内容(3)睡眠	小川	予習(30分):乳児保育Ⅰで学んだ睡眠について復習しておく。 復習(15分):本時で取り上げた事例について整理し考えをまとめる。
5	子どもの育ちと保育内容(4)排泄	小川	予習(30分):乳児保育Ⅰで学んだ排泄について復習しておく。 復習(15分):本時で取り上げた事例について整理し考えをまとめる。
6	子どもの育ちと保育内容(5)着脱・清潔	小川	予習(30分):乳児保育Ⅰで学んだ着脱・清潔について復習しておく。 復習(15分):本時で取り上げた事例について整理し考えをまとめる。
7	子どもの育ちと保育内容(6)遊び	小川	予習(30分):乳児保育Ⅰで学んだ乳児の遊びについて復習しておく。 復習(15分):本時で取り上げた事例について整理し考えをまとめる。
8	子どもの育ちと保育内容(7)安全	小川	予習(30分):乳児保育Ⅰで学んだ乳児保育における安全について復習しておく。 復習(15分):本時で取り上げた事例について整理し考えをまとめる。
9	子どもの主体的な体験と学びの芽生え	小川	予習(15分):これまでの授業内容を振り返り、乳児保育における保育者の援助や 姿勢について整理しておく。 復習(30分):乳児の学びの芽生えについて本時で学んだことを整理し考えをまとめる。
10	子ども同士の関わりとその援助	小川	予習(15分):乳児保育Ⅰで学んだ友だち関係について復習しておく。 復習(30分):乳児期における友だち関係の在り方について本時で学んだことを整理し 考えをまとめる。
11	乳児保育における指導計画(1)長期的・短期的・個別指導計画	小川	予習(15分):乳児保育Ⅰで学んだ指導指導計画について復習しておく。 復習(30分):指導計画作成に向けて、発達に応じた教材等を調べる。
12	乳児保育における指導計画(2)個別指導計画、保育の質の向上を目指した観察・ 記録及び自己評価	小川	予習(30分):実習日誌を振り返り、乳児の1日の生活を理解する。 復習(120分):模擬保育で使用する教材を制作する。
13	乳児保育における指導計画(3)模擬保育	小川	予習(120分):模擬保育の指導計画を立案する。 復習(60分):実演をした振り返りを行い、自己の課題を明確にする。

14	乳児保育を支える連携	小川	予習(15分):乳児保育Ⅰで学んだ連携について復習しておく。 復習(60分):本時で学んだ連携について、保育士としての在り方について整理し考えをまとめる。
15	進級にまつわる環境の変化や移行に対する配慮	小川	予習(15分):これまでの授業で学んだことを振り返り、整理しておく 復習(180分):課題の事例ついて自己の考えを整理しレポートする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		動画(DVD、動画サイト)の活用、 事例検討、 保育実習・教育実習で得た知識と経験の活用、 模擬保育
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

毎回の授業後に提出する振り返りシートや課題についてのフィードバックは、次回の授業時に行なう。

【成績の評価方法】

評価は次の3点の総合的評価として、60点以上を合格とする。
(1)レポート50%　(2)課題35%　(3)授業内での発言やグループワーク等に対する積極的な態度15%
・毎回の授業の最後に提出する振り返りシートを課し、またグループワークの参加態度等を「(3)の授業に対する積極的な態度」として評価する。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】

保育士養成課程の必修科目であるので、保育士の資格取得を希望する者は、3年次に必ず履修すること。乳児保育Ⅰを履修済みであること。

【教科書】

乳児保育Ⅰで使用した教科書

【参考書】

『保育所保育指針』 ／ 厚生労働省 ／ フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 ／ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 ／ フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

・火曜日:昼休み
・水曜日:昼休み

【教員連絡先】

kogawa@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・教科書と保育所保育指針は毎回持参すること。
・保育士資格課程の科目であるため欠席には十分留意すること。
・受身ではなく、能動的に、保育者になる自分が学ぶという態度で参加してほしい。
　また、授業内で事例検討やグループディスカッションを行なう際には、積極的に自己の考えを発言する意欲をもって取り組むこと。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	子どもの食と栄養B	担当教員名	宮寺　里香				
コード	22NUR416	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
◎	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

「子どもの食と栄養A」で学んだ乳幼児期の食生活について、数回の実習を通してさらに理解を深める。
小児期の食生活だけでなく、ともすると私たち自身にふりかかるかもしれない身近な食の諸問題についても学ぶ。
そして、普段の自分たちの食生活を振り返り、望ましい食生活とはどうあるべきか考察する。また、次世代に伝えてきたい食文化についても学びを深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 乳児期の咀嚼の発達に応じた食事とはどんなものか準備することができる。			○
2 健全な食生活とはどうあるべきか述べることができる。			○
3 今日の食生活の状況とその問題点が子どもに与える影響について予測し、配慮することができる。			○
4 子どもたちに伝承していきたい日本の食文化について述べることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	食に関する諸問題①朝食	宮寺	予習(40分):テキストp.18～20を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):1週間の食事記録をつける(課題)
2	調乳法、離乳食とその進め方(復習)	宮寺	予習(40分):テキストp.88、92～99を読んでおく 復習(40分):配布プリントに記入しておく
3	実習①調乳(グループワーク)	宮寺	予習(40分):調乳手順を確認しておく 復習(60分):ミルクの違い、気づいたことを等レポートにまとめる
4	実習②離乳食・市販ベビーフード(グループワーク)	宮寺	予習(40分):テキストp.101～103を読み、 咀嚼の発達に応じた離乳食の状態を確認しておく 復習(60分):咀嚼の発達による離乳食の変化など気付いたことをレポートにまとめる
5	実習③離乳食・粥(グループワーク)	宮寺	予習(40分):テキストp.93、p.108を読み、咀嚼の発達に応じた離乳食の状態を確認しておく 復習(60分):咀嚼の発達による離乳食の変化など気付いたことをレポートにまとめる
6	実習④離乳食・取り分け離乳食(グループワーク)	宮寺	予習(40分):テキストp.101を読み、大人の食事からのとりわけ離乳食について理解しておく 復習(60分):実習で気付いたことやポイント等レポートにまとめる
7	実習⑤間食(グループワーク)	宮寺	予習(40分):テキストp.116～118を読み、間食について理解しておく 復習(60分):実習で気付いたことやポイント等レポートにまとめる
8	食に関する諸問題②食品添加物、輸入食品	宮寺	予習(40分):テキストp.22～24を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分): リアクションペーパーにまとめる (レポート課題)身近な食品の添加物について調べる
9	食事バランスガイド	宮寺	予習(40分):テキストp.204～210を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):食事記録に考察、感想をまとめる
10	食育の基本	宮寺	予習(40分):テキストp.191～199を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):リアクションペーパーにまとめる
11	保育所における食育	宮寺	予習(40分):テキストp.211～222を読み、疑問箇所をチェックしておく 保育所実習の際の食にまつわる出来事についてまとめておく 復習(60分): リアクションペーパーにまとめる
12	実習⑥行事食(グループワーク)	宮寺	予習(40分):テキストp.128を読み、行事食について理解しておく 復習(60分): 実習で気付いたことやポイント等レポートにまとめる
13	実習⑥伝統食(グループワーク)	宮寺	予習(40分):関東と関西の雑煮の特徴についてまとめる 復習(60分): 実習で気付いたことやポイント等レポートにまとめる
14	行事食、食材の旬について(グループディスカッション)	宮寺	予習(40分):おせち、雑煮など正月にまつわる行事食について調べる 復習(60分):1年間の行事食、食材の旬について配布プリントにまとめる (レポート課題)子どもの日の行事食、正月の行事食について
15	障がいを持った子どもの食生活	宮寺	予習(40分):テキストp.165～172を読んでおく 復習(40分):リアクションペーパーにまとめる

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題レポートに対するフィードバックは次講義の際に口頭、あるいは返却レポートに記入して行う。

【成績の評価方法】

課題レポート80%、リアクションペーパー10%、授業参加度10%
授業内作業プリント、数回の課題レポート、実習レポートを「レポート」として評価する。評価内訳は授業中の指示に即しているかを基準とする。
どの程度積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価:(　無　)】

【履修申請上の条件】

『子どもの食と栄養A』を受講していること。

【教科書】

『新・子どもの食と栄養』 岩田章子・寺嶋昌代　編　(株)みらい

【参考書】

『保育所保育指針』厚生労働省　フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

水曜10:30～12:10

【教員連絡先】

rmiyadera@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	子ども家庭支援論	担当教員名	小泉　左江子				
コード	22NUR418	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教職課程 必修	選択	
				○		○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30 時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

この科目は、ディプロマポリシー「多文化共生社会を生きる子どもたちの命を守り育てる」ための講義科目である。
現在の保育・幼児教育では、子どもの発達保障だけでなく多様なニーズをもつ子育て家庭への支援が重視されている。
保育者はその専門性を活かし、保育所入所児童だけではなく地域の子育て家庭への支援も求められている。
この授業では、「保育所保育指針」に準じた子育て家庭への支援の基本・意義及び体制について理解し、現代の子育て家庭の多様なニーズに応じた支援について学ぶことを目的とする。
授業ではできるだけさまざまな子育て家庭の事例を通して、何が問題なのか、どんなニーズがあるのか、どうすればよいのかについてグループディスカッションを通して考えを深めていく。

授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 子育て家庭に対する支援の必要性を理解し、その意義と目的について説明できる。			○
2 保育者の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本を理解し、説明できる。			○
3 子育て家庭に対する支援の体制について理解している。			○
4 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援を展開できる。			○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス　家庭支援の意義　支援の対象と内容　保育者の役割	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
2	家庭支援の必要性とその背景　家庭と地域の変容　育児不安の事例(ディスカッション)	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
3	家庭支援の基本(1)「保育所保育指針」と保育士の専門性	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
4	家庭支援の基本(2)相談・助言の基本	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
5	家庭支援の基本(3)保護者との信頼関係	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
6	家庭支援の基本(4)子育ての喜びを共有・実践する力の向上	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
7	子育て家庭に対する支援の体制(1)少子化と少子化対策	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
8	子育て家庭に対する支援の体制(2)子どもと家庭を支える社会資源	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
9	多様な支援と関係機関との連携(1)保育所を利用する家庭への支援①	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
10	多様な支援と関係機関との連携(2)保育所を利用する家庭への支援②	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
11	多様な支援と関係機関との連携(3)地域の子育て家庭への支援	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
12	多様な支援と関係機関との連携(4)ひとり親・外国籍家庭への支援(KJ法)	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
13	多様な支援と関係機関との連携(5)障害のある子どもの家庭への支援	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
14	多様な支援と関係機関との連携(6)虐待の子どもの家庭への支援	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。
15	まとめ　保育者の役割	予習(2時間):子育て家庭に関するニュースや新聞記事等を読む 復習(2時間):授業で関心をもった事柄について調べる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		DVDを視聴　事例検討
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題については授業中にフィードバックする。振り返りシートについては読んで返却する。

【成績の評価方法】

定期試験70％　レポート20%　授業参加度と提出物10％

【生成AI利活用（　無　）】

【ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

関連科目は「子ども家庭支援の心理学」「子育て支援」です。日ごろから子育て支援に関するニュースに関心を持ってください。

【教科書】

特になし。必要な資料は授業内で配布する。

【参考書】

相良順子・小泉左江子編著「子ども家庭支援の心理学」ナカニシヤ出版
松本園子ほか「子ども家庭支援論」ななみ書房

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

保育士としての経験と、心理相談員としての経験から、さまざまな事例を通して家庭支援について講義する。

【オフィスアワー】

月曜日・水曜日（昼休み及び4限終了後）

【教員連絡先】

s_koizumi @g.t-Junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	子育て支援	担当教員名	小泉　左江子				
コード	22NUR419	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30 時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

この科目は、ディプロマポリシー「共生社会を生きる子どもたちの命を守り育てる」ための演習科目である。
現在の保育・幼児教育では、子どもの発達保障だけではなく、多様なニーズを持つ子育て家庭への支援が重視されている。
保育者はその専門性を活かし、保育所に入所する子どもの保護者だけでなく、地域の子育て家庭を支援することも求められている。
本授業では、保護者のと信頼関係の形成、保護者への相談・助言・情報提供・行動見本の提示などの支援(保育相談支援)の特性と展開を実践的に学ぶことを目的とする。
事例検討を通じて、対象に即した子育て支援の方法や技術について、ロールプレイやグループワークを取り入れて、主体的に学ぶ。

授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 保育の専門性を活かした、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示(保育相談支援)について、その特性を理解し具体的に実践できる。			○
2 実践事例等を通して、さまざまな場や対象に即した支援の内容と方法、及び技術を具体的に理解し、実践できる。			○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	子育て支援の特性(1)保育士の行う保護者への支援　:相談助言・解説・支持・行動見本 ・体験等 事例	予習(30分):保育士の2つの仕事とは何か、説明する。 復習(30分):行動見本とは何か、説明する。
2	子育て支援の特性(2)保護者との信頼関係の形成　(事例　ディスカッション)	予習(30分):保育所保育指針の第4章を読む。 復習(30分):信頼関係を築くためにはどうすればよいか、まとめる。
3	子育て支援の特性(3)支援のニーズへの気づきと理解　(事例　ディスカッション)	予習(30分):配慮が必要な親子とはどんな親子か、述べよ。 復習(30分):事例の感想を述べよ。
4	子育て支援の特性(4)他者とかかわる機会や場の提供　(ワーク)	予習(30分):地域の子育て家庭への支援にはどのようなものがあるか、述べよ。 復習(30分):親子イベントを企画するときのポイントは何か？
5	子育て支援の展開(1)状況の把握・支援の計画　(事例　ディスカッション)	予習(30分):ジェノグラムの書き方を復習する 復習(30分):アセスメントとは何か、説明する。
6	子育て支援の展開(2)実践・記録・評価　カンファレンス　(事例　ディスカッション)	予習(30分):エコマップの書き方を復習する 復習(30分):記録・評価を書く
7	子育て支援の展開(3)職員間の連携・協働　(事例　ワーク)	予習(30分):秘密保持について説明する 復習(30分):職員の連携の重要性について述べよ
8	子育て支援の展開(4)社会資源の活用　関係機関との連携　(事例　ワーク)	予習(30分):関係機関について復習する 復習(30分):関係機関との連携の重要性について述べよ
9	子育て支援の実際(1)保育所等における支援　DVD視聴(ディスカッション)	予習(30分):保育所での支援はいつどこで行われるか？ 復習(30分):保護者からの相談事例への対応のポイントをまとめる
10	子育て支援の実際(2)地域の子育て家庭に対する支援　(ワーク)	予習(30分):地域の子育て家庭にはどんな相談や悩みが多いか？ 復習(30分):一時保育の環境作りや保育上の留意点についてまとめる
11	子育て支援の実際(3)さまざまな相談事例への対応　(グループワーク)	予習(30分):主訴とは何か？ 復習(30分):相談事例に対してのディスカッションからの学びをまとめる
12	子育て支援の実際(4)特別な配慮を要する子ども及び家庭に対する支援　: ひとり親家庭　外国籍家庭	予習(30分):ひとり親支援の関係機関は？ 復習(30分):外国籍家庭の困りごとへの対応を考える
13	子育て支援の実際(5)障害のある子ども及びその家庭に対する支援　(事例　ワーク)	予習(30分):障害についてどのように保護者に伝えるか？考えてみよう 復習(30分):保護者に伝えるときのポイントは何か述べよ。
14	子育て支援の実際(6)子ども虐待(疑い)の子どもとその家庭への支援 ―予防と対応　(事例　ディスカッション)	予習(30分):虐待の通告はどこにするか。全国共通ダイヤルの番号は何か？ 復習(30分):保育園で虐待を発見したらどうすればよいか、述べよ。
15	まとめと復習	予習(30分):保育士の専門性とは何か？ 復習(30分):子育て支援における、保育士の役割についてのべよ。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	DVD視聴　事例検討
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは後日授業内で行う。

【成績の評価方法】

レポート50%、授業への参加・授業内での提出物　50%

【生成AI利活用(　無　)】

【ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】

関連科目は「子ども家庭支援の心理学」「子ども家庭支援論」です。子育て家庭とその支援にかかわるニュースに関心をもってください。

【教科書】

なし。適宜資料を配布する。

【参考書】

相良順子・小泉左江子「子ども家庭支援の心理学」ナカニシヤ出版

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

保育園での経験と、心理相談員としての経験から、いろいろな事例を通して子育て支援について共に考える。

【オフィスアワー】

水・金曜　昼休みと4限以降

【教員連絡先】

s_koizumi@g.t-Junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	教育制度	担当教員名	佐野　通夫				
コード	22EDU301	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○		
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

『幼稚園教育要領解説』、『小学校学習指導要領解説総則編』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を基本的な参考書として使用し、
教育に関する社会的・制度的事項に関わる基礎的な知識を身に付けることを目標とする。
授業内容を「教育に関する社会的事項」、「教育に関する制度的事項」、「学校と地域との連携・学校安全」の3部で構成する。
その中でも特に教員に関する制度的事項にも重きを置き、教員をめぐる法制度、教員がなすべきこと、なすべきでないことの理解も学習する。
学習者の課題意識に基づき、「主体的・対話的で深い学び」が実現するよう、個人研究、グループ協議、レポート作成・発表などの多様な機会を意図的に設定していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 現代の学校教育に関する教育施策等の動向について理解し、自身が選択した課題に応じてその内容を説明することができる。			○
2 現代の公教育制度の意義・原理・構造について理解し、小・中・高等学校における経験に照らし合わせ、その内容を類別することができる。			○
3 現代社会における学校と地域との連携・協働の在り方について実践事例を収集し、その課題を指摘するとともに成果を評価する。			○
4 学校安全の目的と取組の実際を理解し、過去の事故事例等を収集・分析することにより、危機管理の視点を列挙し、レポートにまとめることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	学校を巡る近年の様々な状況変化について(各種報道、世論調査、統計など から課題を設定)理解し、得られた情報を基に協議する。	佐野通夫	予習(90分):シラバスを基に学校教育に対する課題意識をまとめる。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等にまとめる。
2	子どもの生活の変化を踏まえた指導の在り方について (1)(居場所づくりを意識した 集団形成、多様化に応じた学級づくりと学級担任の役割)理解を深め、協議する。	佐野通夫	予習(90分):小・中学生の頃を振り返り、「心に残った教員」についてまとめる。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等に まとめる。
3	子どもの生活の変化を踏まえた指導の在り方について (2)(生活習慣の変化 を踏まえた生徒指導、社会的・経済的環境の 変化に応じたキャリア教育、カウンセリング・マインドの重要性)協議し、 資料等から読み取ったことをまとめる。	佐野通夫	予習(90分):小・中学生の頃を振り返り、「記憶に残っている生活指導」についてまとめる。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等に まとめる。
4	教育施策の動向について (1)(教育に関する法令改正、国の審議会の状況等)理解し、 得られた知識を基に協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):教育基本法を読み、幼稚園及び小学校の教育活動に関わる条文について調べる。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等に まとめる。
5	教育施策の動向について (2)(学習指導要領の改訂の経緯と平成 29 年3月 告示の 学習指導要領に基づく教育課程の編成)理解し、得られた知識を基に協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):学習指導要領の変遷に関する資料を読み、自分の考えをまとめる。 復習(90分):教育に関する社会的事項について、第1週から第4週までの学修を振り返り、 課題を設定し、レポートⅠを作成する。
6	教育に関する社会的事項のまとめ (各自が作成したレポートの発表を基に、グループ協議の実施)として、 発表及び協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):自分が作成したレポートについて発表準備を行う。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等にまとめる。
7	公教育の原理及び理念の理解について (公教育の原理「義務制」「無償性」「中立性」)理解し協議を行う。	佐野通夫	予習(90分)::公教育の原理「義務制」「無償性」「中立性」について知っていることをまとめる。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等に まとめる。
8	公教育の原理及び理念について小テスト①に取り組む。 教育関係法規について(教育基本法の改正、教育三法(学校教育法、 地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育職員免許法と 教育公務員特例法) の改正)について理解し協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):小テストに向けて前回の学修を振り返る。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等にまとめる。
9	教育関係法規について小テスト②に取り組む。 教育行政の理念と仕組みについて(中央教育行政(文部科学省)、 地方教育行政(教育委員会))について理解し協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):小テストに向けて前回の学修を振り返る。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等にまとめる。
10	教育行政の理念と仕組みについて小テスト③に取り組む。 教育に関する制度的事項のまとめ(各自が作成したレポートの発表を基に、 グループ協議を行い、理解を深める。)として、発表及び協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):小テストに向けて前回の学修を振り返る。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等にまとめる。
11	学校と地域との連携について (1)(組織の一員として自覚、マネジメント・ マインドの形成)理解し協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):小・中学生の頃を振り返り、「学校と地域が連携して行った行事等」についてまとめる。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等にまとめる。
12	学校と地域との連携について (2)(「開かれた学校づくり」推進の経緯、「社会に開かれた教育課程」)について 理解し協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):小学校学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」の位置付けを確かめておく。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等に まとめる。

13	学校安全への対応について (1)(危機管理上の課題、校内外の安全確保、情報セキュリティ等の課題) 講義及び協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):学校における危機として過去にどのような事例があったか情報 を収集する。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等にまとめる。
14	学校安全への対応について (2)(生活安全・交通安全・災害安全に関わる安全上の課題)理解し協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):小・中学生の頃を振り返り、「学校の安全に関わる取組等」についてまとめる。 復習(90分): 課題:「学校と地域の連携」、「学校安全への対応」について、 第 11 週 から第14週までの学修を振り返り、課題を設定しレポートⅡを作成する。
15	「学校と地域との連携」、「学校安全への対応」のまとめ (各自が作成したレポートの発表を基に、グループ協議を実施)として、 発表及び協議を行う。	佐野通夫	予習(90分):自分が作成したレポートについて発表準備を行う。 復習(90分):新たに分かったこと、今後の課題などを明確にし、ノート等にまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・作成したレポートに対するフィードバックは、次回の発表場面等で行う。
・小テストは、次回の授業で返却し、要点等について説明を行う。

【成績の評価方法】

課題:70%
小テスト:30%
定期試験:0%
合計:100%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　) 】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

道幸哲也・ 加藤智章・ 國武英生編『18歳から考えるワークルール〔第2版〕』法律文化社、2018年

【参考書】

・保育所保育指針(平成29年告示 厚生労働省)
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示 内閣府・厚生労働省)
・小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

・月曜　4限

【教員連絡先】

msano@t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	保育者論	担当教員名	髙橋 貴志				
コード	22NUR420	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○	○	
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

「専門職」であるとはどのようなことか、授業の冒頭で説明したのち、現代において保育者が持つべき資質や能力についてとりあげながら、保育者の専門性とは何か、
保育者の専門職的成長とは何か、について考えていく。
保育者の専門性をどのように確立し、それをどのように可視化し、社会に発信していくか、という点は、15回の授業に通底するもので、適宜グループディスカッションを取り入れながら、
学生間で議論する機会をとり入れる予定である。

	授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1	保育者としての職務内容を理解し、その意義や職務上の義務、制度的な位置づけについて説明することができる。			○
2	保育者の役割や普遍の倫理を十分に理解し、的確な判断のもと適応することができる。			○
3	現代社会において求められる保育者の専門性や知識、技術について理解し、自己の保育実践に応用することができる。			○
4	保育者間、職員間、更に保護者や地域の多様な専門性を持つ人々と連携し、協働していくことの重要性について理解し、共に諸課題に対応することができる。			○
5	保育者を目指すものとしての高い意識と使命感をもち、保育者の資質向上とキャリア形成について理解し、自己の追い求める保育者像を述べることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	専門職としての保育者	予習(2時間):本授業のシラバスを一読して授業に臨む。 復習(2時間):現時点での自己の追い求める保育者像について整理しておく。
2	保育者の専門性の見えにくさ(1)保育者の多様性	予習(2時間):保育者の専門性がわかりにくい背景にあることについて、 疑問点を整理しておく。 復習(2時間):保育の在り方について本時において学んだことを整理し考えをまとめる。
3	保育者の専門性の見えにくさ(2)保育に関する解釈の多様性	予習(2時間):「保育」という言葉が世の中で、どのような場面でどのように使われているか 整理しておく。 復習(2時間):保育者の役割について配布したプリントを読み、考えをまとめる。
4	保育者の役割と倫理及び制度的位置づけ	予習(2時間):教科書に示されている「全国保育士会保育士倫理綱領」を一読し、 自分なりにポイントを整理しておく。 復習(2時間):保育士・幼稚園教諭に共通する役割、倫理について振り返り、考えをまとめる。
5	保育者の専門性と「遊び」(1)なぜ遊びについて学ぶのか	予習(2時間):保育においてなぜ遊びが重要なのか、自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):日常生活で出会う子どもの遊びを観察し記録する。
6	保育者の専門性と「遊び」(2)保育者の専門性と遊びの関係	予習(2時間):自発的活動である遊びに、なぜ保育者の関与が必要なのか、 自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):保育者が子どもの遊びに関わる際の留意点について振り返り、考えをまとめる。
7	保育者の専門性と「環境」(1)なぜ環境について学ぶのか (子どもの主体的活動を誘発する環境に関する動画を視聴)	予習(2時間):保育においてなぜ環境が重要なのか、自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):遊びと環境の関係について振り返り、考えをまとめる。
8	保育者の専門性と「環境」(2)保育者の専門性と環境の関係	予習(2時間):遊び援助・指導における環境構成の持つ意味について、 自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):“遊びの拠点”の重要性について振り返り、考えをまとめる。
9	保育者の専門性と「生活」(1)なぜ生活について学ぶのか (DVD 「田んぼの幼稚園」を視聴)	予習(2時間):保育においてなぜ生活が重要なのか、自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):子どもの学びと生活の関係について振り返り、考えをまとめる。
10	保育者の専門性と「生活」(2)保育者の専門性と生活	予習(2時間):生活を通した保育の具体的な展開について、自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):「みてまねる学習」の効用について振り返り、考えをまとめる。(ミニレポート)
11	保育者の専門性と子育て・家庭教育の支援	予習(2時間):実習で出会った保護者の様子や保育者の保護者対応を思い起こし整理しておく。 復習(2時間):子育て・家庭教育の支援と、日常の保育実践の共通点について振り返り、 考えをまとめる。
12	学び続ける存在としての保育者(1)(反省的実践家の視点からわかること)	予習(2時間):保育における「振り返り」の重要性について、自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):反省的実践家モデルの考え方を振り返り、考えをまとめる。
13	学び続ける存在としての保育者(2)(園内・園外研修からわかること)	予習(2時間):保育における「研修」の重要性について、自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):園内・園外研修の実際を振り返り、考えをまとめる。
14	保育者の協働	予習(2時間):保育者間の協働、保育者と他職種との協働のもつ意味について、 自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):保育実践において協働が不可欠な理由について振り返り、考えをまとめる。
15	保育者の専門性を可視化することの意味	予習(2時間):わかりにくい保育者の専門性を可視化する意味について、 自分なりの考えを整理しておく。 復習(2時間):あらためて保育者の専門性とは何かについて自己の考えを整理する。(まとめの課題)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		授業は主にプロジェクター(パワーポイント)を用いて説明する。 動画(DVD、動画サイト)の活用 保育実習・教育実習で得た知識と経験の活用
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題についてのフィードバックは、次回の授業時に行なう。

【成績の評価方法】

〈評価基準〉
・「到達目標」に明示している項目を評価基準とする。
〈割合〉
・ミニレポート20%、まとめの課題80％で総合評価をする。まとめのレポートでは、保育者の専門性について、自己の考えを述べるだけでなく、授業内容や提示した文献や自己が参考にした文献資料を基に考えを整理しその根拠を提示した上で論述されているかを評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価：（　無　）】

【履修申請上の条件】

幼稚園教職課程及び保育士養成課程の必修科目であるので、幼稚園教諭及び保育士の資格取得を希望する者は、3年次に必ず履修すること。

【教科書】

髙橋貴志『増補版　これからの保育者論−日常に潜む専門性−』 萌文書林

【参考書】

『保育所保育指針』 ／ 厚生労働省 ／ フレーベル館
『幼稚園教育要領』 ／ 内閣府・文部科学省 ／ フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 ／ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 ／ フレーベル館

【オープンな教育リソース】

使用予定なし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

前にメールにて連絡を受けた上、時間設定します。

【教員連絡先】

tatakahashi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	言語表現活動	担当教員名	大竹　聖美				
コード	22NUR301	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

子どもたちの言葉に対する感覚を豊かにし、想像する楽しさを味わせながら発達をうながす、絵本の読み聞かせ・ストーリーテリング・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵描き歌・手遊び歌などを実践演習する。季節や対象年齢に応じたおはなし会の構成を考え、より効果的な言語表現活動を展開する方法(保育計画・環境構成・教材の作成と活用)を取り入れ、言葉遊び・しりとり・なぞなぞなどを活用しながら子どもたちの言語表現活動を豊かに展開する技術を習得する。
・保育における言語表現活動として、絵本の読み聞かせやストーリーテリング、紙芝居の実践について研究する。
・季節や年齢に応じたおはなし会や表現活動の構成を考え、より効果的に、より楽しくおはなし会・表現活動を展開する方法を習得する。
・言葉遊び・しりとり・なぞなぞを研究し、おはなし会に上手に取り入れ、子どもたちの言語表現活動を豊かにする方法を学ぶ。
・折り紙の折り方や季節の製作物を幼児に教える保育活動において適切な言語伝達ができるように考え模擬保育を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 季節や対象年齢に応じたおはなし会を構成できる。			○
2 紙芝居の演じ方、絵本の読み聞かせに自信を持つ。			○
3 季節に応じた絵本や紙芝居を選ぶことができ、関連した手遊び・お歌・折り紙・言葉遊びなどのレパートリーを持っている。			○
4 四季に対する感性を高め、歳時(年中行事)・歌・植物・旬の食べ物などを理解し、おはなし会や保育活動に活かせる。			○
5 なぞなぞやしりとり、言葉遊びをたくさん知っている。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション――授業に関する説明 読み聞かせ・おはなし会の実際と構成(1)季節の研究(春・夏) ――伝統行事・花・植物・虫・果物・食	大竹	予習(40分):　自分が子どものころに体験した季節(春・夏)の行事を思い出し、家族に取材する 復習(40分):　季節(春・夏)の自然と伝統行事、児童文化財(紙芝居・絵本・歌・折り紙)を調べる
2	読み聞かせ・おはなし会の実際と構成(2)季節の研究(秋・冬) ――伝統行事・花・植物・虫・果物・食	大竹	予習(40分):　自分が子どものころに体験した季節(秋・冬)の行事を思い出し、家族に取材する 復習(40分):　季節(秋・冬)の自然と伝統行事、児童文化財(紙芝居・絵本・歌・折り紙)を調べる
3	読み聞かせ・おはなし会の実際と構成(3)折り紙・言葉遊び・なぞなぞ・歌の研究 ――季節と折り紙・言葉遊び・四季の歌	大竹	予習(40分):　季節のファイル、折り紙、糊、ハサミを用意して、12か月の構成を考える 復習(40分):　おりがみくらぶ「きせつのおりがみ」で季節の折り紙を学習する https://www.origami-club.com/season/index.html
4	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・春(1)3月	大竹	予習(40分):　3月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜3月のページ＞を完成させる
5	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・春(2)4月	大竹	予習(40分):　4月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜4月のページ＞を完成させる
6	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・春(3)5月	大竹	予習(40分):　5月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜5月のページ＞を完成させる
7	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・夏(1)6月	大竹	予習(40分):　6月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜6月のページ＞を完成させる
8	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・夏(2)7月	大竹	予習(40分):　7月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜7月のページ＞を完成させる
9	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・夏(3)8月	大竹	予習(40分):　8月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜8月のページ＞を完成させる
10	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・秋(1)9月	大竹	予習(40分):　9月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜9月のページ＞を完成させる
11	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・秋(2)10月	大竹	予習(40分):　10月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜10月のページ＞を完成させる
12	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・秋(3)11月	大竹	予習(40分):　11月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜11月のページ＞を完成させる
13	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・冬(1)12月	大竹	予習(40分):　12月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜12月のページ＞を完成させる
14	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・冬(2)1月	大竹	予習(40分):　1月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜1月のページ＞を完成させる
15	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・冬(3)2月	大竹	予習(40分):　2月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜2月のページ＞を完成させる

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	＊電子教材の活用 おりがみくらぶ「きせつのおりがみ」 https://www.origami-club.com/season/index.html
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。
・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。
・本演習では、生成AIの使用を指示した課題は出さない。実体験、実際の製作活動を主とする。

【成績の評価方法】

授業参加度(課題への取り組み)30%、発表30%、提出物40%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　) 】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館

【参考書】

かこさとし「こどもの行事　しぜんと生活」シリーズ全12巻、小峰書店
加古里子『伝承遊び考』全4巻、小峰書店
かこさとし「あそびずかん」全4巻、小峰書店

【オープンな教育リソース】

＊電子教材の活用
おりがみくらぶ「きせつのおりがみ」 https://www.origami-club.com/season/index.html

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

月曜:昼休み・4限、金曜:昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	教育相談	担当教員名	小泉　左江子				
コード	19PSY203	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教職課程 必修	選択	
				○	○	○	
年次／期間	4年次/前期	単位／時間数／形態	2単位/30時間/講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

この科目は、ディプロマ・ポリシー「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる」ための講義科目である。
教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。
幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために、保護者の心理の理解も含め、必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を理解する。

授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 教育相談の意義と課題を理解して説明できる。			○
2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)を身につけている。			○
3 幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の具体的な進め方を説明できる。			○
4 教育相談に必要な園内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を説明できる。			○
5 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を説明できる。			○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:教育相談とは　教育相談の意義と課題	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
2	子ども理解①　子どもの行動をどう理解するかを学ぶ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
3	子ども理解②　子どもの行動をどう理解するかを学ぶ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
4	保護者への支援①　保護者への支援の視点を学ぶ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
5	保護者への支援②　保護者への支援の視点を学ぶ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
6	カウンセリングマインド①　カウンセリングマインドについて理解する	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
7	カウンセリングマインド②　カウンセリングマインドについて理解する	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
8	カウンセリングの技法①　カウンセリング技法を学ぶ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
9	カウンセリングの技法②　カウンセリング技法を学ぶ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
10	教育相談体制:園内の教育相談体制について理解する	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
11	外部機関との連携:外部相談機関との連携について理解する	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
12	保育者の役割　と　保育者のメンタルヘルス	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
13	子どもの精神保健①　子どもの心の健康に関わる問題	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
14	子どもの精神保健②　子どもの心の健康に関わる問題	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
15	まとめ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは次の時間に授業内で行う。

【成績の評価方法】

授業時の参加姿勢及び提出物50%、レポート:50%　の総合評価による。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

幼保資格取得を希望する学生は受講が必要になる。

【教科書】

杉崎雅子「スギ先生と学ぶ教育相談のきほん」萌文書林

【参考書】

参考資料は授業中に適宜配布する。参考書:『幼稚園教育要領』(文科省)、保育所保育指針(厚労省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(厚労省)

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

保育士及び心理相談員として、子どもの発達と課題を早期発見し、保護者と連携して対応してきた経験を生かして授業を行う。

【オフィスアワー】

月・水曜日の昼休み及び4限以降

【教員連絡先】

s_koizumi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	保育内容総論	担当教員名	小川　清美				
コード	19NUR422	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	
				○	○	○	
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

保育所・幼稚園教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な乳幼児の姿と関連づけながら環境を構成し実践するために
必要な知識・技能を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 保育所・幼稚園教育の基本を踏まえた保育所・幼稚園における指導の考え方を説明することができる。			○
2 保育所・幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、乳幼児の発達の過程を見通した指導計画作成することができる。			○
3 乳幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を述べることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	保育内容総論の理解のために	小川	予習(40分):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 教科書15頁までをよく読んで理解を深めておく。 復習(20分):「保育」ということばについて考えてみよう。
2	なぜ保育内容総論を学ぶのか一保育の全体構造	小川	予習(40分):教科書28頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分): 「育みたい資質・能力」について今一度まとめよう。
3	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景	小川	予習(40分):教科書39頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分):保育内容について考察を深めておこう。
4	子どもの発達や生活に即した保育内容	小川	予習(40分):教科書53頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分):子どもの発達について復習しておこう。
5	養護と教育の一体性とは	小川	予習(40分):教科書63頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分):「養護」の視点を探そう。
6	子どもの生活と保育内容	小川	予習(40分):教科書75頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分):子どもにとっての主体性・自発性について考えよう。
7	子どもの遊びと保育内容	小川	予習(40分):教科書90頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分):子どものころに遊んだことを思い出そう。なぜ、楽しかったのかその理由を考えよう。
8	環境を通して行う保育	小川	予習(40分):教科書108頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分): あなたが実習に行った保育所・幼稚園等の環境を思い出そう。
9	保育における「領域」一保育のねらいと内容	小川	予習(40分):教科書121頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分):保育における領域の意味について再考しよう。
10	保育における「領域」一記録・計画・評価と領域の関係	小川	予習(40分):教科書139頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分):街中で子どもが遊んでいる場面を見て、記録し考察してみよう。
11	多様な保育の場における保育内容一地域型保育	小川	予習(40分):教科書150頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分):具体的に地域にどのようなものがあるか調べてみよう。
12	多様な保育の場における保育内容一延長保育・預かり保育	小川	予習(40分):教科書158頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分): 地域の具体的な保育の実際を調べてみよう。
13	様々な配慮を要する子どもの保育	小川	予習(40分):教科書169頁までをよく読んで理解を深めておく。 『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(20分): 実習で出会った該当する子どもについて思い出そう。

14	小学校教育との接続	小川	予習(40分):教科書180頁までをよく読んで理解を深めておく。 『小学校学習指導要領』を読んでおく。 復習(20分):小学校教育の変化について関心を持って調べてみよう。
15	現代社会の特質と保育内容	小川	予習(40分):教科書188頁までをよく読んで理解を深めておく。 復習(20分):子どもにとって保育者はどのような存在なのかを考えてみよう。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

フィードバックは次回の授業時に行う。

【成績の評価方法】

・授業内でのレポート(30%)
・授業内でのグループ活動に意欲的に参加しているか(20%)
・定期試験に代わるレポート(50%)

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　) 】

【履修申請上の条件】

・日頃から保育・幼児教育に関して情報収集し、自らの学習課題を明確にしておくこと。
・期限内に課題を提出すること。
・教科書をよく読んで理解を深めておく。
・『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておく。

【教科書】

『演習　保育内容総論　保育の総合性を読み解く』(神田伸生・髙橋貴志編著)萌文書林

【オープンな教育リソース】

特になし。

【参考書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

・ 火曜日:昼休み
・ 水曜日:昼休み

【教員連絡先】

kogawa@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	教職・保育実践演習	担当教員名	舟生 直美				
コード	19NUR423	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	保育士課程	幼稚園教職課程	
				○	○	○	
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

本科目は、保育に関する基礎的理解の習得、保育実習を通じた実践的理解を踏まえた上で、実際に保育職に就くにあたっての実践力をさらに高め、現代的課題について討議するなど、4年間の総括的な内容とする。
具体的には、演習や観察など学内の自然を有効に活用した実践的取り組み、平成30年度実施の3法令の内容を踏まえた実践的取り組み(保育活動の創出、深い子ども理解)を行う中で、保育者としての使命感、責任感を改めて捉え直し、目指すべき保育者像を探る。
なお、レポート等の提出物のやりとり、及びフィードバックについてはクラスルームを活用する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1　これまでの学び及び実習を総括的に振り返り、自己の課題を自覚し、克服する方法を導出できるようになる。			○
2　実践的取り組みを通じて、深い子ども理解や保育者として必要なスキルの習得などの実践力向上を図ることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション及び教職カルテの確認 ―本授業の内容の説明、これまでの学修の振り返り―	舟生	予習:本授業のシラバスを一読する(20分)。 復習:教職カルテのまとめ(60分)。
2	これまでの実習の振り返りをもとにした自己課題の導出	舟生	予習:これまでの実習経験を振り返り、自己の課題を整理しておく(60分)。 復習:授業内容を踏まえた上で、自己課題をまとめる(60分)。 教職カルテは随時更新していく。
3	保育に関する基礎的理解の確認(講義、調べ学習等)	舟生	予習:授業内で提示した範囲の内容を理解を深める(60分)。 復習:授業時に配布したプリントを仕上げる(30分)。
4	指導計画の必要性に関する再考 ―保育におけるPDCAサイクルの視点から探る―	舟生	予習:指導計画とは何か、書物やインターネットをなどを活用して調べておく(60分)。 復習:授業内での作成した指導計画を完成させる(60分)。
5	長期的指導計画に基づく保育活動の創出 ―各園の特色や地域性を活用した保育の計画の実際―	舟生	予習:前回の講義で設定したテーマに沿った保育活動を考え、まとめておく(60分)。 復習:創出した保育活動を精査しておく(60分)。
6	指導案の作成及び保育教材準備	舟生	予習:自ら創出した保育活動を、指導案作成ができるように準備しておく(60分)。 復習:指導案の作成の続き及び発表に向けた保育教材準備(60分)。
7	ドキュメンテーション記録作成の意義と留意点	舟生	予習:模擬保育時の写真や振り返り内容を整理し、まとめる(60分)。 復習:ドキュメンテーション記録について各自で調べ、理解を深める(30分)。
8	現代的課題の理解①:保育における現代的課題とは	舟生	予習:保育における現代的課題について、書物やインターネット等を活用して整理し、 まとめておく(60分)。 復習:与えられたテーマについて各自で調べ、まとめておく(30分)。
9	現代的課題の理解①:討論及び発表	舟生	予習:討論及び発表ができるようにテーマの内容について理解を深める(60分)。 復習:討論及び発表を終えて各自不足していた項目について理解を深めておく(30分)。
10	現代的課題の理解②:保育における現代的課題とは	舟生	予習:保育における現代的課題について、書物やインターネット等を活用して整理し、 まとめておく(60分)。 復習:与えられたテーマについて各自で調べ、まとめておく(30分)。
11	現代的課題の理解②:討論及び発表	舟生	予習:討論及び発表ができるようにテーマの内容について理解を深める(60分)。 復習:討論及び発表を終えて各自不足していた項目について理解を深めておく(30分)。
12	保育を創る実践的理解① ―自分のよさを再認識する―	舟生	予習:自己理解を踏まえて、子どもの前で実施したい取り組みを考え、準備する(30分)。 復習:発表に向けたの準備(60分)。
13	保育を創る実践的理解② ―子どもとの出会いを創造する―	舟生	予習・復習:発表に向けた準備(60分)。
14	保育を創る実践的理解③ ―保護者との出会いを創造する―	舟生	予習:担当箇所の準備(60分)。 復習:発表に向けた準備(60分)。
15	保育者としての自己の課題の明確化:保育者としての私の課題は何か	舟生	予習:これまでの授業内容を、配布資料を参考に確認する(60分)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	・授業は主にプロジェクター(パワーポイント)を用いて説明する。 ・演習場面においては、実際の子どもを映したビデオ教材を使用して自己の考えをまとめる際やグループワーク等に活用している。 ・学生の立案した保育案や発表資料等においては、学生同士が共有できる方法としてGoogleドライブを活用して可視化・共有する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・課題レポートに対するフィードバックは、次回講義時に行う。
・クラスルームに提出されたレポート等にはコメント等を記入してフィードバックし全体での共有を図る。

【成績の評価方法】

・授業参加度　30%　　授業内での発表　30%　　小レポート・提出物・課題等　40%

【生成AI利活用（　　無　　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

・事前にこれまでの学修を振り返り、自己の課題を明確にしておくこと。

【教科書】

・保育・教職実践演習　学びの軌跡の集大成を目指して（乳幼児教育・保育シリーズ）（2021）　著者／編集　神長　美津子，田代　幸代　光生館
・保育所保育指針解説 平成30年3月（2018）　フレーベル館　厚生労働省
・幼稚園教育要領幼稚園教育要領解説　平成30年3月（2018）　フレーベル館　文部科学省
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成30年3月　（2018）　フレーベル館　内閣府　文部科学省

【参考書】

・幼稚園教育要領（平成29年告示）　文部科学省　フレーベル館
・保育所保育指針（平成29年告示）　厚生労働省　フレーベル館
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

・小学校教諭・教育指導行政の経験をもとに教育・福祉・保育などの実際場面に必要な知識・技能について指導する。
・実習中及び実習後の事後指導においては、学生の困難や反省を共感的に理解し、克服する方法を共に導出していく。

【オフィスアワー】

水曜日　12:10～13:00
木曜日　10:40～12:10

【教員連絡先】

nfunyu@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	保育フィールドワークA	担当教員名	田尻　真理子　　井上　救				
コード	22NUR436	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	3年次～4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

提携園並びに本学と関連の深い園における幼稚園・保育所での教育・保育活動において、乳幼児を観察するとともに、多様な園の業務を体験すること等を通して、
教育・保育活動に携わる専門家としての職業を理解し、乳幼児に対する援助の実際を学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 実習に行く前段階として、保育現場で体験することの目的、心構え、留意事項、記録の意義や方法などについて理解し、説明することができる。			○
2 保育フィールドワークを通して、乳幼児を観察するとともに、保育者の保育内容及び多様な園の業務を体験する。			○
3 保育フィールドワークを振り返り、自身の成果と今後の課題をまとめる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【事前指導①】オリエンテーション ・担当教員紹介 ・授業を行うにあたって(約束、出席、評価など) ・シラバス内容の説明 ・欠席時の注意事項、本授業での教員への連絡について (・履修登録の確認、履修状況の確認)	田尻 井上	
2	【事前指導②】 ・保育フィールドワークの意義と目的 ・保育フィールドワークの心構え ・グループ及び保育フィールドワーク先の発表 ・保育フィールドワーク日誌の配布及び説明		各自の配当園の情報を収集する(1時間)【事前】
3	【事前指導③】 ・保育フィールドワークのテーマ(目標)の設定 ・日誌の書き方(記録の意義と目的) ・保育フィールドワーク用エプロンに名札を付ける		保育フィールドワークのテーマーを決める 名札のデザインを考える ・オリジナリティのある名札を作る ・WEB上の情報を参考にする ・SNSで検索したアイデアを活用　**1時間【事前】**
4	《直前指導》 ・直前指導(服装、身だしなみ、体調管理、持ち物等の確認) ・チェックリストに沿った確認 ・質疑応答		・WEB上の情報を参考にする ・SNSで検索したアイデアを活用　**(1時間【)事前】**
5・6	【保育フィールドワーク　①】(火　1・2限)	フィールドワーク園担当者	・健康管理を充分しておくこと (保育現場で活動するにあたって支障がある場合、参加できないこともある)。 日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくことが望ましい。
7	【保育フィールドワーク①の振り返り及び記録作成】	田尻 井上	関心に沿ったフィールドワークのテーマに基づき、教室内での学習を大学外のフィールドで実践し、 その体験を教室に戻って検証・分析をするための整理をしておく。(1時間)【事前】
8	《直前指導》 ・直前指導(服装、身だしなみ、体調管理、持ち物等の確認) ・チェックリストに沿った確認 ・質疑応答		・WEB上の情報を参考にする ・SNSで検索したアイデアを活用　**(1時間【)事前】**
9・10	【保育フィールドワーク②】(火　1・2限)	フィールドワーク園担当者	・健康管理を充分しておくこと (保育現場で活動するにあたって支障がある場合、参加できないこともある)。 日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくことが望ましい。
11	【保育フィールドワーク①の振り返り及び記録作成】	田尻 井上	関心に沿ったフィールドワークのテーマに基づき、教室内での学習を大学外のフィールドで実践し、 その体験を教室に戻って検証・分析をするための整理をしておく。(1時間)【事前】
12	《直前指導》 ・直前指導(服装、身だしなみ、体調管理、持ち物等の確認) ・チェックリストに沿った確認 ・質疑応答		・WEB上の情報を参考にする ・SNSで検索したアイデアを活用　**(1時間【)事前】**
13・14	【保育フィールドワーク③】(火　1・2限)	フィールドワーク園担当者	・健康管理を充分しておくこと (保育現場で活動するにあたって支障がある場合、参加できないこともある)。 日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくことが望ましい。

15	【保育フィールドワーク①の振り返り及び記録作成】 【保育フィールドワーク総括】 ・保育フィールドワークを終えての自己の成果と課題の明確化	田尻 井上	関心に沿ったフィールドワークのテーマに基づき、教室内での学習を大学外のフィールドで実践し、その体験を教室に戻って検証・分析をするための整理をしておく。(1時間)【事前】 保育フィールドワークでは実際に体験をし、ネットでは分からない子どもの情報等を保育の場で学んだ。総括して情報を正確に報告する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	・フィールドワークは、ちょっとした発想と、事前の調査ができていれば おもしろい体験学習である。状況にあわせて技法を工夫し、組み合わせるところに 創造的な可能性がうまれる。 ・インターネット等で情報が簡単に集められる様になった昨今でも、 実際に現場に訪れないとわからない情報はたくさんある。これがフィールドワークの 重要なところである。 ・実習に自信をもって臨むことができる。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・分からない点等は、自ら調べたり、質問したりして解決する。
・保育フィールドワークの記録は戻り次第振り返りをする。

【成績の評価方法】

授業への参加度(授業に対する取り組みや課題の実施等):80%
必要書類の期限内提出:20%

合計:100%

【生成AI利活用（　有　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

・幼稚園教育実習及び保育実習を履修する場合にはこのフィールドワークを受講しなければならない。また、実習科目で不可ないし失格であった者もフィールドワークを受講しなければならない。
・本科目は学外実習の一部であるという認識をもち、真剣な態度で臨むこと。

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館

【参考書】

必要な資料は都度配布する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

決定次第連絡する。

【教員連絡先】

mtajiri@g.t-junshin.ac.jp, sinoue@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

フィールドワーク実施日が確定次第連絡する。

授業科目名	在宅保育論	担当教員名	小泉　左江子				
コード	19NUR203	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教職課程 必修	選択	
						○	
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

この科目は、ディプロマポリシー「保育・教育に関する豊かな専門的知識と技能を習得」するための講義科目である。
授業では、子どもの家庭を訪問して個別保育を行なう家庭訪問保育の理論と実際について、DVD教材を活用して実践的に学ぶ。
家庭訪問保育には、「子ども子育て新制度」において制度上位置づけられた居宅訪問型保育と、従来よりベビーシッターと呼ばれてきた民間事業者による「一般型家庭訪問保育」があり、
この授業ではその両方について学ぶ。単位取得者は、公益財団法人全国保育サービス協会「認定ベビーシッター」の資格が取得できる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 家庭訪問保育の特徴、有効性、社会的役割について説明できる。			○
2 家庭訪問保育の基礎となる保育マインドやカウンセリングマインドの理論を理解し、実践できる。			○
3 さまざまな家庭訪問保育の仕事の内容と実際について理解し、留意点に配慮して実践できる。			○
4 制度上の家庭訪問保育(居宅訪問型保育)と一般型家庭訪問保育の違いが説明できる。			○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス　・授業の目的・目標・評価　・家庭訪問保育とは	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
2	家庭訪問保育の基礎①　・保育マインド　・乳幼児の発達	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
3	家庭訪問保育の基礎②　・乳幼児の栄養と食事、アレルギー、食事のお世話について	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
4	家庭訪問保育の基礎③　・乳幼児の健康管理	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
5	家庭訪問保育の基礎④:安全管理と事故予防(心肺蘇生法を含む)	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
6	家庭訪問型保育の実際①:家庭訪問保育の保育内容と配慮事項　環境整備	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
7	家庭訪問型保育の実際②:保護者との対応　・事例を通して考える	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
8	家庭訪問型保育の実際③:家庭訪問保育者の基本姿勢(KJ法)　職業倫理とマナー	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
9	家庭訪問型保育の実際④業務の流れ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
10	さまざまな一般型家庭訪問保育(ベビーシッター)①産後ケア	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
11	さまざまな一般型家庭訪問保育(ベビーシッター)②病児病後児保育	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
12	さまざまな一般型家庭訪問保育(ベビーシッター)③送迎・学童・多胎児・外国の子どもの保育	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
13	さまざまな一般型家庭訪問保育(ベビーシッター)④障害児の保育	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
14	安全管理とリスクマネジメント:緊急時の対応　ベビーシッターと法律	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。
15	家庭訪問保育における保育技術(遊び・お世話)/まとめ	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連したニュースや新聞記事を読む 復習(2時間):授業のポイントを復習し、関心をもったことについて調べる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		DVD視聴
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・課題レポートやリアクションペーパーは、コメントを付けて後日の授業中に返却する。

【成績の評価方法】

課題レポート20%、期末試験80%で評価する

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

3分に2以上の出席が必要でうす。

【教科書】 「家庭訪問保育の理論と実際（第3版）」 公益財団法人　全国保育サービス協会編　　中央法規
【参考書】 使用しない
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 保育士として乳幼児の保育に携わる、 保健センターの心理相談員として親子の相談支援、親子の遊び支援をする
【オフィスアワー】 月・水曜日　昼休みと午後4限終了後
【教員連絡先】 s_koizumi@g.t-Junshin.ac.jp
【備考】 今まで習ってきた保育士の知識・技術の復習に加えて、より実践的な保育が学べます。また、将来の保育の仕事の選択肢が増えます。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	言語表現活動	担当教員名	大竹　聖美				
コード	22NUR301	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

・保育における言語表現活動として、絵本の読み聞かせやストーリーテリング、紙芝居の実践について研究する。
・季節や年齢に応じたおはなし会や表現活動の構成を考え、より効果的に、より楽しくおはなし会・表現活動を展開する方法を習得する。
・言葉遊び・しりとり・なぞなぞを研究し、おはなし会に上手に取り入れ、子どもたちの言語表現活動を豊かにする方法を学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 季節や対象年齢に応じたおはなし会を構成できる。			○
2 紙芝居の演じ方、絵本の読み聞かせに自信を持つ。			○
3 季節に応じた絵本や紙芝居を選ぶことができ、関連した手遊び・お歌・折り紙・言葉遊びなどのレパートリーを持っている。			○
4 四季に対する感性を高め、歳時(年中行事)・歌・植物・旬の食べ物などを理解し、おはなし会や保育活動に活かせる。			○
5 なぞなぞやしりとり、言葉遊びをたくさん知っている。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション――授業に関する説明 読み聞かせ・おはなし会の実際と構成(1)季節の研究(春・夏) ――伝統行事・花・植物・虫・果物・食	大竹	予習(40分):　自分が子どものころに体験した季節(春・夏)の行事を思い出し、家族に取材する 復習(40分):　季節(春・夏)の自然と伝統行事、児童文化財(紙芝居・絵本・歌・折り紙)を調べる
2	読み聞かせ・おはなし会の実際と構成(2)季節の研究(秋・冬) ――伝統行事・花・植物・虫・果物・食	大竹	予習(40分):　自分が子どものころに体験した季節(秋・冬)の行事を思い出し、家族に取材する 復習(40分):　季節(秋・冬)の自然と伝統行事、児童文化財(紙芝居・絵本・歌・折り紙)を調べる
3	読み聞かせ・おはなし会の実際と構成(3)折り紙・言葉遊び・なぞなぞ・歌の研究 ――季節と折り紙・言葉遊び・四季の歌	大竹	予習(40分):　季節のファイル、折り紙、糊、ハサミを用意して、12か月の構成を考える 復習(40分):　おりがみくらぶ「きせつのおりがみ」で季節の折り紙を学習する https://www.origami-club.com/season/index.html
4	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・春(1)3月	大竹	予習(40分):　3月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜3月のページ＞を完成させる
5	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・春(2)4月	大竹	予習(40分):　4月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜4月のページ＞を完成させる
6	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・春(3)5月	大竹	予習(40分):　5月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜5月のページ＞を完成させる
7	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・夏(1)6月	大竹	予習(40分):　6月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜6月のページ＞を完成させる
8	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・夏(2)7月	大竹	予習(40分):　7月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜7月のページ＞を完成させる
9	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・夏(3)8月	大竹	予習(40分):　8月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜8月のページ＞を完成させる
10	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・秋(1)9月	大竹	予習(40分):　9月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜9月のページ＞を完成させる
11	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・秋(2)10月	大竹	予習(40分):　10月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜10月のページ＞を完成させる
12	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・秋(3)11月	大竹	予習(40分):　11月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜11月のページ＞を完成させる
13	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・冬(1)12月	大竹	予習(40分):　12月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜12月のページ＞を完成させる
14	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・冬(2)1月	大竹	予習(40分):　1月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜1月のページ＞を完成させる
15	読み聞かせ・おはなし会・季節の保育の実践研究・冬(3)2月	大竹	予習(40分):　2月の自然・行事・歌・絵本・紙芝居・遊び・折り紙を調べて整理する 復習(40分):　季節のファイル＜2月のページ＞を完成させる

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	＊電子教材の活用 おりがみくらぶ「きせつのおりがみ」 https://www.origami-club.com/season/index.html
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。
・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。
・本演習では、生成AIの使用を指示した課題は出さない。実体験、実際の製作活動を主とする。

【成績の評価方法】

授業参加度（課題への取り組み）30％、発表30％、提出物40％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館

【参考書】

かこさとし「こどもの行事　しぜんと生活」シリーズ全12巻、小峰書店
加古里子『伝承遊び考』全4巻、小峰書店
かこさとし「あそびずかん」全4巻、小峰書店

【オープンな教育リソース】

＊電子教材の活用
おりがみくらぶ「きせつのおりがみ」 https://www.origami-club.com/season/index.html

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

月曜：昼休み・4限、金曜：昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024年度

授業科目名	舞台表現A	担当教員名	井上救・田尻真理子・田中路				
コード	22ART204	区分 （必修・選択）	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			○
年次／期間	1年次～4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

子どもたちにとって、日々の保育における劇あそびや行事における劇活動は大きな楽しみのひとつである。そして子どもたちに関わる教諭や保 育士は、このような「劇」に関わるパフォーマンスを子どもたちと行う方法を熟知する必要がある。この「劇」に含まれるパフォーマンスとして、オペレッタやミュージカル、演劇といった舞台表現が挙げられるが、これらは音楽、舞踊、台詞とい った様々なパフォーマンスが結びついたものである。またこのようなパフォーマンスを実践するにあたっては、観るものに伝えることを常に意識し なければならない。本授業では舞台表現に含まれる多様なパフォーマンスについて理論と実践の両面から学んだ上で、観客に伝わる表現を考えなが ら、完成度の高い舞台作品の上演を目指す。具体的にはミュージカル、ギリシャ悲劇と能、演劇と教育、舞台美術と効果といった舞台表現の特徴を学 んだ後、脚本を執筆する方法や、舞台音楽作成のテクニック、衣装や装置の作成方法を演習を通して身に付ける。最終的には受講者が各役割に分か れ、舞台作品作成の作業を進めていく。第 15 回目には作成した脚本を用いて出演者のオーディションを行い、舞台作品の作成に向けた分担を確定す る。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1	様々な舞台表現の種類とその特徴について説明できる。			○
2	舞台表現に関わる様々な役割とその内容を理解し、説明できる。			○
3	与えられた役割に対して責任を持ち、舞台作成に向けて他者と協力して作業ができる。			○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	オリエンテーション （井上、田尻、田中路）	・本授業の目的について理解し、不明な点があれば次時に質問できるようにしておく（30 分）。 ・鑑賞した昨年度の映像について改善点を自分なりに考えまとめる（20 分）。
2	舞台表現の様々な役割：各役割の概要　（井上、田尻、田中路） （脚本、音楽、装置、照明、衣装）	・希望する役割を決めておく（20 分）。
3	役割ごとの作業①　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：使用素材、道具の確認 音楽：歌詞の創作 照明：機材の確認	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）
4	脚本読み合わせ　（井上、田尻、田中路）	・脚本を読み込み、台詞を読む練習を積む（60 分）
5	配役オーディション　（井上、田尻、田中路）	・脚本を読み込み、台詞を読む練習を積む（60 分）。
6	役割ごとの作業②：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：作成計画（1） 音楽：旋律の創作（1） 照明：操作練習（1）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）。
7	役割ごとの作業③：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：作成計画（2） 音楽：旋律の創作（2） 照明：操作練習（2）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）。
8	役割ごとの作業⑤：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：衣装の作成準備（1） 音楽：伴奏の創作（1） 照明：操作練習（1）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）
9	役割ごとの作業⑤：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：衣装の作成準備（1） 音楽：伴奏の創作（1） 照明：操作練習（1）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）。
10	役割ごとの作成⑥：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：衣装の作成準備（2） 音楽：伴奏の創作（2） 照明：操作練習（2）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）。
11	役割ごとの作成⑦：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：衣装の作成準備（3） 音楽：伴奏の創作（3） 照明：操作練習（3）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）。
12	役割ごとの作業⑧：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：衣装の作成（1） 音楽：楽曲の仕上げ（1） 照明：操作練習（1）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）。
13	役割ごとの作業⑨：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：衣装の作成（2） 音楽：楽曲の仕上げ（2） 照明：操作練習（2）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）。
14	役割ごとの作業⑩：　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装：衣装の作成（3） 音楽：楽曲の仕上げ（3） 照明：操作練習（3）	割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（45 分）。

15	前期のまとめ・後期に向けて　（井上、田尻、田中路）	・前期に学んだことをまとめる（45 分）

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業内に口頭で行う。

【成績の評価方法】

授業参加度・貢献度50%
期末レポート　　50%

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

授業内に指示

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

【教員連絡先】

sinoue@g.t-junshin.ac.jp　mtajiri@g.t-junshin.ac.jp　mtanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】 繰り返し受講可科目。

本授業履修後、舞台表現法Bを継続して履修することが望ましい。
緊急事態宣言発令等で授業の実施計画、実施形態が変更となる場合がある。

現代文化学部　　2024年度

授業科目名	舞台表現B	担当教員名	井上 救・田尻真理子・田中 路				
コード	22ART205	区分 （必修・選択）	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			○
年次／期間	1年次～4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

子どもたちにとって、日々の保育における劇あそびや行事における音楽劇は大きな楽しみのひとつである。そして子どもたちに関わる教諭や保 育士は、このような「劇」に関わるパフォーマンスを子どもたちと行う方法を熟知する必要がある。この「劇」に含まれるパフォーマンスとして、オペレッタやミュージカル、演劇といった舞台表現が挙げられるが、これらは音楽、舞踊、台詞とい った様々なパフォーマンスが結びついたものである。またこのようなパフォーマンスを実践するにあたっては、観るものに伝えることを常に意識し なければならない。本授業では舞台表現に含まれる多様なパフォーマンスについて理論と実践の両面から学んだ上で、観客に伝わる表現を考えなが ら、完成度の高い舞台作品の上演を目指す。また出演者としてだけでなく、楽曲演奏や照明、舞台装置、衣装といった役割についても学び、実際に 担当に分かれて舞台作品を創り上げていく。最終的には 12 月に行われる「純心こどもの国のクリスマス」において、舞台作品をこどもたちの前で上 演する。このことを通して、各受講者の表現技術や各役割についての知識・技能、また他者と協同してひとつの作品を創り上げるチームワークを育 むことを目指す。受講者には、将来こどもたちと共に劇あそびなどを行う場合のヒントを常に探しながら履修してほしい。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1	舞台表現に関わる様々な役割とその内容を理解し、説明できる。			○
2	与えられた役割に対して責任を持ち、舞台作成に向けて他者と協力して作業ができる。			○
3	「純心こどもの国のクリスマス」において、他者と協同しながらまとまった舞台作品を上演する。			○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	オリエンテーション 脚本読み合わせ 役割ごとの作業進捗報告　（井上、田尻、田中路）	・本授業の目的について理解し、不明な点があれば次時に質問できる ようにしておく（30分）。 ・脚本を読み込み、台詞の表現や舞台の構想を検討する（30分）。
2	役割ごとの作業①: 役者:読み合わせ 脚本:場ごとの推敲　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装:装置のデザイン 音楽:楽曲の確認、編成確認　照明:操作練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（60分）。
3	役割ごとの作業②: 役者:場ごとの立ち練習（前半） 脚本:場ごとの推敲　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装:装置の制作 音楽:ピアノ、楽器合わせ　照明:操作練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（60分）。
4	役割ごとの作業③: 役者:場ごとの立ち練習（後半） 脚本:立ち稽古の確認　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装:装置の制作 音楽:ピアノ、楽器合わせ　照明:操作練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（60分）。
5	役割ごとの作業④: 役者:歌合わせ 脚本:展開の再確認　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装:装置の制作 音楽:ピアノ、楽器合わせ　照明:操作練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（60分）。
6	役割ごとの作業⑤: 役者:通し練習 脚本:尺の確認　（井上、田尻、田中路） 装置・衣装:装置の制作 音楽:通し練習　照明:通し練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める（60分）。
7	全体練習① ステージの位置関係確認 場ごとの練習　（井上、田尻、田中路）	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する（60分）。
8	全体練習② 場ごとの練習　（井上、田尻、田中路）	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する（60分）。
9	全体練習③ 場ごとの練習　（井上、田尻、田中路）	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する（60分）。
10	全体練習④ 通し練習　（井上、田尻、田中路）	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する（60分）。
11	全体練習⑤ 通し練習　（井上、田尻、田中路）	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する（60分）。
12	全体練習⑥ 通し練習　（井上、田尻、田中路）	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する（60分）。
13	リハーサル　（井上、田尻、田中路）	・リハーサルの反省点を確認し、次時までに改善する（60分）。
14	「純心こどもの国のクリスマス」本番　（井上、田尻、田中路）	・本番を振り返り、各自反省点をまとめる（60分）。

15	本番映像鑑賞／反省 後期のまとめ　　（井上、田尻、田中路）	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業内に口頭で行う。

【成績の評価方法】

授業参観度・貢献度50%
期末レポート　　50%

【履修申請上の条件】

「純心こどもの国のクリスマス」（第14回授業、2024年12月7日(土)）当日に出席できること。

【教科書】

特になし

【参考書】

授業内に指示する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

【教員連絡先】

sinoue@g.t-junshin.ac.jp　mtajiri@g.t-junshin.ac.jp　m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】 繰り返し受講可。

舞台表現法Bのみの履修も可能であるが、舞台表現法Aと継続した履修が望ましい。
緊急事態宣言発令等により授業計画、授業実施形態が変更になる場合がある。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化特講A	担当教員名	佐野　通夫				
コード	22CHI307	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			△
年次／期間	1年次～4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

「外国につながる子ども」とは、国籍を問わず、文化的言語的に多様な背景をもつ子どものことを示す。
日本での 30 年間の出生数をみると、「父母ともに日本」の子は減少しているものの、「父母ともに外国」の子は増加している。2019年には、日本で出生した子の25人に1人(4.0%)が、外国につながる子であった。
つまり、子どもの国籍や母語が、必ずしも出生地や育った地を示すものではなくなっている。これに伴い、幼児教育の現場では、保育・教育の多文化・国際化に対応できる保育者が求められている。
そこで、諸外国や日本の現状をふまえながら、外国につながる子どもや保護者への支援の実際を学び、多文化保育・教育のあり方について学修する。
さらに、自ら「問い」をもち、調べ、考えられ、各分野についての新しい知見が身に付けられるように学びを深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を備えることができる。		○	
2 学生生活や日常生活の話題を取り上げながら、文化によって異なる多様な価値観について、母語と外国語の視点からコミュニケーションを通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーションや他者理解の基礎を培うことができる。		○	
3 言語の違いを超えた相互理解のために、どのような工夫ができるのかを探索することができるようになる。		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	多文化保育・教育とは何か ・多文化主義と同化主義について考えてみる。	佐野通夫	予習(40分):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 復習(140分):課題について考えをまとめる。
2	在日外国人の動向と福祉ニーズ 在日外国人の現状や外国人支援の課題について学ぶ。	佐野通夫	予習(90分):教科書第1話・第2話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):在日外国人の増加が日本社会にもたらす影響についてまとめる。
3	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(保育) ① 言葉に関する事例 ② 食事に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	佐野通夫	予習(90分):教科書第3話・第4話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本における外国籍の子どもと日本国籍の子どもの就学扱いの相違点についてまとめる。
4	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(小学校) ① 入学に関する事例 ② 授業・学力に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	佐野通夫	予習(90分):教科書第5話・第6話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):母語とは何か、母語の重要性についてまとめる。
5	多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割	佐野通夫	予習(90分):教科書第7話・第8話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと. 復習(90分):日本人らしさとはどのようなものか、まとめる。
6	行政の多文化共生への取り組み ー多文化保育・教育を踏まえてー	佐野通夫	予習(90分):教科書第9話・第10話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
7	地域の国際交流、外国人支援	佐野通夫	予習(90分):教科書第11話・第12話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
8	地域の国際交流、外国人支援	佐野通夫	予習(90分):教科書第13話・第14話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
9	今後の多文化保育・教育の課題と展望	佐野通夫	予習(90分):教科書第15話・第16話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
10	日本の多文化社会の現状と課題	佐野通夫	予習(90分):教科書第17話・第18話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
11	世界の多文化社会の現状と課題	佐野通夫	予習(90分):教科書第19話・第20話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
12	世界の子育て支援の現状(1): 韓国の事例	佐野通夫	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物＜多文化絵本の窓＞を完成させる
13	世界の子育て支援の現状(2): ジンバブエの事例	佐野通夫	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物＜多文化絵本の窓＞を完成させる
14	自分の住んでいる地域の国際交流、外国人支援について調べ、まとめる。	佐野通夫	予習(90分):グループごとに自分の地域の国際交流について調査をする。 復習(90分):地域の国際交流についてまとめる。
15	日本の多文化社会の現状と課題を整理した上で、多文化共生に関わる 具体的政策課題を解決する方法を、ディスカッションやグループワークなどを 通じて探る。	佐野通夫	予習(90分):日本の多文化社会の現状と課題を整理しておく。 復習(90分):ディスカッションやグループワークなどを通じて探った内容についてまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	・国立国際子ども図書館の電子ギャラリーの利用 「日本発☆子どもの本、海を渡る」https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業時の意見交換等により、様々な考え方があることを、専門的知見や日常の出来事等を通してみていく。

【成績の評価方法】

課題:30%
小テスト:30%
定期試験:40%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会／編『クラスメイトは外国人 課題編――私たちが向き合う多文化共生の現実』明石書店2020

【参考書】

・『保育者のための外国人保護者支援の本』かもがわ出版 2020
・『多文化絵本を楽しむ』ミネルヴァ書房　2014

【オープンな教育リソース】

「日本発☆子どもの本、海を渡る」https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

・月曜　4限

【教員連絡先】

msano@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化特講B	担当教員名	小川清美				
コード	22CHI308	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			△
年次／期間	3・4年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

子どもの遊びの中に「伝承あそび」と呼ばれる遊びがある。
本来、子どもの遊びは、子どもたちの中から自発的に生まれ、遊ばれ、それがおもしろいものであれば受け継がれていくもの、すなわち伝承されていくものである。
なぜ、私たちは、ある種の遊びを「伝承あそび」と呼ぶのだろうか。また、なぜ「伝承あそび」を大切にしていかなければならないのか。いろいろな「伝承あそび」をまず体験する。
体験することによって、人々が意識せずに伝承してきた、その理由を想像し、考えてみる。さらに一つひとつの遊びには、どのくらいの歴史があるのかを知る。
なぜ、そのように長い間伝承されてきたのか、遊びの魅力について、考察する。一つひとつの具体的な遊びの意味を知ることにより、大人として子どもたちに伝える重要さを理解する。
すなわち「伝承あそび」の起源、魅力とその遊び方について学ぶことで、「伝承あそび」を子どもに伝えることができる保育者になることを目標とする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 いろいろな伝承あそびを知り、実際に行い、こどもに伝えることができるようにする。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	伝承あそびとは何か	小川	予習(30分)教科書14頁まで読んでおく。 復習(30分)理解を深めておく。
2	いろいろな伝承あそび1　あぶくたった	小川	**予習(30分)教科書27頁から33頁を読んでおく。 復習(30分)理解を深めておく。**
3	いろいろな伝承あそび2　あやとり	小川	予習(30分)教科書34頁から40頁を読んでおく。あやとり用の紐を用意する。 復習(30分)実際にたくさん練習する。
4	いろいろな伝承あそび3　絵描き歌	小川	**予習(30分)教科書50頁から53頁を読んでおく。 復習(30分)何回も書いてみる。**
5	いろいろな伝承あそび4お手玉	小川	予習(30分)教科書56頁から62頁を読んでおく。お手玉作成のための布などを用意する。 復習(30分)お手玉を完成させ、練習する。
6	いろいろな伝承あそび5鬼ごっこ	小川	**予習(30分)教科書63頁から66頁まで読んでおく。 復習(30分)遊びの理解を深める。**
7	いろいろな伝承あそび6おはじき	小川	予習(30分)教科書67頁から69頁まで読んでおく。おはじきの準備をする。 復習(30分)何回もやってみる。
8	いろいろな伝承あそび7折り紙	小川	**予習(30分)教科書70頁から77頁まで読んでおく。折り紙の用意をする。 復習(30分)折り方を見ないで折れるように練習する。**
9	いろいろな伝承あそびかくれんぼ	小川	予習(30分)教科書78頁から83頁まで読んでおく。 復習(30分)遊びの意味を理解する。
10	いろいろな伝承あそび9かごめかごめ	小川	**予習(30分)教科書86頁から91頁を読んでおく。 復習(30分)遊びの意味を理解する。**
11	いろいろな伝承あそび10缶けり	小川	予習(30分)教科書92頁から94頁を読んでおく。 復習(30分)遊びの意味を理解する。
12	いろいろな伝承あそび11ことろことろ	小川	**予習(30分)教科書95頁から98頁を読んでおく。 復習(30分)遊びの意味を理解する。**
13	いろいろな伝承あそび12こま	小川	予習(30分)教科書99頁から103頁を読んでおく。コマがあれば持参する。 復習(30分)上手に回せるように練習する。
14	いろいろな伝承あそび13はじめの一歩	小川	**予習(30分)教科書146頁から150頁を読んでおく。 復習(30分)遊びの意味を理解する。**
15	伝承あそびを存続する条件	小川	予習(30分)教科書15頁から20頁を読んでおく。 復習(30分)伝承あそびについてレポートする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

毎回の授業時に提出する振り返りシートをもとに次回の授業でフィードバックする。

【成績の評価方法】

授業への意欲的な取り組みと制作物で評価する。(100%)

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

『子どもに伝えたい伝承あそび　起源・魅力とその遊び方』(小川清実著) 萌文書林

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

火曜日昼休み

【教員連絡先】

kogawa@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	こども文化特講F	担当教員名	田中　路				
コード	22CHI312	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			△
年次／期間	3、4年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
○	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】　305

本授業ではトーンチャイムの合奏を体験し、その奏法や特性を理解した上で、12 月に行われる大学行事「純心こどもの国のクリスマス」におけるトーンチャイムの演奏発表に向け練習に取り組み、完成度の高い演奏を目指す。トーンチャイムは軽量で丈夫な楽器で、保育や福祉の現場でも頻繁に用いられる。本授業を通して、履修者が実際に演奏技術を磨き、息の合ったアンサンブルを仕上げること、また将来保育の現場でアンサンブルの指導を担う場面で適切な指導ができるよう、指導力を伸長することも目指す。各人が練習、発表、振り返りという一連のプロセスを経験することで、合奏の教育的意義についても検討し、本番終了後には振り返りのレポートを作成する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1	トーンチャイムの奏法を理解し、メンバーと共に息の合った演奏を仕上げることができる		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明 トーンチャイムの基礎(音の鳴らし方、止め方、演奏姿勢)	田中	予習:トーンチャイムの概要を調べておく(2時間) 復習:トーンチャイムの基礎についての復習（2時間）
2	トーンチャイムの合奏(1):グループによる楽曲の練習(担当音決定、譜読み)	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
3	トーンチャイムの合奏(2):小グループによる楽曲の練習(部分練習)	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
4	トーンチャイムの合奏(3):小グループによる楽曲の練習(強弱の工夫)	田中	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(1時間) 復習：合奏練習を進める(3時間)
5	トーンチャイムの合奏(4):小グループによる楽曲の練習(速度の工夫)	田中	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(1時間) 復習：合奏練習を進める(3時間)
6	トーンチャイムの合奏(5):小グループによる楽曲の練習(通し練習)、グループ発表	田中	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(3時間) 復習：グループ発表の反省を行う(1時間)
7	トーンチャイムの合奏(6):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 （担当音決定、譜読み）	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
8	トーンチャイムの合奏(7):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (部分練習)	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
9	トーンチャイムの合奏(8):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (強弱の工夫)	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
10	トーンチャイムの合奏(9):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (速度の工夫)	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
11	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (通し練習①)	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
12	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (通し練習②)	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
13	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (リハーサル)	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
14	「純心こどもの国のクリスマス」における演奏発表	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(4時間)
15	「純心こどもの国のクリスマス」の反省	田中	予習・復習:本番の演奏を振り返り、反省点を整理しておく(4時間)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

合奏練習については次回授業時までに各グループ(もしくは個人)で進め、次回授業時に教員が成果をチェックしコメントする。

【成績の評価方法】

「純心こどもの国のクリスマス」に向けた準備、授業全体に臨む姿勢60%。第15回で提出する振り返りシートの内容40%。
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】 12月の「純心こどもの国のクリスマス」に必ず出演できること。グループワークが中心となるので、他の学生と互いに高め合いながら取り組むこと。 授業時間外での準備が必要となる場合もあるので、協力し合って取り組むこと。メンバーが揃わないと練習に支障が出るため、欠席をしないこと。
【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	ピアノ表現法Ⅴ	担当教員名	田中　路				
コード	22EDU302	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	3・4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

幼児教育や保育の現場において、音楽を通して子どもと遊んだり、コミュニケーションをとったりする機会は多い。
その際に教師や保育者に求められるのは、自分が演奏できるだけでなく、子どもの様子を見ながら演奏したり、音楽をリードしたりする能力である。
この授業では、そういった実践的な力を養うことを目指し、ピアノの演奏、子どもの歌の歌唱、弾き歌いという三つの技能を磨いていく。
本学の学位授与の方針のうち、「「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能」を身に着けるために、特に弾き歌いについては、教育現場で実際に多く歌われる楽曲を中心に、
できるだけ多くのレパートリーを習得する。ピアノ表現法Ⅳまでは指定課題曲に従って学習に取り組んできたが、本授業以降は課題曲を自ら選び、演奏を身に付ける力も養っていく。
個人及びグループレッスンを通して、弾き歌いの技術的な修得だけでなく、人前で演奏する際の様々な表現方法の探求も目指していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 ピアノ表現法Ⅰ～Ⅳで学んだ基礎を活かし、表情豊かな演奏ができるようになる			○
2 声と伴奏のバランスに注意をはらいながら、子どもの歌の弾き歌いができるようになる　※自ら課題曲を選定する			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 子どもの歌の弾き歌い(1):課題曲の選定	田中	予習:6曲の課題曲を選定しておく(30分) 復習:課題曲aの譜読みを行う(30分)
2	子どもの歌の弾き歌い(2):課題曲a(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲aのピアノ演奏の練習を行う(60分)
3	子どもの歌の弾き歌い(3):課題曲a(弾き歌い)	田中	予習:課題曲aの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲aの弾き歌いができるようにする(30分)
4	子どもの歌の弾き歌い(4):課題曲b(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲bのピアノ演奏の練習を行う(60分)
5	子どもの歌の弾き歌い(5):課題曲b(弾き歌い)	田中	予習:課題曲bの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲bの弾き歌いができるようにする(30分)
6	子どもの歌の弾き歌い(6):課題曲c(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲cのピアノ演奏の練習を行う(60分)
7	子どもの歌の弾き歌い(7):課題曲c(弾き歌い)	田中	予習:課題曲cの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲cの弾き歌いができるようにする(30分)
8	子どもの歌の弾き歌い(8):課題曲d(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲dのピアノ演奏の練習を行う(60分)
9	子どもの歌の弾き歌い(9):課題曲d(弾き歌い)	田中	予習:課題曲dの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲dの弾き歌いができるようにする(30分)
10	小テスト(他のクラスと合同)	田中	予習:小テストの準備を行う(30分) 復習:小テストの振り返りを行なう(30分)
11	子どもの歌の弾き歌い(10):課題曲e(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲eのピアノ演奏の練習を行う(30分)
12	子どもの歌歌の弾き歌い(11):課題曲e(弾き歌い)	田中	予習:課題曲eの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲eの弾き歌いができるようにする(30分)
13	子どもの歌の弾き歌い(12):課題曲f(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲fのピアノ演奏の練習を行う(60分)
14	子どもの歌の弾き歌い(13):課題曲f(弾き歌い)	田中	予習:課題曲fの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲fの弾き歌いができるようにする(30分)
15	子どもの歌の弾き歌い(14):クラスごとの発表会	田中	予習:発表会の準備を行う(30分) 復習:発表会の反省を行い、定期試験に向けて練習する(30分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回授業時に教員がチェックを行う。
次回授業時までに課題曲を練習し、担当教員の指導を受けられるようにしておくこと。そのために毎日ピアノに向かい、練習を積んでおくこと。

【成績の評価方法】

期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20%
合計：100％
第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

ピアノ表現法Ⅳの単位が取得済であること。

【教科書】

平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた〈簡易伴奏曲つき〉』圭文社.
文部科学省『幼稚園教育要領』
厚生労働省『保育所保育指針』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

【参考書】

小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

火曜 12時15分～50分

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	ピアノ表現法VI	担当教員名	田中　路				
コード	22EDU303	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	3・4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

幼児教育や保育の現場において、音楽を通して子どもと遊んだり、コミュニケーションをとったりする機会は多い。その際に教師や保育者に求められるのは、自分が演奏できるだけでなく、
子どもの様子を見ながら演奏したり、音楽をリードしたりする能力である。この授業では、そういった実践的な力を養うことを目指し、ピアノの演奏、子どもの歌の歌唱、弾き歌いという三つの技能を磨いていく。
本学の学位授与の方針のうち、「「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能」を身に着けるために、特に弾き歌いについては、教育現場で実際に多く歌われる楽曲を中心に、
できるだけ多くのレパートリーを習得する。
本授業ではピアノ表現法Vまでの学習内容をふまえ、自らのウイークポイントを克服するために、自分自身で練習方法を工夫できるようになることを目指す。
個人及びグループレッスンを通して、弾き歌いの技術的な修得だけでなく、人前で演奏する際の様々な表現方法の探求も目指していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 ピアノ表現法Ⅰ～Ⅴの学習内容を活かし、表情豊かな演奏ができるようになる			○
2 声と伴奏のバランスに注意をはらいながら、子どもの歌の弾き歌いができるようになる　※自ら課題曲を選定する			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 子どもの歌の弾き歌い(1):課題曲の選定	田中	予習:6曲の課題曲を選定しておく(30分) 復習:課題曲aの譜読みを行う(30分)
2	子どもの歌の弾き歌い(2):課題曲a(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲aのピアノ演奏の練習を行う(60分)
3	子どもの歌の弾き歌い(3):課題曲a(弾き歌い)	田中	予習:課題曲aの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲aの弾き歌いができるようにする(30分)
4	子どもの歌の弾き歌い(4):課題曲b(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲bのピアノ演奏の練習を行う(60分)
5	子どもの歌の弾き歌い(5):課題曲b(弾き歌い)	田中	予習:課題曲bの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲bの弾き歌いができるようにする(30分)
6	子どもの歌の弾き歌い(6):課題曲c(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲cのピアノ演奏の練習を行う(60分)
7	子どもの歌の弾き歌い(7):課題曲c(弾き歌い)	田中	予習:課題曲cの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲cの弾き歌いができるようにする(30分)
8	子どもの歌の弾き歌い(8):課題曲d(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲dのピアノ演奏の練習を行う(60分)
9	子どもの歌の弾き歌い(9):課題曲d(弾き歌い)	田中	予習:課題曲dの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲dの弾き歌いができるようにする(30分)
10	小テスト(他のクラスと合同)	田中	予習:小テストの準備を行う(30分) 復習:小テストの振り返りを行なう(30分)
11	子どもの歌の弾き歌い(10):課題曲e(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲eのピアノ演奏の練習を行う(30分)
12	子どもの歌歌の弾き歌い(11):課題曲e(弾き歌い)	田中	予習:課題曲eの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲eの弾き歌いができるようにする(30分)
13	子どもの歌の弾き歌い(12):課題曲f(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲fのピアノ演奏の練習を行う(60分)
14	子どもの歌の弾き歌い(13):課題曲f(弾き歌い)	田中	予習:課題曲fの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲fの弾き歌いができるようにする(30分)
15	子どもの歌の弾き歌い(14):クラスごとの発表会	田中	予習:発表会の準備を行う(30分) 復習:発表会の反省を行い、定期試験に向けて練習する(30分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回授業時に教員がチェックを行う。
次回授業時までに課題曲を練習し、担当教員の指導を受けられるようにしておくこと。そのために毎日ピアノに向かい、練習を積んでおくこと。

【成績の評価方法】

期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20%
合計：100％
第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

ピアノ表現法Ｖの単位が取得済であること。

【教科書】

平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた〈簡易伴奏曲つき〉』圭文社.
文部科学省『幼稚園教育要領』
厚生労働省『保育所保育指針』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

【参考書】

小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

火曜 12時15分～50分

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	ピアノ表現法Ⅶ	担当教員名	田中　路				
コード	19EDU304	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

幼児教育や保育の現場において、音楽を通して子どもと遊んだり、コミュニケーションをとったりする機会は多い。その際に教師や保育者に求められるのは、自分が演奏できるだけでなく、
子どもの様子を見ながら演奏したり、音楽をリードしたりする能力である。この授業では、そういった実践的な力を養うことを目指し、ピアノの演奏、子どもの歌の歌唱、弾き歌いという三つの技能を磨いていく。
本学の学位授与の方針のうち、「「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能」を身に着けるために、特に弾き歌いについては、教育現場で実際に多く歌われる楽曲を中心に、できるだけ多くのレパートリーを習得する。
本授業ではピアノ表現法Ⅵまでの学習内容をふまえ、自らのウイークポイントを克服するために、自分自身で練習方法を工夫できるようになることを目指す。
個人及びグループレッスンを通して、弾き歌いの技術的な修得だけでなく、人前で演奏する際の様々な表現方法の探求も目指していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 ピアノ表現法Ⅰ～Ⅵの学習内容を活かし、表情豊かな演奏ができるようになる		○			
2 声と伴奏のバランスに注意をはらいながら、子どもの歌の弾き歌いができるようになる　※自ら課題曲を選定する		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 子どもの歌の弾き歌い(1):課題曲の選定	田中	予習:6曲の課題曲を選定しておく(30分) 復習:課題曲aの譜読みを行う(30分)
2	子どもの歌の弾き歌い(2):課題曲a(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲aのピアノ演奏の練習を行う(60分)
3	子どもの歌の弾き歌い(3):課題曲a(弾き歌い)	田中	予習:課題曲aの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲aの弾き歌いができるようにする(30分)
4	子どもの歌の弾き歌い(4):課題曲b(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲bのピアノ演奏の練習を行う(60分)
5	子どもの歌の弾き歌い(5):課題曲b(弾き歌い)	田中	予習:課題曲bの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲bの弾き歌いができるようにする(30分)
6	子どもの歌の弾き歌い(6):課題曲c(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲cのピアノ演奏の練習を行う(60分)
7	子どもの歌の弾き歌い(7):課題曲c(弾き歌い)	田中	予習:課題曲cの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲cの弾き歌いができるようにする(30分)
8	子どもの歌の弾き歌い(8):課題曲d(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲dのピアノ演奏の練習を行う(60分)
9	子どもの歌の弾き歌い(9):課題曲d(弾き歌い)	田中	予習:課題曲dの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲dの弾き歌いができるようにする(30分)
10	小テスト(他のクラスと合同)	田中	予習:小テストの準備を行う(30分) 復習:小テストの振り返りを行なう(30分)
11	子どもの歌の弾き歌い(10):課題曲e(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲eのピアノ演奏の練習を行う(30分)
12	子どもの歌歌の弾き歌い(11):課題曲e(弾き歌い)	田中	予習:課題曲eの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲eの弾き歌いができるようにする(30分)
13	子どもの歌の弾き歌い(12):課題曲f(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲fのピアノ演奏の練習を行う(60分)
14	子どもの歌の弾き歌い(13):課題曲f(弾き歌い)	田中	予習:課題曲fの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲fの弾き歌いができるようにする(30分)
15	子どもの歌の弾き歌い(14):クラスごとの発表会	田中	予習:発表会の準備を行う(30分) 復習:発表会の反省を行い、定期試験に向けて練習する(30分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回授業時に教員がチェックを行う。
次回授業時までに課題曲を練習し、担当教員の指導を受けられるようにしておくこと。そのために毎日ピアノに向かい、練習を積んでおくこと。

【成績の評価方法】

期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20%
合計：100％
第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

ピアノ表現法VIの単位が取得済であること。

【教科書】

平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた〈簡易伴奏曲つき〉』圭文社.
文部科学省『幼稚園教育要領』
厚生労働省『保育所保育指針』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

【参考書】

小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

火曜 12時15分～50分

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	ピアノ表現法Ⅷ	担当教員名	田中　路				
コード	19EDU305	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

幼児教育や保育の現場において、音楽を通して子どもと遊んだり、コミュニケーションをとったりする機会は多い。その際に教師や保育者に求められるのは、自分が演奏できるだけでなく、
子どもの様子を見ながら演奏したり、音楽をリードしたりする能力である。この授業では、そういった実践的な力を養うことを目指し、ピアノの演奏、子どもの歌の歌唱、弾き歌いという三つの技能を磨いていく。
本学の学位授与の方針のうち、「「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能」を身に着けるために、特に弾き歌いについては、教育現場で実際に多く歌われる楽曲を中心に、
できるだけ多くのレパートリーを習得する。
本授業ではピアノ表現法Ⅶまでの学習内容をふまえ、子ども達が歌いやすい演奏法や伴奏法を探究し、表情豊かに弾き歌いできるようになることを目指す。個人及びグループレッスンを通して、
弾き歌いの技術的な修得だけでなく、人前で演奏する際の様々な表現方法の探求も目指していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 ピアノ表現法Ⅰ～Ⅶの学習内容を活かし、表情豊かな演奏ができるようになる		○			
2 声と伴奏のバランスに注意をはらいながら、子どもの歌の弾き歌いができるようになる　※自ら課題曲を選定し、できるだけ多くの子どもの歌を弾き歌いできるようにする		○			
3 ※暗譜で演奏できるようにすること					

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 子どもの歌の弾き歌い(1):課題曲の選定	田中	予習:6曲の課題曲を選定しておく(30分) 復習:課題曲aの譜読みを行う(30 分)
2	子どもの歌の弾き歌い(2):課題曲a(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲aのピアノ演奏の練習を行う(60分)
3	子どもの歌の弾き歌い(3):課題曲a(弾き歌い)	田中	予習:課題曲aの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲aの弾き歌いができるようにする(30 分)
4	子どもの歌の弾き歌い(4):課題曲b(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲bのピアノ演奏の練習を行う(60分)
5	子どもの歌の弾き歌い(5):課題曲b(弾き歌い)	田中	予習:課題曲bの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲bの弾き歌いができるようにする(30 分)
6	子どもの歌の弾き歌い(6):課題曲c(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲cのピアノ演奏の練習を行う(60分)
7	子どもの歌の弾き歌い(7):課題曲c(弾き歌い)	田中	予習:課題曲cの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲cの弾き歌いができるようにする(30 分)
8	子どもの歌の弾き歌い(8):課題曲d(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲dのピアノ演奏の練習を行う(60分)
9	子どもの歌の弾き歌い(9):課題曲d(弾き歌い)	田中	予習:課題曲dの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲dの弾き歌いができるようにする(30 分)
10	小テスト(他のクラスと合同)	田中	予習:小テストの準備を行う(30分) 復習:小テストの振り返りを行なう(30 分)
11	子どもの歌の弾き歌い(10):課題曲e(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲eのピアノ演奏の練習を行う(30分)
12	子どもの歌歌の弾き歌い(11):課題曲e(弾き歌い)	田中	予習:課題曲eの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲eの弾き歌いができるようにする(30 分)
13	子どもの歌の弾き歌い(12):課題曲f(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲fのピアノ演奏の練習を行う(60分)
14	子どもの歌の弾き歌い(13):課題曲f(弾き歌い)	田中	予習:課題曲fの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲fの弾き歌いができるようにする(30 分)
15	子どもの歌の弾き歌い(14):クラスごとの発表会	田中	予習:発表会の準備を行う(30分) 復習:発表会の反省を行い、定期試験に向けて練習する(30 分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回授業時に教員がチェックを行う。
次回授業時までに課題曲を練習し、担当教員の指導を受けられるようにしておくこと。そのために毎日ピアノに向かい、練習を積んでおくこと。

【成績の評価方法】

期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20%
合計：100％
第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

ピアノ表現法Ⅶの単位が取得済であること。

【教科書】

平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた〈簡易伴奏曲つき〉』圭文社.
文部科学省『幼稚園教育要領』
厚生労働省『保育所保育指針』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

【参考書】

小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

火曜 12時15分～50分

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	保育実習Ⅰ(施設)	担当教員名	田尻　真理子・井上　救				
コード	22NUR426	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／集中	単位／時間数／形態	2単位／90時間／実習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

本科目は、保育士課程必修の実習として、保育所を除く児童福祉施設等において12日間の実習を実施する。
事前の保育実習指導Ⅰ(施設)における学修を踏まえて、施設の種別及び形態に応じた目標及び計画を立て、日々の実習に臨む。1日の実習終了後は、担当職員との振り返りの機会を設けていただき、自己の課題を導出した上で実習日誌を記録していく。
実習日誌の記録等を通じた自身の客観的評価を踏まえて、次の目標及び計画を立てて実習に臨む。上述した一連の取り組みを積み重ねていき、施設保育士の役割や実習先の機能等の理解を深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 児童福祉施設等の社会的役割や機能について説明することができる			○
2 観察及び利用者との関わりを通じて利用者の理解を深めることができる。			○
3 保育士の業務内容や職業倫理について述べることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	・保育士資格を習得する選択必修の実習として実施する。 ・実習は児童福祉法に定められた保育所以外の社会福祉関連施設において実施する。 ・原則として、3年次の8月～9月に12日間(実実習時間90時間以上)実施する。	実習園実習担当者	・すべての学外学習に共通するが、平常の授業への取り組み、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくこと。 ・保育者をはじめとする子ども支援の仕事は、同僚やご家庭との連携、協働活動が要求される。日頃から、礼儀、言葉遣いに心がけるとともに、協働での活動の機会などを通して、自らを律し挑戦する実践の機会となることが期待される。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・巡回指導の際に学生から聞かれた質問に対しては、即時に回答及び助言を加える。
・実習日誌の指導に関しては、巡回指導の際に必要な箇所をその場で指導する。

【成績の評価方法】

実習施設からの実習評価をもとに、実習日誌への適正な記入、関係する提出物の適正な提出などによって総合的に評価する。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　有　)】

【履修申請上の条件】

・保育士課程選択必修科目。
・「保育実習指導Ⅰ(施設)を受講すること。
・保育実習Ⅰの履修登録は、実習実施年度の始めに行うこと。
・授業に臨む姿勢や生活態度が芳しくない者については、実習を認めない場合がある。

【教科書】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

適宜提示する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

決定次第連絡する。

【教員連絡先】

mtajiri@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・実習施設からのご協力のもとで実習させて頂いていることを常に意識すること。「保育実習指導Ⅰ(施設)の内容を踏まえて実習に際しては次の点に注意すること。
1)保育実習には健康診断、細菌検査が必須である。「保育実習指導Ⅰ」の指導に従って、各自で各証明書を手配すること。その他、個人票など必要書類を定められた期間に提出すること。
2)実習前に実習施設でのオリエンテーションを受ける。オリエンテーションの内容については実習日誌の所定の欄に記載し、「実習園オリエンテーション報告書」を実習指導センターに提出すること。
3)実習期間中は実習施設の実習方針に従って実習を行い、日々実習内容を実習日誌に整理し、指導者に提出すること。指導案などの提出が必要な場合は実習施設の指示に従って遅延なく提出し指導を受けること。
4)実習終了後は速やかに礼状を送付し、実習施設の指示に従って実習日誌などの提出、受け取りを確実に行うこと。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	保育実習指導Ⅰ(施設)	担当教員名	朴　美京				
コード	22NUR427	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
◎	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

保育実習指導Ⅰ(施設)では、保育実習Ⅰ(施設)に向けて必要な事前事後指導を行う。保育実習Ⅰ(施設)は、保育所以外の児童福祉施設等での実習をする科目として位置付けているため、事前に様々な種別の施設があることを理解し、自身の施設のみならず、他の施設の機能や多様な専門性を持つ職員についても理解を深めていく。
具体的な内容として、事前指導ではこれまでの学修を踏まえ、実習に必要な心構えや知識・技能について学ぶ。
さらに、実習を行うにあたって必要な学習内容や課題を明確にする。事後指導では、個人及びグループでの振り返りを通して、実習で学んだことを共有し、利用者のニーズや児童福祉施設等の役割についての理解を深める。さらに、施設保育士としての職業倫理や子どもの最善の利益について考えを深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1	保育実習の意義・目的を理解して実習を行うことができる。			○
2	実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にして実習を行うことができる。			○
3	実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解して実習を行うことができる。			○
4	実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解して実習を行うことができる。			○
5	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション	朴	予習(30分):実習の手引きを読んでおく 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
2	「保育実習1(施設)」の目的と概要	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
3	実習中のマナーと心構えなど施設実習中の留意事項について	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
4	養護系施設について基礎学習	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
5	障害系施設について基礎学習	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
6	養護系施設における施設実習の実際	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
7	障害児・者施設における施設実習の実際	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
8	実習目標の明確化	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
9	職務内容の理解・職責について理解	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
10	実習日誌の書き方①	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
11	実習日誌の書き方②	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
12	実習施設でのオリエンテーションとプライバシーの保護と守備義務について	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
13	実習に向けての最終確認	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
14	実習事後指導1　実習の総括と自己評価	朴	予習(30分):実習終了後に記入する書類を作成する。 復習(30分):各自の実習を振り返り、まとめておく。
15	実習事後指導2　実習報告	朴	予習(30分):報告書作成に向けた準備をする。 復習(30分):これまでの取り組みを振り返り、今後の課題を整理する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		・映像資料の視聴
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

実習目標、日誌など提出書類等の添削指導・評価を、授業時間内に解説、個別指導などし、フィードバックする。

【成績の評価方法】

課題の提出状況（個人票・授業時に出される課題等）: 50%
本授業の参加態度: 50%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価:（　無　）】

【履修申請上の条件】

・保育士資格を取得するためには必修である。「保育実習Ⅰ」を履修する者は本科目も必ず履修しなければならない。
・授業の欠席は実習や資格取得に対する意欲の著しい欠如と判断し、実習への参加を認めない事由となるので、あらかじめ留意して受講してほしい。

【教科書】

特になし。

【参考書】

・授業時に適宜紹介する。

【担当教員の実務経験】

(1)実務期間
2000年9月～2003年6月
(2)所属機関
砂町友愛園児童養護施設
(3)実務内容
児童指導員として、2歳半から18歳までの親元を離れて施設で暮らす子どもに対して、生活全般を支援する。
自立して生活を送るためにサポートをし、学校や児童相談所など関係機関との連絡調整や、保護者との面接、自立支援計画作成などを担当した。

【オフィスアワー】

授業後に行う

【教員連絡先】

park.mikyung@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	保育実習II(保育所)	担当教員名	田中 路				
コード	22NUR428	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／集中	単位／時間数／形態	2単位／集中／実習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】　316

保育士課程選択必修の実習として、認可保育所(保育所型認定こども園を含む)で実習時間90時間以上(12日間)実施する。
「保育実習I(保育所・児童福祉施設等)」をふまえ、子どもの理解に基づく参加・部分実習、さらに半日や一日責任実習を行い、より実践的で専門性の高い実習を行う。大学における実習指導の授業内容と併せ、実習園での実践的な指導を受け、自身の保育観や理想とする保育士像を明確にする。また、実習日誌や指導案についても実習園での指導を受けながら、適切かつ現場で活用可能な保育プランを設定し、記載・記録できるようにする。
さらに、子育て支援の現場で要求される力を養うために、全期間を通じて保育所における保護者支援の実際についても学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 保育所の保育を実際に実践し、保育所の社会的役割や機能について述べることができる。			○
2 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育について説明できる。			○
3 学内での既習内容や保育実習I(保育所)での学修を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について説明できる。			○
4 保育の計画や実践、記録や自己評価等の方法について、実践を通して実施する。			○
5 保育士の業務内容、職業倫理について、実践に結びつけながら述べることができる。			○
6 保育士としての自己の課題を明確にする。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	保育士資格を取得する選択必修の実習として実施する。 1. 実習は原則として保育実習I(保育所)と同一の認可保育所において実施する。 実習時 期及び期間は以下の通りである。 2. 原則として、3年次の2月から3月に実習時間90時間以上(12日間)実施する。 3. 主として参加・責任実習形態で実施する。 4. 実習園の指導方針にしたがって、子育て支援の実際について学ぶ。	田中	・保育者の仕事は、同僚や家庭、地域との連携など様々な人と関わるため、コミュニケーション力と他者と協働する力が求められる仕事である。そのため、日頃から礼儀、言葉遣い ・態度に気をつけ、学校行事や課外活動などを通して、積極的に協働的な活動に参加しておくことが望ましい。 ・健康管理を充分しておくこと (実習生としての活動に支障がある場合、実習に参加できないこともある)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・分からない点等は、巡回指導の際に質問し、解決する。
・実習日誌の指導に関しては、巡回指導の際に必要な箇所をその場で質問し解決する。

【成績の評価方法】

実習園からの実習評価を基に、実習日誌への適正な記入、関係する提出物の適正な提出などによって総合的に評価する。但し、実習終了後、次のことを怠った場合、実習単位は認められない場合がある。
1.大学に対して実習日誌・報告書など必要な提出物を定められた期限に提出できなかった場合。
2.実習園に対して、必要な書類などの提出・受け取りができなかった場合。

【生成AI利活用 (無)】

【 ルーブリック評価の活用 (無) 】

【履修申請上の条件】

保育士課程選択必修科目。並行して「保育実習II(事前事後指導)」あるいは「保育実習指導II」を受講すること。なお、「保育実習II」の履修登録は、実習実施年度の前期に行うこと。
「保育実習Ⅱ」の実施にあたっては、事前に「保育実習指導Ⅰ(保育所/児童福祉施設等)」「保育実習Ⅰ(保育所/児童福祉施設等)」の全ての単位が認定されていること。
GPAが1.5以上であること及び先修条件を満たしていること。
保育士課程の選択必修実習には「保育実習III」もあるが、前年度に実施する配当希望カードにしがたって履修すること。希望しなかった実習を登録した場合、原則として当該年度に実習は実施できないため注意すること。
授業に臨む態度や提出物の提出状況、生活態度、健康状態が芳しくない者については、実習を認めない場合がある。
保育実習Ⅱの実施要件については、学生便覧の「保育実習履修及び実施上の注意」にまとめられているので、必ず読み理解しておくこと。

【教科書】

・『実習の手引き』・日誌は必ず毎回持参すること。
・授業中に配布された資料も毎回持参すること。

【参考書】

厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

水曜日　12:10～13:00

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

協力実習園での実習となる。「保育実習II(事前事後指導)」あるいは「保育実習指導II」の内容をふまえて実習に際しては次の点に注意すること。
1.保育実習には健康診断、細菌検査が必須である。「保育実習II(事前事後指導)」あるいは「保育実習指導II」の指導にしたがって、各自で各証明書を手配すること。
　その他、個人票など必要書類を定められた期間に提出すること。
2.実習前に実習園でのオリエンテーションを受ける。オリエンテーション内容については実習日誌の所定の欄に記載し、「実習園オリエンテーション報告書」を各実習担当者に提出すること。
3.実習期間中は実習園の実習方針にしたがって実習を行い、日々実習内容を実習日誌に整理し、指導者に提出すること。指導案などの提出が必要な場合は実習園の指示にしたがって遅延なく提出し指導を受けること。
4.実習終了後はすみやかに礼状を送付し、実習園の指示にしたがって実習日誌などの提出、受け取りを確実に行うこと。

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

協力実習園での実習となる。「保育実習II(事前事後指導)」あるいは「保育実習指導II」の内容をふまえて実習に際しては次の点に注意すること。
1.保育実習には健康診断、細菌検査が必須である。「保育実習II(事前事後指導)」あるいは「保育実習指導II」の指導にしたがって、各自で各証明書を手配すること。
　その他、個人票など必要書類を定められた期間に提出すること。
2.実習前に実習園でのオリエンテーションを受ける。オリエンテーション内容については実習日誌の所定の欄に記載し、「実習園オリエンテーション報告書」を各実習担当者に提出すること。
3.実習期間中は実習園の実習方針にしたがって実習を行い、日々実習内容を実習日誌に整理し、指導者に提出すること。指導案などの提出が必要な場合は実習園の指示にしたがって遅延なく提出し指導を受けること。
4.実習終了後はすみやかに礼状を送付し、実習園の指示にしたがって実習日誌などの提出、受け取りを確実に行うこと。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	保育実習指導II(保育所)	担当教員名	小川 清美・田中 路				
コード	22NUR429	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】　272

「保育実習II(保育士課程選択必修・保育所実習)」は、「保育実習I(保育所)」の経験をふまえ、参加・責任実習を中心としたより専門性の高い実習となる。
したがって本授業では、「保育実習II」に参加するために必要な心構えや知識、技術の整理を行い、現場での実践的な学びを深めるための事前事後指導を行う。
事前指導では、子どもの実態に即した保育の展開に向けた学修や保護者支援など、より実践的な学修を行う。
事後指導では、個人及びグループで行う実習の振り返りを通して、多様な保育や養護のあり方を学び、自らの保育を省察し、将来の保育現場での実践に備える。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 「保育実習II」での学修内容や課題を明確にする。			○
2 これまでの学修や保育教材研究や指導計画の立案と実施を通して、保育実践力の向上を目指す。			○
3 保育の質の向上のための方法について、実践を通して培う。			○
4 実習の振り返りを通して、保育に対する課題(多文化の子ども等)や認識を明確にする。			○
5 保育士に求められる資質や役割、専門性や職業倫理について説明することができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	実習の意義と目的及び内容、学外実習の諸手続き 個々の子どもに応じた関わり方、地域や家庭との連携のあり方、 子どもの最善の利益・保育士の職業倫理の理解など	小川・田中	予習(30分):手引き1～3頁までよく読んで理解を深めておく。不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):保育実習II」での学習内容や課題を明確にする。
2	看護学部教員による感染症の講話 保育所に関する理解を深める 子どもの個人差の理解とそれに応じた関わり 地域社会の中での機能と役割の理解	小川・田中	予習(30分):手引き9頁までよく読んで理解を深めておく。不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):保育所に関する理解を深める。 講話に関するレポート
3	各自の実習課題の明確化 保育実習Ⅱのねらいと方法、学習内容・目標の設定	小川・田中	予習(30分):手引き4頁をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):実習の振り返りを通して、保育に対する課題や認識を明確にする。
4	個人票について ・個人票用写真について ・個人票(保)の下書き	小川・田中	予習(30分):手引き10・11頁をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については調べておくこと。 個人票配布(練習用) 写真の確認をするので写真を持参すること 復習(30分): 個人票(練習用)が出来上がっていない場合は完成させてくる。
5	実習日誌の書き方について① ・以後常時持参する ・実習先保育所の調べ学習	小川・田中	予習(30分):授業時に配布したプリントをよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):実習先について調べる。
6	実習日誌の書き方について② ・実際に日誌に書き込んでみる。	小川・田中	予習(30分):授業時に配布したプリントをよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については調べておくこと。(2時間) 振込用紙配布 復習(30分):指導計画あるいは援助計画の立案について調べる。
7	講師来校 「実践で使える手遊びを知ろう！」	小川・田中	予習(30分):手遊びについて調べておく。 復習(30分):覚えた手遊びは何度も繰り返して実践してみる。
8	指導計画の立案と実施① 指導案作成 (責任実習・部分実習)	小川・田中	予習(30分):授業時に配布したプリントをよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):これまでの学習や保育教材研究や指導計画の立案と実施を通して、 保育実践力の向上を目指す。
9	指導計画あるいは援助計画の立案と実施② 指導案作成 (責任実習・部分実習)	小川・田中	予習(30分):授業時に配布したプリントをよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):指導案は誤字・脱字がないか読み返し、清書をする。
10	・保育教材制作① 各自作成する教材を決め制作に取り掛かる ・実習先一覧表配布	小川・田中	予習(30分):関連する参考書等をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):必要な材料を準備する。
11	保育教材制作②	小川・田中	予習(30分):関連する参考書等をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):保育教材としての活用の意味や方法についてまとめる。
12	各自の制作を発表する	小川・田中	予習(30分):制作を発表するための準備をする。 復習(30分):発表についての感想や良いところ、改善をするところ等コメントをまとめる。
13	オリエンテーション報告書について 実習前に気をつけること、実習中に気をつけること等	小川・田中	予習(30分):手引き14・23頁をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):実習先の地図を調べておく。

14	指導案・チェックリストの確認	小川・田中	予習(30分):手引き15頁～21頁をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については調べておくこと。 復習(30分):お礼状・園への挨拶・実習日誌の受け取りについて確認をする。
15	実習事後指導について 4月に実習Ⅱの面談をする	小川・田中	予習(60分):実習報告書・実習時間記録表・自己評価表についてまとめておく。 事後指導への準備について確認をする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	・演習場面においては、子どものビデオ教材を活用して記録の作成やグループワーク等を実施する。 ・学生の立案した指導案等においては、学生同士が共有できる方法としてGoogleドライブを活用して可視化・共有する。 ・看護学部教員による感染症の講話(新型コロナ感染症等ウイルス対策)
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・保育所などでのボランティアに積極的に参加し、子どもへの理解を深めること。(長期休業期間等に1日以上)
・実習日誌、指導計画等の課題、責任実習の準備に取り組む。
・『実習の手引き』・日誌は必ず熟読する。
・授業中に配布された資料は読み直す。
・『保育所保育指針解説』を毎回熟考しておくこと。不明な語句については関連する本で調べておく。

【成績の評価方法】

評価には、「保育実習II」の実施が必要である。その上で、授業への参加態度(議論・発表・教材制作等の取り組み)が80%、必要書類の提出20%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

・保育士課程必修である。保育実習Ⅱを履修する場合には必ずこの実習指導を受講しなければならない。
・保育実習Ⅰ(保育所/児童養護施設等)及び保育実習指導Ⅰ(保育所/児童養護施設等)を履修済みであること。
・GPAが1.5以上であること及び先修条件を満たしていること。
・学外学習のための事前事後指導という性格上、出席状況が良好でない(出席率85%以上でない)時は、実習を許可しない場合がある。
・3年次前期に履修登録すること。

【教科書】

・『実習の手引き』
・授業時に必要に応じてプリントを配布する。ファイルにて各自管理し、授業及び実習に役立てること。

【参考書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

水曜日　12:10～13:00

【教員連絡先】

kogawa@g.t-junshin.ac.jp
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・選択必修の実習である「保育実習II」は、基本的に保育士課程における最終の実習である。実践者としての力を身につけるための実習であることを自覚し、事前事後指導において次の点に注意して臨むこと。
・「保育士資格」取得を強く希望し、将来保育者を目指す強い意志を持ち、よりよい子育て支援者になるための努力を怠らない学生のみが受講できる。
・学内で行う指導ではあるが、常に学外の実習を意識し、子どもと関わることを想定しながら受講すること。演習においては、各自を磨く場と心得、積極的に参加するように努めること。
・事後の振り返りは、各自の実習体験報告をもとに展開する。実習を単なる経験として終わらせるのではなく、実践力として確実な力にするためにも事後の振り返りをしっかりと行うことが期待される。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	保育実習Ⅲ(施設)	担当教員名	田尻　真理子				
コード	22NUR430	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／集中	単位／時間数／形態	2単位／90時間／実習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

保育士課程選択必修であり、保育所以外の社会福祉関連施設(児童養護施設、乳児院、児童発達支援事業所、障害者支援施設、児童館など)で行う実習である。期間は12日間(実実習時間90時間)である。
保育実習Ⅰ(施設)の経験及び自己の課題を踏まえ、子どもの理解に基づく参加・部分実習を通して、より実践的で専門性の高い実習を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1　児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。			○
2　児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	・保育士資格を習得する選択必修の実習として実施する。 ・実習は児童福祉法に定められた保育所以外の社会福祉関連施設において実施する。 ・原則として、3年次の2月に12日間(実実習時間90時間以上)実施する。 ・主として参加・責任実習形態で実施する。	実習担当者	・すべての学外学習に共通するが、平常の授業への取り組み、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくこと。 ・保育者をはじめとする子ども支援の仕事は、同僚やご家庭との連携、協働活動が要求される。 日頃から、礼儀、言葉遣いに心がけるとともに、協働での活動の機会などを通して、自らを律し挑戦する実践の機会となることが期待される。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・巡回指導の際に学生から聞かれた質問に対しては、即時に回答及び助言を加える。
・実習日誌の指導に関しては、巡回指導の際に必要な箇所をその場で指導する。

【成績の評価方法】

実習施設からの実習評価をもとに、実習日誌への適正な記入、関係する提出物の適正な提出などによって総合的に評価する。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価:(　無　)】

【履修申請上の条件】

・保育士課程選択必修科目。
・「保育実習指導Ⅲ」を受講すること。なお、「保育実習Ⅲ」の履修登録は、実習実施年度のはじめに行うこと。
・将来の進路として、施設保育士を志望している学生の履修を期待する。
・「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」の単位を履修済みであること。
・授業に臨む姿勢や生活態度が芳しくない者については、実習を認めない場合がある。

【教科書】

特になし

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

決定次第連絡する。

【教員連絡先】

mtajiri@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・実習施設からのご協力のもとで実習させて頂いていることを常に意識すること。「保育実習指導Ⅲ」の内容を踏まえて実習に際しては次の点に注意すること。
1)保育実習には健康診断、細菌検査が必須である。「保育実習指導Ⅲ」の指導に従って、各自で各証明書を手配すること。その他、個人票など必要書類を定められた期間に提出すること。
2)実習前に実習施設でのオリエンテーションを受ける。オリエンテーションの内容については実習日誌の所定の欄に記載し、「実習園オリエンテーション報告書」を実習指導センターに提出すること。
3)実習期間中は実習施設の実習方針に従って実習を行い、日々実習内容を実習日誌に整理し、指導者に提出すること。
　指導案などの提出が必要な場合は実習施設の指示に従って遅延なく提出し指導を受けること。
4)実習終了後は速やかに礼状を送付し、実習施設の指示に従って実習日誌などの提出、受け取りを確実に行うこと。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	保育実習指導Ⅲ(施設)	担当教員名	朴　美京				
コード	22NUR431	区分 (必修・選択) △:副専攻必須	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○		○	
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	②　多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
◎	③　こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

「保育実習Ⅲ(保育士課程選択必修)」は、「保育実習Ⅰ(児童福祉施設等)」の経験を踏まえ、参加・責任実習を中心としたより専門性の高い実習となる。従って本科目では、「保育実習Ⅲ」に参加するために必要な心構えや知識、技能の整理を行い、現場での実践的な学びを深めるための事前事後指導を行う。事前指導では、子どもや利用者の実態に即した養護、援助、支援の展開に向けた学習を行う。事後指導では、個人及びグループで行う実習の振り返りを通して、多様な養護のあり方を学び、自ら養護を省察し、将来の実践に備える。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー		
	①	②	③
1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解して実習を行うことができる。			○
2 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得して実習を行うことができる。			○
3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解して実習を行うことができる。			○
4 保育士の専門性と職業倫理について理解して実習を行うことができる。			○
5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション	朴	予習(30分):実習の手引きを読んでおく 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
2	保育実習Ⅰの振り返り及び保育実習Ⅲの意義と目的	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
3	実習中の注意事項の自己覚知	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
4	配属施設の研究	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
5	実習課題の考え方と実習課題作成	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
6	支援内容の実際と個別支援計画の作成の仕方について	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
7	個別支援計画の作成	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
8	実習日誌の書き方①	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
9	実習日誌の書き方②	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
10	施設の利用児・者についての理解を深める	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
11	保育士の多様な業務と職業倫理について考える	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
12	保育実習Ⅲ直前指導	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
13	実習事後指導1　実習の総括と自己評価	朴	予習(30分):配付資料を読む。 復習(30分):授業内容を整理し、まとめておく。
14	実習事後指導2　事例検討	朴	予習(30分):実習終了後に記入する書類を作成する。 復習(30分):各自の実習を振り返り、まとめておく。
15	実習事後指導3　実習の報告とまとめ	朴	予習(30分):報告書作成に向けた準備をする。 復習(30分):これまでの取り組みを振り返り、今後の課題を整理する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		・映像資料の視聴
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

振り返りシートなどへ記載された反応などを紹介し，学習の共有化を行う。また記載された質問も共有化し，解答や説明を行う。

【成績の評価方法】

課題の提出状況（個人票・授業時に出される課題等）: 50%
本授業の参加態度: 50%

【生成AI利活用（　有　・　無　）】

【 ルーブリック評価:（　有　・　無　）】

【履修申請上の条件】

・「保育実習Ⅰ（施設）」及び「保育実習指導Ⅰ（施設）」の単位を修得していること。
・保育士課程選択必修。「保育実習Ⅲ」選択者は必ず履修しなければならない。
・3年次前期に「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修登録すること。
・授業の欠席は実習や資格取得に対する意欲の著しい欠如と判断し、実習への参加を認めない事由となるので、あらかじめ留意して受講してほしい。

【教科書】

特になし。

【参考書】

・授業内で適宜提示する。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

(1)実務期間
2000年9月～2003年6月
(2)所属機関
砂町友愛園児童養護施設
(3)実務内容
児童指導員として、2歳半から18歳までの親元を離れて施設で暮らす子どもに対して、生活全般を支援する。
自立して生活を送るためにサポートをし、学校や児童相談所など関係機関との連絡調整や、保護者との面接、自立支援計画作成などを担当した。

【オフィスアワー】

授業後に行う

【教員連絡先】

park.mikyung@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	教育実習(幼Ⅰ)	担当教員名	田中 路				
コード	22NUR432	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○		
年次／期間	3年次／集中	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】　280

幼稚園教職課程必修の実習として、幼稚園において2週間の観察・参加を主とした実習を行う。その際、可能な限り機会を頂いて、部分実習や絵本の読み聞かせ・手遊びなどの実践を体験することが望ましい。
毎日の観察・参加実習では、幼稚園教諭の一人として幼児に関わりながら、幼児の様子や保育の流れを捉え、毎日日誌に記入し必ず期日を守って園に提出する。
実習最終日には、実習反省会を実施していただき、反省や振り返りを日誌に記入して、実習終了後1週間以内に実習幼稚園に提出する。
なお、実習の詳細については「教育実習指導(幼Ⅰ)」の内容をしっかりと理解しておく必要がある。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 幼稚園の生活の一日の流れを知り、幼稚園の機能、社会的役割、幼児についての理解(発達・生活や遊びの様子)を深めることができる。			○
2 幼稚園の保育方法・内容を理解し、幼稚園教諭の役割や職務内容を説明することができる。			○
3 実習での様々体験や客観的な振り返りを通じて、自己の課題を明確にすることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修の実習として、 幼稚園において実施する。 (1) 実習園 原則として、学生の現住所付近の公共交通機関を用いて約1時間以内の 協力幼稚園において実施する。実習園の依頼は実習約1年前より手続きを行う。 (2) 実施時期 原則として、3年次6月の間の2週間を予定している。 実習の約3か月前には個人票を作成する。 1カ月前には実習園によるオリエンテーションを実施するので、 必ず出席すること。授業期間ではない時期にも準備があるので 掲示によって連絡する。 (3) 実習形態 観察・参加実習を主とするが、可能な限り部分実習(要指導案)の 機会をいただき、実習園の指導方針にしたがって実習を行う。	田中	・日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に 参加しておくことが望ましい。 ・健康管理を充分しておくこと (実習生としての活動に支障がある場合、実習に参加できないこともある)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・巡回指導の際に学生から聞かれた質問に対しては、即時に回答及び助言を加える。
・実習日誌の指導に関しては、巡回指導の際に必要な箇所をその場で指導する。

【成績の評価方法】

・実習園からの成績評価をもとに、実習日誌への適切な記入、関係書類(オリエンテーション報告書、実習報告書等)の適正な提出により総合的に評価する。
・但し、実習後以下のことを怠った場合は、実習単位は認められない。
(1) 大学に対して、実習日誌・報告書を定められた期限に提出できなかった場合。
(2) 実習園に対して、必要な書類等の提出・受取ができなかった場合。

【生成AI利活用 (無)】

【 ルーブリック評価の活用 (無) 】

【履修申請上の条件】

・幼稚園教職課程必修である。並行して事前事後指導の「教育実習指導(幼I)」を必ず受講しなければならない。
・健康状態や生活態度が芳しくない者については、実習を認めない場合がある。
・大学で実施する健康診断を受けておくこと。必要な予防接種は済ませておくこと。
・実習実施にあたっては、その内容等は実習園の指示に従うこと。

【教科書】

・教育実習指導(幼I)の授業で、適宜プリントを配布するので、各自ファイルして熟読しておくこと。
・他に、教育実習指導で配布した実習の手引き及び実習日誌を必ず持参すること。

【参考書】

・文部科学省(2017)『幼稚園教育要領』フレーベル館
・文部科学省(2018)　幼稚園教育要領解説　フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

水曜日　12:10～13:00

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

協力実習園での実習となる。実習に際しては次の点に留意すること。
(1) 実習園から提出を求められた書類(健康診断書や細菌検査等)については、各自で各証明書を手配すること。
(2) 実習前に実習園でのオリエンテーションを受ける。オリエンテーション後は、その内容については実習日誌の所定の欄に記載し、同時に「実習園オリエンテーション報告書」を速やかに担当教員に提出すること。
(3) 実習期間中は実習園の実習方針に従って実習を行い、日々の実習内容を実習日誌に整理し、実習園の指導者に提出すること。指導案等の提出が必要な場合は、実習園の指示に従って遅延なく提出し指導を受けること。
(4) 実習終了後は実習施設の指示に従って実習日誌などの提出・受取を確実に行い、終了後すみやかにお礼状をお送りすること。
(5) 実習中のアルバイトは禁止である。実習前1週間もアルバイトは控え、体調を万全にして実習に臨むこと。
(6) 実習中の遅刻は厳禁である。欠勤もしないよう、実習前より健康管理をしっかり行うこと。
(7)幼稚園及び大学への提出物は、締め切りを厳守すること。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	教育実習指導(幼Ⅰ)	担当教員名	小川 清美・田中 路				
コード	22NUR433	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○		
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】　251

幼稚園教諭を志す学生は、幼稚園教職課程必修の教育実習(幼Ⅰ・幼Ⅱの計4週間)を行う必要がある。本科目は、前述した実習に向けた事前事後指導を行う授業である。
事前指導では、幼稚園の概要、幼稚園教諭の職務、教育実習に向けた具体的な取り組み等について学ぶ。さらに、保育計画の立案及び模擬保育の実施など、
実践的な取り組みを通して実習に必要な保育技術の基礎を身に付けていく。事後指導では、各自の実習を振り返り、他学生と共有し、幼稚園や幼稚園教諭についての理解を深め、
次の実習に向けて自己課題を明確にしていく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー ①	②	③
1 事前指導:幼稚園教育実習についての概要を理解し、実習に必要な保育技術の基礎を習得することができる。			○
2 事後指導:各自の実習を振り返り、互いの実習体験を共有することを通して、次の実習に向けての自己の課題を明確にすることができる。			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	シラバスに沿った本授業の説明 実習事務書類の配布・説明	小川・田中	予習(30分):シラバスを一読し、授業内容を理解する。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
2	幼稚園に関する理解を深める ―幼稚園の概要、役割、一日の生活の流れ等―	小川・田中	予習(30分):各自の実習先を調べておく。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
3	幼稚園実習の意義と目的、実習の種類について ―観察実習と参加実習―	小川・田中	予習(30分):幼稚園の概要を調べ、まとめておく。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
4	幼稚園実習に臨むにあたりテーマを設定する	小川・田中	予習(30分):実習の手引きp.7を一読し、各自のテーマを考える。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
5	幼稚園教諭の専門性:環境を通して行うものとは	小川・田中	予習(30分):保育内容演習・環境の授業内容を再確認する。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
6	実習日誌の書き方①:基礎編 ―実習日誌の意義と目的、記録の形式について―	小川・田中	予習(30分):実習日誌の事前学習の項目を記入しておく。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
7	実習日誌の書き方②:時系列記録 ―ビデオ教材を活用した記録の実際―	小川・田中	復習(60分):授業内で実施した時系列記録を完成させる。
8	実習日誌の書き方③:事例と考察(基礎編) ―エピソード記録とは何か、記入のポイントについて―	小川・田中	予習(30分):これまでに子どもと関わった経験をエピソードとしてまとめておく。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
9	実習日誌の書き方④:事例と考察(応用編) ―記録の実際:ビデオ教材を用いて記録を作成―	小川・田中	復習(60分):授業内で実施した事例と考察記録を完成させる。
10	部分実習について、模擬保育について ―部分実習・指導案作成の目的、指導案の立案等―	小川・田中	復習(60分):部分実習の指導案を完成させる。
11	模擬保育の実際①(前半グループ) ―模擬保育の実施及び振り返り―	小川・田中	予習(30分):発表に向けた準備をする。 復習(30分):発表を振り返り、今後の課題を整理する。
12	模擬保育の実際②(後半グループ) ―模擬保育の実施及び振り返り―	小川・田中	予習(30分):発表に向けた準備をする。 復習(30分):発表を振り返り、今後の課題を整理する。
13	教育実習(幼Ⅰ)直前指導 ―実習の手引き及びチェックリストに沿った確認、実習の評価について等―	小川・田中	復習(60分):これまでの授業内容及び実習の手引きを再確認する。実習に向けた準備。
14	事後指導①:教育実習(幼Ⅰ)の振り返り ―実習の振り返り、報告書の作成、発表に向けた準備等―	小川・田中	予習(30分):実習終了後に記入する書類を作成する。 復習(30分):各自の実習を振り返り、まとめておく。
15	事後指導②:実習報告会 ―報告書に基づいての発表、自己の課題の導出、幼Ⅱ実習に向けて等―	小川・田中	予習(30分):実習報告会に向けた準備をする。 復習(30分):実習報告会を振り返り、今後の課題を整理する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	・授業は主にプロジェクター(パワーポイント)を用いて説明する。 ・演習場面においては、子どものビデオ教材を活用して記録の作成やグループワーク等を実施する。 ・学生の立案した保育案等においては、学生同士が共有できる方法としてGoogleドライブを活用して可視化・共有する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・授業内で提示した課題等については、授業内で回収し、次回の講義でフィードバックを行う。
・フィードバックの方法としては、各提出物にコメントを入れて返却する。

【成績の評価方法】

授業への参加度（授業に対する取り組みや課題の実施等）：80％、必要書類の提出：20％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

・教育実習（幼I）を履修する場合には必ずこの実習指導を受講しなければならない。
・GPAが1.5以上であること及び実習の手引きに記載されている先修条件を満たしていること。
・学外学習のための事前事後指導という性格上、出席状況が良好でない（出席率85％以上でない）時は、実習を許可しない場合がある。
・本実習指導は学外実習の一部であるという認識をもち、真剣な態度で臨むこと。

【教科書】

・授業内で適宜プリントを配布するので、各自ファイルして熟読しておくこと。
・配布した実習の手引き及び実習日誌を必ず持参すること。

【参考書】

・文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』フレーベル館
・文部科学省（2018）　幼稚園教育要領解説　フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

水曜日　12:10～13:00

【教員連絡先】

kogawa@g.t-junshin.ac.jp
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくことが望ましい。
・健康管理を充分しておくこと（実習生としての活動に支障がある場合、実習に参加できないこともある）。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	教育実習(幼Ⅱ)	担当教員名	田中 路				
コード	19NUR434	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○		
年次／期間	4年次／集中	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

幼稚園教職課程における実習として、幼稚園での2週間の参加・指導を主とした実習を行う。教育実習(幼Ⅰ)における実習の経験及び自己の課題を踏まえ、実際の保育者を想定した上で
様々な目標や計画を立て、目標及び計画に基づいて実践していく。保育終了後は、担当の幼稚園教諭より指導・助言をいただき、その内容を踏まえて実習日誌の記録を作成し、自らの保育実践を振り返る。
自身の客観的な評価をもとに、
新たな目標・計画を立てて翌日の保育に臨むという一連の取り組みを積み重ねていく。
なお、実習期間中は部分実習・責任実習(1日実習)の機会をいただき、指導実習を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 幼稚園教諭としての職務を理解し、指導案の立案・保育準備が自分でできるようになる。			○		
2 部分実習や責任実習を通して、保育実践における自己の課題を見出し、克服の方法を探求することができる。			○		
3 幼稚園教諭として責任ある態度や行動を身に付け、幼稚園教諭として適切な言葉かけが行えるようになる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修の実習として、 幼稚園において教育実習を行うものである。 (1) 実習園 原則として、学生の現住所付近の公共交通機関を用いて1時間以内の 協力幼稚園において実施する。実習園への依頼は約1年前から手続きを始める。 (2) 実習時期 原則として、4年次6月の2週間を予定している。実習前の2ヶ月前には 個人票を作成する。実習1カ月前には実習園へオリエンテーションを実施する。 (3) 実習形態 実習園の指導方針に従って実習を行う。部分実習や責任実習では、 自分で立案、実践、振り返りを行うとともに、実習園の指導者の助言をもとに、 次につなげていけるよう努力すること。 実習後は、反省や振り返り、自己のテーマについてなどのページを 漏れなく記入し、実習終了後1週間以内に実習園に提出する。	田中	・保育者の仕事は、同僚や家庭、地域との連携など様々な人と関わるため、コミュニケーション力と 他者と協働する力が求められる仕事である。 そのため、受講生は日頃から礼儀、言葉遣い・態度に気をつけ、学校行事や課外活動などを通して、 積極的に協働的な活動に参加しておくことが望ましい。 ・健康管理を充分しておくこと (実習生としての活動に支障がある場合、実習に参加できないこともある)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・巡回指導の際に学生から聞かれた質問に対しては、即時に回答及び助言を加える。
・実習日誌の指導に関しては、巡回指導の際に必要な箇所をその場で指導する。

【成績の評価方法】

・実習園からの成績評価をもとに、実習日誌への適切な記入、関係書類(オリエンテーション報告書、実習報告書等)の適正な提出により総合的に評価する。
・但し、実習後以下のことを怠った場合は、実習単位は認められない。
(1) 大学に対して、実習日誌・報告書を定められた期限に提出できなかった場合。
(2) 実習園に対して、必要な書類等の提出・受取ができなかった場合。

【生成AI利活用 (無)】

【 ルーブリック評価の活用 (無) 】

【履修申請上の条件】

・幼稚園教職課程必修である。並行して事前事後指導の「教育実習指導(幼II)」を必ず受講しなければならない。
・「教育実習(幼Ⅱ)」の実施にあたっては、事前に「教育実習指導(幼Ⅰ)」「教育実習(幼Ⅰ)」の全ての単位が認定されていること。
・健康状態や生活態度が芳しくない者については、実習を認めない場合がある。
・大学で実施する健康診断を受けておくこと。必要な予防接種は済ませておくこと。
・実習実施にあたっては、その内容等は実習園の指示に従うこと。

【教科書】

・教育実習指導(幼II)の授業で、適宜プリントを配布するので、各自ファイルして熟読しておくこと。
・他に、教育実習指導で配布した実習の手引き及び実習日誌を必ず持参すること。

【参考書】

・文部科学省(2017)『幼稚園教育要領』フレーベル館
・文部科学省(2018)　幼稚園教育要領解説　フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

水曜日　12:10～13:00

【教員連絡先】

m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

協力実習園での実習となる。実習に際しては次の点に留意すること。
(1) 実習園から提出を求められた書類(健康診断書や細菌検査等)については、各自で各証明書を手配すること。
(2) 実習前に実習園でのオリエンテーションを受ける。オリエンテーション後は、その内容については実習日誌の所定の欄に記載し、同時に「実習園オリエンテーション報告書」を速やかに担当教員に提出すること。
(3) 実習期間中は実習園の実習方針に従って実習を行い、日々の実習内容を実習日誌に整理し、実習園の指導者に提出すること。指導案等の提出が必要な場合は、実習園の指示に従って遅延なく提出し指導を受けること。
(4) 実習終了後は実習施設の指示に従って実習日誌などの提出・受取を確実に行い、終了後すみやかにお礼状をお送りすること。
(5) 実習中のアルバイトは禁止である。実習前1週間もアルバイトは控え、体調を万全にして実習に臨むこと。
(6) 実習中の遅刻は厳禁である。欠勤もしないよう、実習前より健康管理をしっかり行うこと。
(7) 幼稚園及び大学への提出物は、締め切りを厳守すること。

現代文化学部　　2024(令和6)年度

授業科目名	教育実習指導(幼Ⅱ)	担当教員名	小川 清美・田中 路				
コード	19NUR435	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○		
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保有・教育全般への思考力・判断力を身につける。
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

【授業の概要】

幼稚園教職課程必修の実習として、幼稚園における2週間の教育実習を行う。本科目は、そのための事前事後指導を行う授業である。事前指導では、教育実習(幼Ⅰ)の課題を踏まえ、
実際の実習に向けた準備を行う。
特に、教育実習(幼Ⅱ)では責任実習(一日実習)を任せられることを想定し、前記した実習に向けての心構え、具体的な内容、指導のポイントなどを説明し、模擬保育等を通じて実践的に取り組むこととする。
事後指導では、実習についての各自の振り返りを皆で共有しながら、幼稚園及び幼稚園教諭の理解を深め、保育現場で勤めるにあたっての自己の課題を再認識し、克服すべき方法を探求する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 事前指導:教育実習(幼稚園)の意義や目的を理解した上で、保育に必要な指導案の立案及び立案に沿った保育実践ができる。			○		
2 事後指導:各自の実習を振り返り、互いの体験を共有することを通して、幼稚園教諭としての課題を明確にすることができる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション、シラバスに沿った本授業の説明 実習事務書類の配布・説明	小川・田中	予習(30分):シラバスを一読し、授業内容を理解する。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
2	幼稚園実習(幼Ⅱ)の意義と目的 ―参加実習と指導実習について―	小川・田中	予習(30分):実習の手引きp.1-4,p.7を一読する。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
3	実習園についての理解、実習テーマの決定 ―実習園の調べ学習・紹介、実習に向けたテーマを考える―	小川・田中	予習(30分):各自の実習先インターネットを活用して調べておく。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
4	実習に向けた心構え	小川・田中	予習(30分):実習日誌の事前学習の項目を記入しておく。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
5	幼稚園の機能と役割 ―保育所・認定こども園との比較をもとにした幼稚園の特徴理解―	小川・田中	予習(30分):実習日誌の事前学習の項目を記入しておく。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
6	実習日誌の書き方①:時系列編 ―記録の目的について、ビデオ教材を用いた記録の実際―	小川・田中	復習(60分):授業内で実施した時系列記録を完成させる。
7	実習日誌の書き方②:事例と考察編 ―エピソード記録のポイント、ビデオ教材を用いた記録の実際―	小川・田中	復習(60分):授業内で実施した事例と考察記録を完成させる。
8	責任実習について① ―責任実習の意義と目的、幼稚園の一日の生活の流れについて―	小川・田中	予習(30分):教育実習(幼Ⅰ)の実習日誌を参考に1日の生活の流れを確認する。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
9	責任実習について② ―項目ごとの内容及び指導案作成のポイント理解―	小川・田中	予習(30分):前回の講義内容を再確認する。 復習(30分):授業内容を理解し、まとめておく。
10	責任実習について③ ―責任実習の指導案作成、模擬保育に向けた準備―	小川・田中	復習(60分):部分実習の指導案を完成させる。
11	責任実習について④ ―前半グループの模擬保育実施及び振り返り―	小川・田中	予習(60分):発表に向けた準備をする。 復習(30分):発表を振り返り、今後の課題を整理する。
12	責任実習について⑤ ―後半グループの模擬保育実施及び振り返り―	小川・田中	予習(60分):発表に向けた準備をする。 復習(30分):発表を振り返り、今後の課題を整理する。
13	教育実習(幼Ⅱ)直前指導 ―実習の手引き及びチェックリストに基づいた実習中・実習後の説明―	小川・田中	復習(60分):これまでの授業内容及び実習の手引きを再確認する。実習に向けた準備。
14	事後指導①:教育実習(幼Ⅱ)の振り返り ―実習の振り返り、報告書の作成、発表に向けた準備等―	小川・田中	予習(30分):実習終了後に記入する書類を作成する。 復習(30分):各自の実習を振り返り、まとめておく。
15	事後指導②:実習報告会 ―報告書に基づいての発表、幼稚園教諭の実際に向けた 自己の課題の導出等―	小川・田中	予習(30分):実習報告会に向けた準備をする。 復習(30分):実習報告会を振り返り、今後の課題を整理する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	・授業は主にプロジェクター(パワーポイント)を用いて説明する。 ・演習場面においては、子どものビデオ教材を活用して記録の作成やグループワーク等を実施している。 ・学生の立案した保育案等においては、学生同士が共有できる方法としてGoogleドライブを活用して可視化・共有する。 ・実習報告会では、学生がパワーポイントを用いて資料を作成し、発表することとする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・授業内で提示した課題等については、授業内で回収し、次回の講義でフィードバックを行う。
・フィードバックの方法としては、各提出物にコメントを入れて返却する。

【成績の評価方法】

授業への参加度（授業に対する取り組みや課題の実施等）:80%、必要書類の提出:20%
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

・幼稚園教職課程必修である。教育実習（幼II）を履修する場合には必ずこの実習指導を受講しなければならない。
・教育実習（幼I）及び教育実習指導（幼Ⅰ）を履修済みであること。
・GPAが1.5以上であること及び先修条件を満たしていること。
・学外学習のための事前事後指導という性格上、出席状況が良好でない（出席率85%以上でない）時は、実習を許可しない場合がある。
・本実習指導は学外実習の一部であるという認識をもち、真剣な態度で臨むこと。

【教科書】

・授業内で適宜プリントを配布するので、各自ファイルして熟読しておくこと。
・配布した実習の手引き及び実習日誌を必ず持参すること。

【参考書】

・文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』フレーベル館
・文部科学省（2018）　幼稚園教育要領解説　フレーベル館

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

水曜日　12:10～13:00

【教員連絡先】

kogawa@g.t-junshin.ac.jp
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくことが望ましい。
・健康管理を充分しておくこと（実習生としての活動に支障がある場合、実習に参加できないこともある）。